











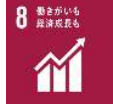



神奈川県  
SDGs社会的インパクト評価実証事業（2019年度）

実証事業レポート

2020年3月25日  
ケイスリー株式会社

# はじめに

- 評価実証を、Fujisawaサステイナブル・スマートタウン（FSST）の2事業と、その他2事業で実施した。実証事業には、関係する金融機関の協力も得た。

参加企業 (協力金融機関)		対象事業	事業概要	関連するSDGs (ターゲット)
1	Fujisawa SST協議会 (パナソニック株式会社、 株式会社学研ココファン)	全ての世代が安心して暮らすためのコミュニティケアの普及	コミュニティケアの普及を目指して取り組む (1) サービス付き高齢者住宅における職員の勤務形態の多様化、 (2) 交流イベントの企画・運営。	 (3.8)  (8.2)  (11.3)
2		エコ&スマートな暮らしの実現	太陽光パネルや蓄電池、省エネ設備の導入、再生可能エネルギーの使用等による、街全体での二酸化炭素排出量の大幅削減。「自立共生型エネルギー・マネジメント」による住宅におけるエネルギーの効率活用。	 (7.2)  (9.4)  (11.3)  (12.8)  (17.17)
3	株式会社インターネットインフィニティー (投資信託会社)	レコードブック事業	高齢者の健康寿命延伸を目的とした「健康と笑顔をつくる」3時間リハビリ型デイサービス。	 (3.8)  (8.5)
4	株式会社リエゾンワークス (きらぼし銀行)	コンビニエコレジ袋 広告事業	コンビニへのエコレジ袋の無償提供。エコレジ袋に広告チラシを封入することで無償提供を可能にし、封入作業自治体と連携し福祉作業所に依頼。	 (8.5)  (10.2)  (12.8)  (13)

- 
1. Fujisawa SST コミュニティケアの取り組み
  2. Fujisawa SST スマート&エコな暮らしの実現
  3. インターネットインフィニティー社のビジネスを通じた社会的価値の創出
  4. リエゾンワークス社のビジネスを通じた社会的価値の創出

2019年度 神奈川県 SDGs社会的インパクト評価実証事業  
実証事業 報告書

# Fujisawaサステイナブル・スマートタウン（Fujisawa SST） におけるコミュニティケアの普及

2020年3月25日

ケイスリー株式会社

本レポートは、Fujisawaサステイナブル・スマートタウンのコミュニティケア事業について、社会的インパクト・マネジメントの手法を用い、特にSDGsの観点から地域住民が安心して暮らせるコミュニティづくりに向けたシナリオ・現状・課題を分析し、今後に向けた施策を検討したものです。

## 目次

### 本編

#### サマリー

1. 対象事業の概要
2. 社会的インパクト・マネジメント実施の目的
3. SDGs達成への貢献シナリオ
4. 価値創出力を高めるために ～社会的インパクト・マネジメントから得られた教訓～

### 添付

- I. 事業内容・目標とSDGsゴールとの関連付け
- II. 指標・評価デザイン
- III. データ分析結果

## Fujisawaサステイナブル・スマートタウンにおけるコミュニティケアの普及を目指して

### 本実証事業の目的（詳細p4-5）

- Fujisawaサステイナブル・スマートタウンの掲げる「全ての世代が安心して暮らすためのコミュニティケアの普及」を目指し、学研ココファンが主となり実施している取り組み（サービス付き高齢者住宅の勤務形態の多様化と交流事業の実施）を対象にした実証事業である。
- 社会的インパクト・マネジメントを通じてその成果の可視化および改善策の検討を行い、SDGsの達成に貢献していく。

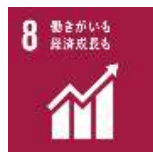
### 理解されたこと（詳細p8-12）

- サービス付き高齢者住宅（以下、サ高住）の短時間勤務スタッフ（非専門職）の雇用を進めることで、サ高住の担い手の増加と専門職の負担軽減に励んでいる。短時間勤務スタッフの満足度は高い。
- 交流事業の実施をとおして、住民同士の交友関係の広がりや他者に対する理解の促進において一定の効果が見られる。
- 住民の交流事業の運営に関する参加意欲やその機会は限られており、主体性の広がりあまり見られない。
- 交流事業への参加が、身体面、精神面、知的面において一定の効果があると参加者が感じている。
- 以上より、コミュニティケアの普及に向けて学研ココファンが推める取り組みは一定の効果があると言える。

### 改善・更なる向上のための施策案（詳細p13）

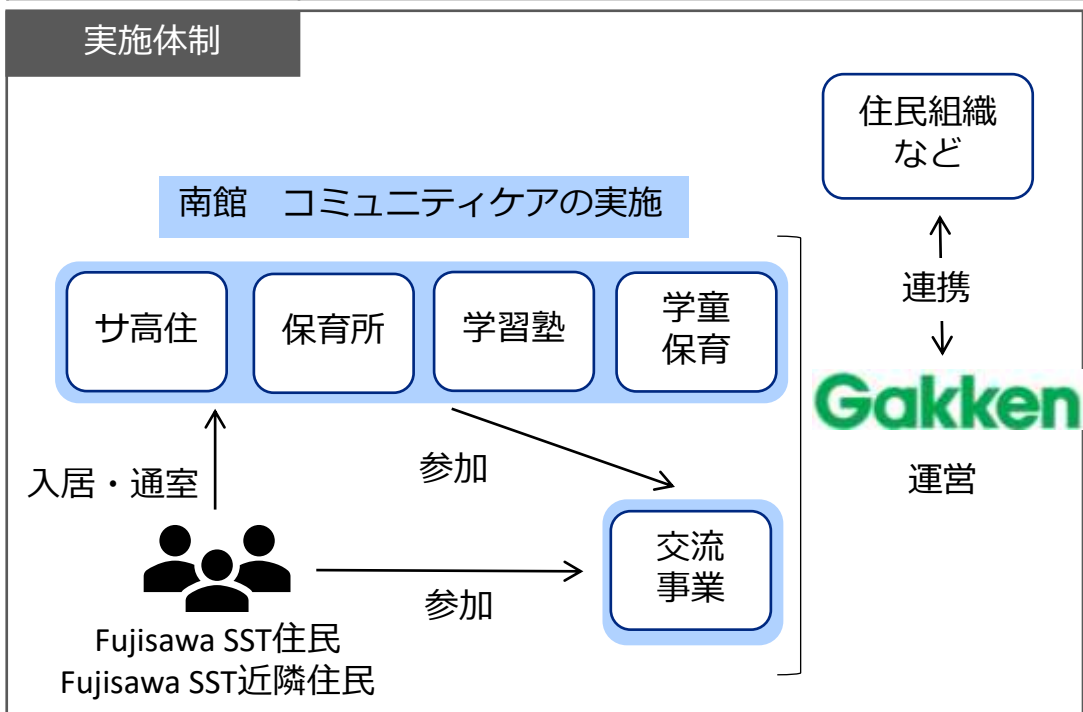
- 短時間勤務スタッフの雇用が、専門職の負担軽減と満足度向上に繋がっているのか調査する必要がある。
- 交流の活発さや参加者の交流ニーズについてはイベントごとにばらつきがあるため、まずは運営側でイベントの目的および運営方法の再確認を行うことが求められる。また交流を主目的の一つにする場合は、その機会を設けるなどの工夫が望まれる。
- 住民の交流事業運営への参画については、運営側も積極的に周知をしてこなかったため、まずは参加者への周知と声掛けが必要だと思われる。
- 交流事業への参加や交流機会の拡大が住民のウェルビーイングにどれだけ寄与しているかを今後明らかにしたい場合には、評価デザインの再検討が必要になる。

### 関連するSDGs



# 1 対象事業の概要

組織名／事業名	Fujisawa SST協議会／全ての世代が安心して暮らすためのコミュニティーケアの普及 ※コミュニティーケアとは：街にかかわるすべての人に対して、世代をこえたつながりと助け合いを通じて、にぎわいと生きがいを提供し、ずっと健康で自分らしくいられる、心ゆたかな暮らしを実現します。
事業概要	コミュニティーケアの普及を目指して学研ココファンが取り組む 1) サービス付き高齢者住宅（以下、サ高住）における職員の勤務形態の多様化 および 2) 交流イベントの企画・運営
事業対象者	サ高住の住民、Fujisawa SST住民、Fujisawa SST近隣の住民
事業が取り組む社会的課題	全国的に高齢化が深刻化する中で、成り立ちの背景から地縁組織による助け合いが不在であるFujisawa SSTでは、まちに住む全ての世代が各々の課題に直面する中で、フォーマル（制度、サービス等）およびインフォーマル（つながり等）の仕組みが上手く機能し、全世代が安心して暮らすことの出来る持続可能なコミュニティをつくる必要があります。
事業戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェルネススクエア南館（以下、南館）に、サ高住、保育所、学習塾、交流拠点を併設し「つながり」を生みだす</li> <li>多世代を対象にした交流イベントを頻繁に学研ココファンが企画し交流を促進</li> </ul>



## （交流事業例1：囲碁教室）

- 市民団体の囲碁普及会により月2回の頻度で実施
- 子供から大人まで各回10名前後の参加がある

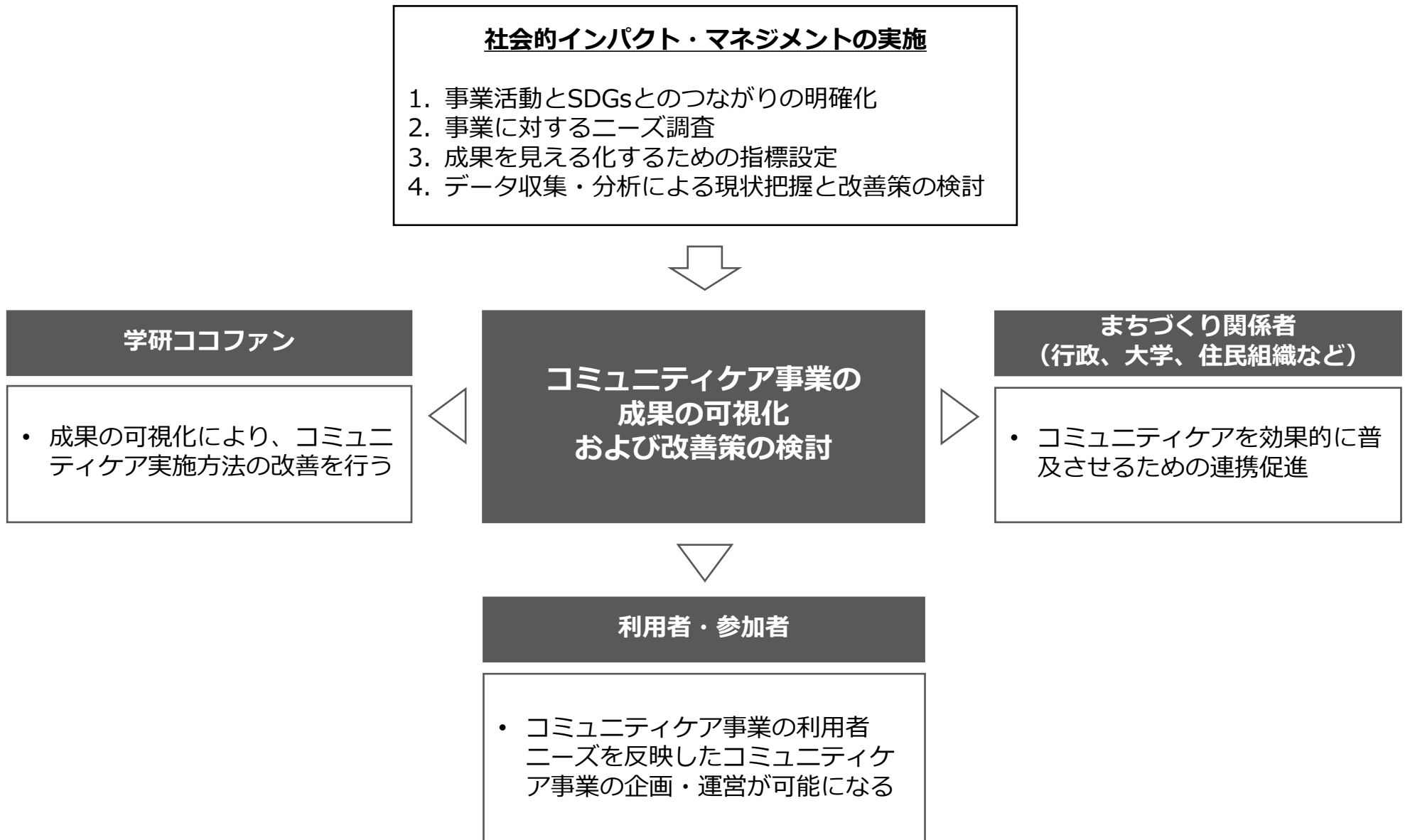


## （交流事業例2：お話し会）

- 子育て経験のある女性二人による「はまちゃん・はまちゃん おはなし会」
- 保育所の園児や住民が参加



## 2 社会的インパクト・マネジメント実施の目的

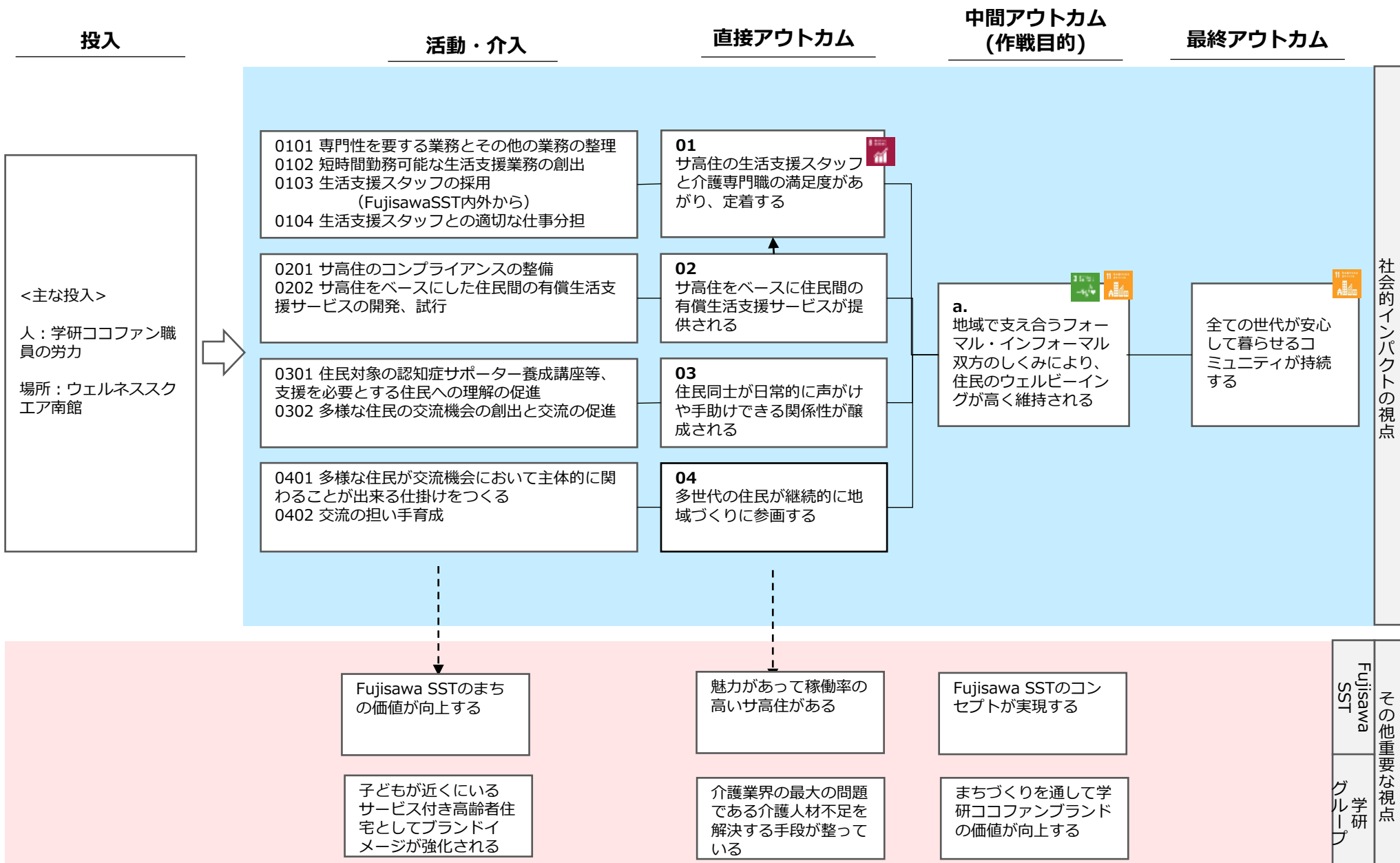







# 3 SDGs達成貢献へのシナリオ

## 事業目標

Fujisawa SSTに、地域で支え合うフォーマル・インフォーマル双方の仕組みが構築されることで、全世代が高いウェルビーイングを維持しながら安心して暮らし続けることができる

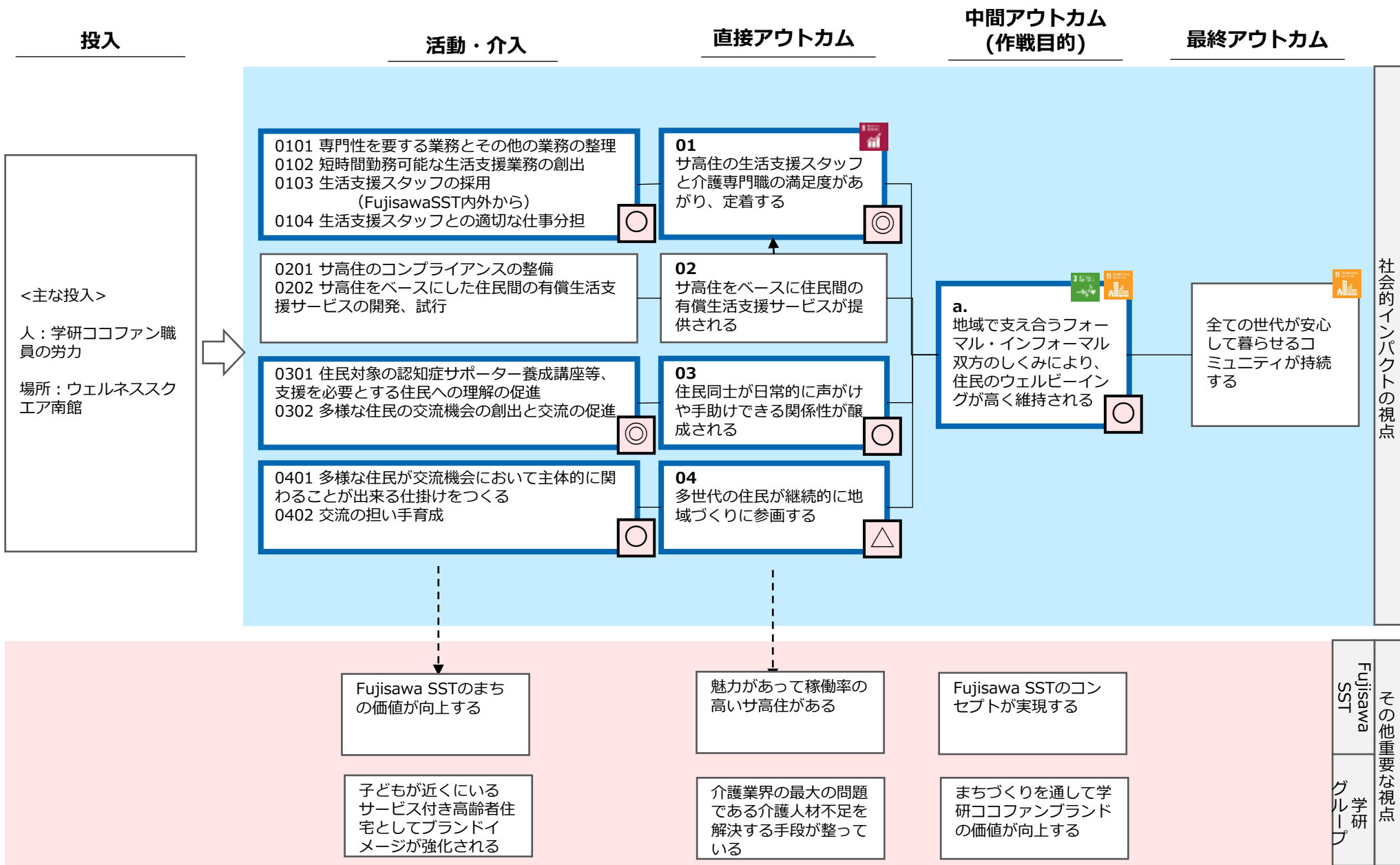


紐づけた SDGsターゲット	ターゲット紐づけの解釈と理由
 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p> <p>あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する（ゴール3）</p>	<p>コミュニティケアの普及による全ての世代のQOL向上は、ターゲットレベルでは紐づきがないが、「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」というゴールで紐づけられる。</p>
 <p>8 働きがいの経済成長</p> <p>高付加価値セクターや労働集約型セクターに重点を置くことなどにより、多様化、技術向上及びイノベーションを通じた高いレベルの経済生産性を達成する。(8.2)</p>	<p>労働集約型セクターにあたる介護業界は深刻な人手不足が課題となっており、南館にあるサ高住も例外ではない。特に、専門職の大きい業務負担と不安定な定着率が問題となっていた。</p> <p>そのため、短時間勤務の生活支援スタッフ（非専門職）の雇用による勤務形態の多様化をすすめ、適切な業務分担により効果的、効率的な仕事を推進している。</p>
 <p>11 住み続けられるまちづくり</p> <p>2030年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、全ての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。(11.3)</p>	<p>最終アウトカムになっている「全ての世代が安心して暮らせるまちづくり」は包摂的な社会をつくることと同義である。</p> <p>また、コミュニティケアは住民の参加によって支えられる仕組みであり、実際に住民参加の機会提供および促進が積極的に行われている。</p>

### 3 SDGs達成貢献へのシナリオ：検証（まとめ）

凡例はP8参照

検証対象となる項目



### 3 SDGs達成貢献へのシナリオ（検証）①

- シナリオを検証するため、重要かつ測定可能な変化について指標を立て、測定した。

	活動・介入	アウトカム
凡例	◎ 活動・介入は適切であり、更に成果を増大させる施策や働きかけが期待される。	良好な結果であり、特段の課題はない。更なる成果の増大が期待される。
	○ 活動・介入は部分的に適切である。ただし、改善策を検討し実施する必要が一定程度ある。	概ね良好な結果だが、一部に課題が見られる。改善策の検討・実施を要する。
	△ 課題があり、改善すべき余地が十分にある。	課題があり、改善すべき余地が十分にある。

主要な関係者

活動・介入

直接アウトカム

ココファン  
藤沢  
SST

0101 専門性を要する業務とその他の業務の整理  
0102 短時間勤務可能な生活支援業務の創出  
0103 生活支援スタッフの採用  
(Fujisawa SST内外から)  
0104 生活支援スタッフとの適切な仕事分担



**01**  
サ高住の生活支援スタッフと介護専門職の満足度が上がり、定着する

活動・介入

実施内容

評価

0101  
～  
0104

業務整理  
&  
生活支援スタッフの採用

- 専門性を有するスタッフの業務過多により職員が定着しないという問題点があったため、生活支援スタッフとして、ココファン藤沢SSTでは短時間勤務スタッフ（非専門職）の雇用を2019年度に開始した。
- 生活支援スタッフは、主に清掃、配食サービスなど専門スキルが不要な業務のみに携わっており、1日1時間以上、週1回以上という条件で勤務。

○

直接アウトカム

測定結果

評価

01

生活支援スタッフの高い満足度（直接アウトカムの一部）

- 職場環境、内容、やりがい、雇用条件に関する13の質問項目のうち8項目について、回答者の80%以上が前向きな認識「とてもそう思う」または「ややそう思う」を示した。
- 勤務理由の上位も雇用条件、職場環境、通勤の利便性に関するものが多く、期待値と現状の満足度が合致していると判断できる。Fujisawa SST住民で子育て中の女性が多く、勤務時間に融通が利くことが魅力的であるとの回答であった。

◎

### 3 SDGs達成貢献へのシナリオ（検証）②

主要な  
関係者

活動・介入

直接アウトカム

学研コ  
コファ  
ン&  
住民

0301 住民対象の認知症サポーター養成講座等、支援を必要とする住民への理解の促進  
0302 多様な住民の交流機会の創出と交流の促進

→

03

住民同士が日常的に声がけや手助けできる関係性が醸成される

活動・介入

実施内容

評価

0301  
～  
0302

住民を対象にし  
た講座の実施  
&  
交流事業の実施

- 定期開催と不定期開催を合計して年約360回の交流事業が実施されている。よって、平均すると1回/日の頻度でイベントが開催されている。
- 定期開催のイベントは全部で8つあり、全世代を対象としたものは約半数。
- 交流事業の目的は、健康リテラシー向上、多世代交流、健康増進の延伸、仲間づくりなど多様である。
- 交流の機会は提供しているが、促進に関する取り組みは途上である。

◎

直接アウトカム

測定結果

評価

03

住民同士が日常  
的に声がけや手  
助けできる関係  
性が醸成される

- 段階評定法（非常に当てはまる=5～まったく当てはまらない=1）を用いてアンケートを実施したところ、イベント全体において「すすんで交流している」に対する回答平均値は3.5となった。
- 一番交流が活発に行われているプラス・テン体操では、「すすんで交流している」は4.1、「他の参加者を思いやり気を配ったりする」は4.0、「他の参加者から学ぶことがある」は4.1となり、イベントにより偏りがある。

○

### 3 SDGs達成貢献へのシナリオ（検証）③

主要な  
関係者

活動・介入

直接アウトカム

学研コ  
コファ  
ン&  
住民

0401 多様な住民が交流機会において主体的に関わることが出来る仕掛けをつくる  
0402 交流の担い手育成



04

多世代の住民が継続的に地域づくりに参画する

活動・介入

実施内容

評価

0401  
～  
0402

主体的に交流事業に関わる機会の創出  
&  
交流事業の担い手育成

- ・ 将来的には、交流イベントがFujisawa SST住民や参加者により運営されることを目指しており、交流事業によっては、地域サークルと連携したイベント運営を試みている。たとえば、「おはなし会」は近隣住民の主婦グループによって、「囲碁教室」は囲碁普及会というボランティア組織によって運営されている。
- ・ 一方で、参加者が交流事業の担い手になる仕掛けや機会は未だ設けられていない。

○

直接アウトカム

測定結果

評価

04

多世代の住民が継続的に地域づくりに参画する

- ・ 回答者のうち38%が「交流事業のお手伝いをしたい」、33%が「交流事業において自身からすすんで取り組んでいることがある」と回答した。以上より、主体的な参画意欲は高くなく、また参画機会も限られていると思われる。
- ・ 一方で、「すすんでお手伝いをしたいと思う」について段階評定法（非常に当てはまる=5～まったく当てはまらない=1）を用いてアンケートを実施したところ、「歌声の会」は4.8となり参画への意欲は高いことが分かった。

△

### 3 SDGs達成貢献へのシナリオ（検証）④

- シナリオを検証するため、重要かつ測定可能な変化について指標を立て、測定した。

主要な  
関係者

中間アウトカム

住民

a.

地域で支え合うフォーマル・インフォーマル双方のしくみにより、住民のウェルビーイングが高く維持される

中間アウトカム

測定結果

評価

a

住民の高いウェルビーイングの維持

- 段階評定法（非常に当てはまる=5～まったく当てはまらない=1）を用いてアンケートを実施したところ、イベント全体では、「健康につながっていると思う」と「気持ちが前向きになる」が3.9、「頭の体操になっている／知的刺激になっている」は3.7であった。
- ただしイベントによって参加者が感じるウェルビーイングへの貢献度合いはバラつきがある。「歌声の会」は3つの項目において4.8と高くなっている。

○



## 4 SDGsへの貢献を高めるために ～社会的インパクト・マネジメントから見えた課題と施策案～

- 測定結果を踏まえ、以下の改善・更なる向上のための施策を実施する。

関係者の変化・成果	指標測定結果の解釈	改善・更なる向上のための施策案
<p><b>【学研ココファン】 生活支援スタッフの 高い満足度</b></p>	<p>職場環境、内容、やりがい、雇用条件に関する13の質問項目のうち8項目について回答者の満足度が高く、仕事を始めた理由とも合致している。よって、<b>仕事に対する期待感と実態の乖離が少ないと思われる。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意図している成果は、介護専門職の負担軽減および定着率の向上であるため、今後、<b>介護専門職スタッフに対しても同様の調査を実施することが望まれる。</b></li> <li>夕方から夜の時間帯において、<b>生活支援スタッフは依然として不足しており、人材確保が必要である。</b>場合にはターゲット層の変更も検討の余地がある。</li> </ul>
<p><b>【住民】 住民間の関係性の 醸成と深化</b></p>	<p>イベントごとのばらつきがある。理由として、<b>交流による住民間の関係性の醸成と深化について運営側が目的意識をもっているか、また、それを達成するための活動内容や運営方法になっているかが影響しているように思われる。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>住民の交流が活発化するような場所の設定</b>（例：朝市でのお茶スペースの設置）や声掛けをする等の雰囲気醸成がすぐに来る工夫としてあげられる。</li> <li>また、交流ニーズの有無、その理由、交流促進の仕掛けについて、<b>普段の参加者との会話から運営側が把握出来るようにしておく</b>と、効果的な介入が期待される。</li> </ul>
<p><b>【住民】 多世代の住民が継続的に 地域づくりに参画</b></p>	<p>実態として<b>住民の運営協力への参加は限られている。</b>一方で、運営側もそのような働きかけを今まで取り組んできていなかったため、妥当な結果であると思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>そもそも運営協力募集の旨を積極的に周知していないため、<b>まずは周知をしていくことが必要である。</b></li> <li>一方で、イベントの立ち上げ希望者や運営協力を申し出た者に対して、適切なサポートやコミュニケーションが出来るよう準備することが運営側にも求められる。</li> </ul>
<p><b>【住民】 住民の高い ウェルビーイング の維持</b></p>	<p>参加者の主観によるものではあるが、イベント参加は、一定程度<b>ウェルビーイングの向上に貢献していると思われる。</b>一方で、ロジックモデルに描いていた「交流」という要素のウェルビーイングの貢献度合いは不明瞭である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベント参加者のウェルビーイングは、<b>以上の取り組みを実施していくことで向上していくことが期待される。</b>一方で、イベントへの参加や交流機会のウェルビーイング向上への寄与度については、比較対象グループの設定し長期的に測定するなど評価デザインの再検討が必要になる。</li> </ul>



---

# 添付資料

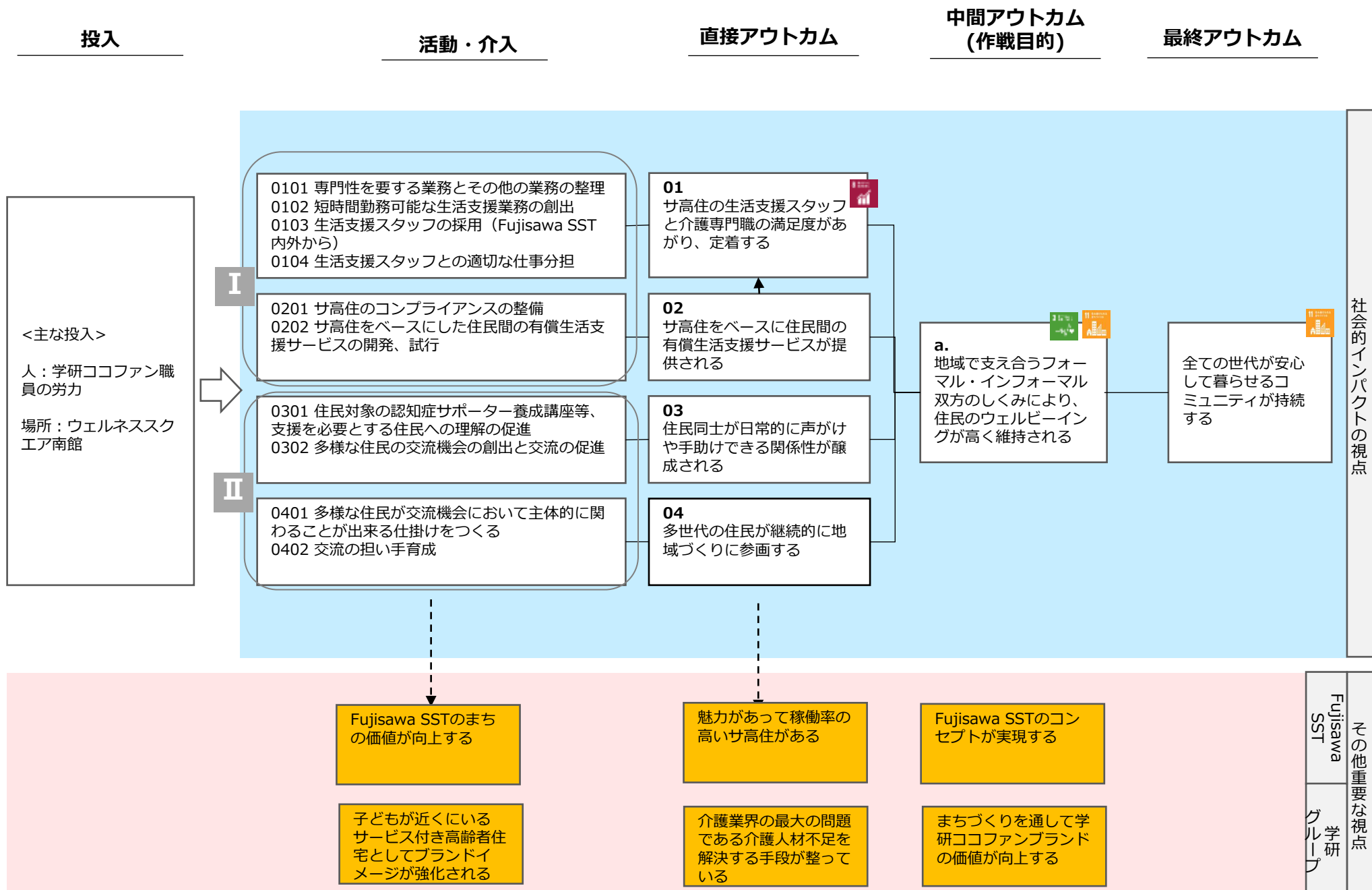
- I. 事業内容・目標とSDGsゴールとの関連付け
- II. 指標・評価デザイン
- III. データ分析結果

# I 事業内容・目標とSDGsゴールとの関連付け

SDGsゴール		正の影響のあるターゲット		負の影響を与えるターゲット
		コミットするターゲット	波及効果のありうるターゲット	
1	あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ	—	—	—
2	飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する	—	—	—
3	あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する	3	—	—
4	すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する	—	—	—
5	ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る	—	—	—
6	すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する	—	—	—
7	すべての人に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する	—	—	—
8	すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する	8.2	—	—
9	強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る	—	—	—
10	国内および国家間の格差を是正する	—	—	—
11	都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする	11.3	—	—
12	持続可能な消費と生産のパターンを確保する	—	—	—
13	気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る	—	—	—
14	海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する	—	—	—
15	陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る	—	—	—
16	持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する	—	—	—
17	持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する	—	—	—

## II- I 指標・評価デザイン：スケジュール

No.		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	マイルストーン	● キックオフ	● ロジックモデル 完成	● 指標と測定方法 設定		● アンケート 回収		● 結果 導出	● 学びの 抽出		● 最終報告
1	課題・事業内容整理	ヒアリング ・整理									
2	ロジックモデル作成		作成								
3	指標設定			指標セット 作成							
4	測定・分析				測定		分析				
5	学びの抽出 報告書作成									とりまとめ 作成	



# II-III 指標・評価デザイン：指標設計（1/2）

1 準備

2 ロジックモデル作成

3 データ収集

4 データ分析

5 解釈活用

評価目的	Fujisawa SSTにおけるサスティナブルなコミュニティケアを実現するために、初期段階の重要な介入・改善のポイントを発見する。
------	---

活動・介入/アウトカム		何を知りたいのか	指標 (太字が2019年度に測定する指標)	データ収集方法 (どう測るのか)	測定時期 (いつ測るのか)	測定者 (誰が集めるか)	調査票との対応
ニーズ	イ) サ高住住民のコミュニティケアのニーズ調査	サ高住が提供している「ふれあいサービス」以外で、Fujisawa SST内にて有償で依頼したい生活支援サービスへのニーズは有るのか	<b>日常生活で依頼したいと思う生活支援サービスの有無</b>	サ高住住民へのアンケート	9月	学研ココファン	【入居者】設問4
	ウ) Fujisawa SST住民のコミュニティケアのニーズ調査	Fujisawa SST内にて、有償で依頼したい生活支援サービスへのニーズは有るのか	日常生活で依頼したいと思う生活支援サービスの有無	Fujisawa SST住民へのアンケート	—	TMO	—
	オ) 交流機会のニーズ	住民間の交流ニーズはあるのか	<b>交流意欲（5段階主観調査）</b>	交流イベント参加者およびサ高住住民へのアンケート	9月	学研ココファン	【交流】設問2-6-f 【入居者】設問2
I	有償の生活支援サービスに関する活動全般（フォーマルなしくみ）	生活支援スタッフが採用され、適切な業務が提供出来ているか。（今年度は01XXの活動が対象）	生活支援スタッフの採用人数	生活支援スタッフの雇用状況	—	学研ココファン	—
		介護専門職の業務内容と業務量は適切か（今年度は01XXの活動が対象）	介護専門職の専門知識や技能を要しない業務に従事している時間数	介護専門職の業務日報	—	学研ココファン	—
II	住民間の関係構築に関する活動全般（インフォーマルなしくみ）	学研ココファンが運営している交流イベントが、住民間の交友関係の深化に貢献できているか（外で会う、表面的でない話をするようになる）	<b>イベントの回数・参加人数</b>	イベント運営に関する報告書	9月	学研ココファン	—
			<b>交流イベントやサ高住における交流の有無（5段階主観調査）</b>	交流イベント参加者およびサ高住住民へのアンケートおよびインタビュー	9月	学研ココファン 評価者	【交流】設問2-5、 設問2-6-a~e 【入居者】設問2
その他の視点	サ高住の入居申し込み増加を目指す活動全般	交流イベント参加者はサ高住を認知しているか	<b>サ高住の認知度（5段階主観調査）</b>	交流イベント参加者へのアンケート	9月	学研ココファン	【交流】 設問2-6-n~p

# II-III 指標・評価デザイン：指標設計（2/2）

① 準備

② ロジック  
モデル  
作成

③ データ  
収集

④ データ  
分析

⑤ 解釈  
活用

評価目的	Fujisawa SSTにおけるサステナブルなコミュニティケアを実現するために、初期段階の重要な介入・改善のポイントを発見する。
------	--

活動・介入/アウトカム		何を知りたいのか	指標 (太字が2019年度に測定する指標)	データ収集方法 (どう測るのか)	測定時期 (いつ測るのか)	測定者 (誰が集める か)	目指す結果・期待す る結果
01	サ高住の生活支援スタッフと介護専門職の満足度が上がり、定着する	採用された生活支援スタッフが満足度高く働き、定着しているか	<b>生活支援スタッフの職場や仕事に対する満足度（4段階主観調査）</b>	生活支援スタッフへのアンケートおよびインタビュー	9月	学研ココファン 評価者	【プチ勤務】 設問3, 4
			生活支援スタッフの定着率 (今年度の測定はなし)	生活支援スタッフの雇用契約を元に算出	—	学研ココファン	—
		従来、介護専門職のスタッフが専門職に専念し、満足度高く働くことが出来ているか	介護専門職の仕事満足度 (今年度の測定はなし)	介護専門職へのアンケートとインタビュー	—	学研ココファン	—
			介護専門職の継続率 (今年度の測定はなし)	介護専門職の雇用契約状況を元に算出	—	学研ココファン	—
02	サ高住をベースに住民間の有償生活支援サービスが提供される	開発された住民間の有償生活支援サービスが利用され、互いに助け合うコミュニティになっているか	サービスの利用率 (今年度の測定はなし)	有償支援サービスの利用者数をもとに算出	—	学研ココファン TMO	—
03	住民同士が日常的に声がけや手助けできる関係性が醸成される	サ高住住民やFujisawa SSTやイベント参加者間で関係性が深化しているか	<b>サ高住住民やFujisawa SSTやイベント参加者（Fujisawa SST住民が主）の交友関係の深さ（5段階主観調査）</b>	交流イベント参加者およびサ高住住民へのアンケートおよびインタビュー	9月	学研ココファン 評価者	【交流】 設問2-6-a~e、 設問3 【入居者】 設問2
04	多様な住民が継続的に地域づくりに参画する	単発の参加ではなく、継続して交流イベントに参加しているか	交流イベントへの参加回数と参加頻度 (今年度の測定はなし)	イベント参加者の参加記録	—	学研ココファン	—
		参加者がイベントの運営を主体的に参画しているか	<b>イベントでの運営協力の有無（5段階主観調査）</b>	同上	9月	学研ココファン 評価者	【交流】 設問2-6-g~j
a	地域で支え合うフォーマル・インフォーマル双方のしくみにより、住民のウェルビーイングが高く維持される	Fujisawa SSTの住民のウェルビーイングは高く維持されているか	<b>住民のウェルビーイング度（今年度はイベント参加者が対象）</b>	交流イベント参加者へのアンケートおよびインタビュー	9月	学研ココファン 評価者	【交流】 設問2-6-k~m
その他の 視点	Fujisawa SSTのサービス付き高齢者住宅の高い稼働率が維持される	学研ココファンが発信しているサ高住のブランドイメージはサ高住住民にとって魅力的か	<b>サ高住の魅力度（5段階主観調査）</b>	サ高住住民へのアンケート	9月	学研ココファン	【入居者】 設問3
		学研ココファンが発信したいサ高住のブランドイメージ戦略はサ高住の経営に寄与しているか	サ高住の入居率 (今年度の測定はなし)	学研ココファンのサ高住運営に関する報告書	—	学研ココファン	—

## 評価手法

本評価は、データ入手範囲および期間的な制約を受けて、以下の評価手法を用いる。

- ・ 評価時点：事後評価のみを実施する。介入前後の状態を比較するものではなく、介入後に実施するアンケートおよびインタビューにて、対象者に当初想定した便益や効果をもたらされているかを分析する。
- ・ 比較対象：無しとする。

## 評価デザインの課題

評価デザインの課題は以下のように考えられる。

- ・ 介入の寄与度について：本評価は比較対象を設定するものではなく、また、同じ対象グループの前後比較をするものではないため、観察された変化や成果が、果たして本介入によるものであるのか、その他の要因によるものなのかは明らかにすることが出来ない。一方で、一部の対象者にはインタビューを実施することにより、その因果関係の補足情報を得ることとする。
- ・ サンプルサイズについて：調査期間および対象事業の制約により、本事業のサンプルサイズは小さくなっており、統計的な有意性を担保することは難しい。

- 調査実施概要は以下のとおりである。

交流事業  
参加者向け  
アンケート  
+  
インタ  
ビュー

アンケート

実施時期：2019年9月～10月

対象：南館における交流事業参加者 72名（有効回答数48名）

実施方法：段階評定法および自由回答法を用いた

インタビュー

実施時期：2019年9月

対象：南館における交流事業への参加者 8名、運営者 5名

実施方法：個別インタビューおよびグループインタビュー

サ高住  
入居者向け  
アンケート

実施時期：2019年10月

対象：サ高住入居者 26名

実施方法：段階評定法および自由回答法を用いた

サ高住  
スタッフ  
向け  
アンケート  
+  
インタ  
ビュー

実施時期：2019年10月

対象：サ高住の生活支援スタッフ 9名

実施方法：アンケートは段階評定法および自由回答法を用いた  
アンケート実施後に個別インタビューを実施した



- 南館で開催されている年間の交流事業は以下のとおり。アンケートおよびインタビューを実施したのは、一部となっている。
- 定期開催と不定期開催を合計すると、年間約360回のイベントが企画・運営されている。つまり、平均してほぼ毎日イベントが開催されていることになる。

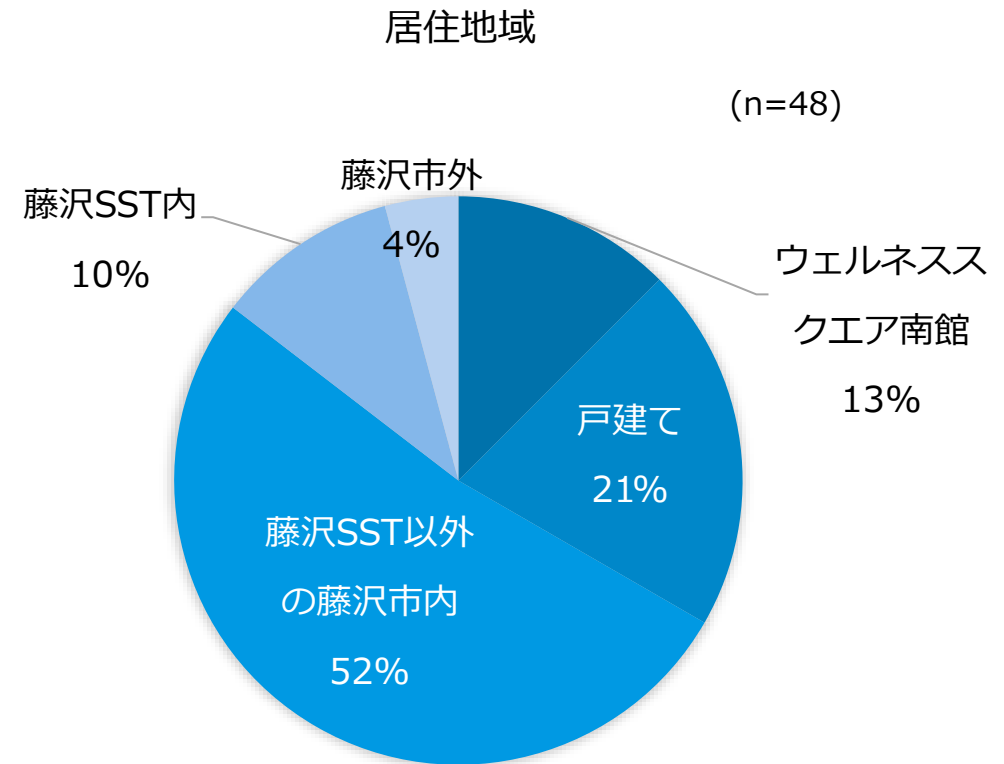
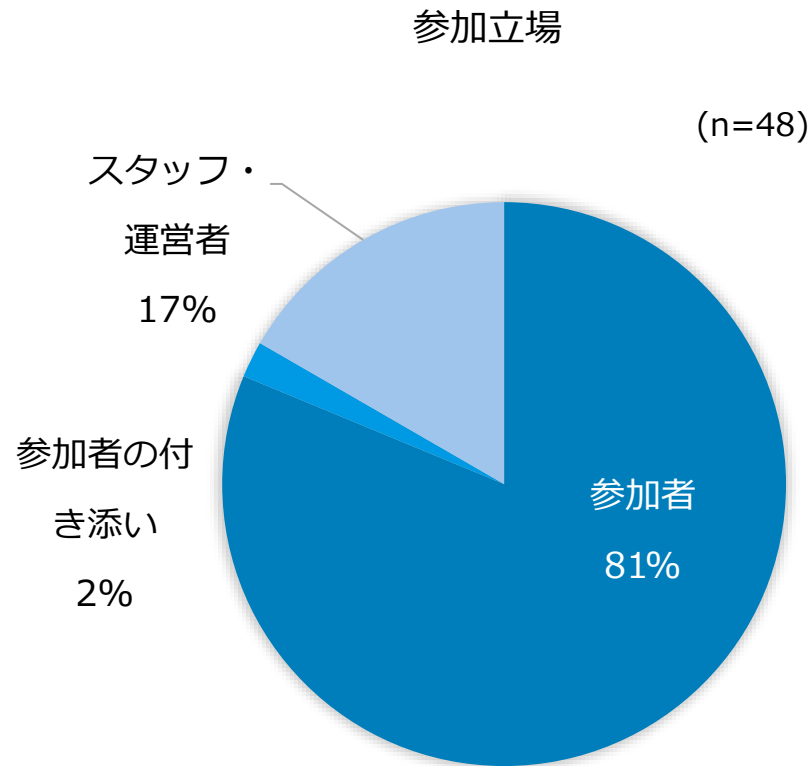
定期開催されているイベント（2018年9月～2019年8月）

イベント名 (一部、期間限定)	頻度	参加人数/回	主対象者	アンケート 実施事業	インタビュー 実施事業
プラス・テン体操	平日毎日	5～10名	全世代	○	
囲碁教室	月2回	15名前後	全世代		○
辻堂朝市	月1回	80名前後	全世代	○	
おはなし会	月1回	10～20名	親・子	○	○
歌声の会	四半期に1回	40名～70名	高齢者	○	
丹田呼吸による健康・発声教室	月1回	10名～30名	全世代		
認知症サポーター養成講座	月1回	10名前後	親		
本の貸し出し	週1回	10名前後	親・子		

## 不定期開催されているイベント（一例）

- サ高住+保育園の交流イベント（歌の交流、クリスマス会など）
- 演奏会
- 健康商品の試飲会や試用会 など

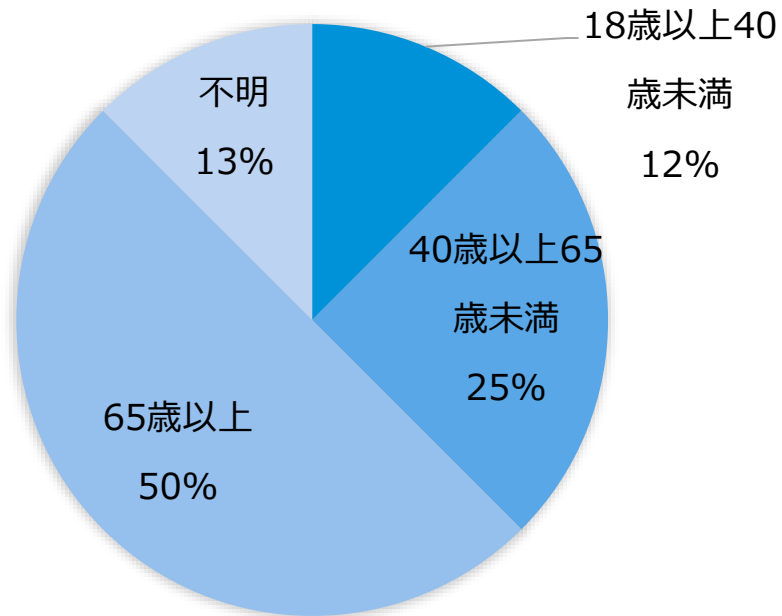
- 80%超が参加者で、Fujisawa SST内の居住者は43%である。約半数がFujisawa SST以外の藤沢市内から参加している



- 80%が女性の参加者となっている。年代別にみると、女性と男性どちらとも65歳以上が一番多く占める。

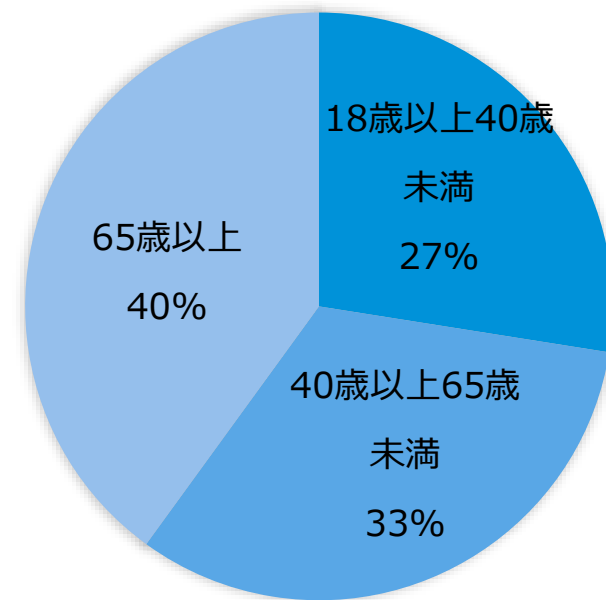
年代（男性）

(n=8)



年代（女性）

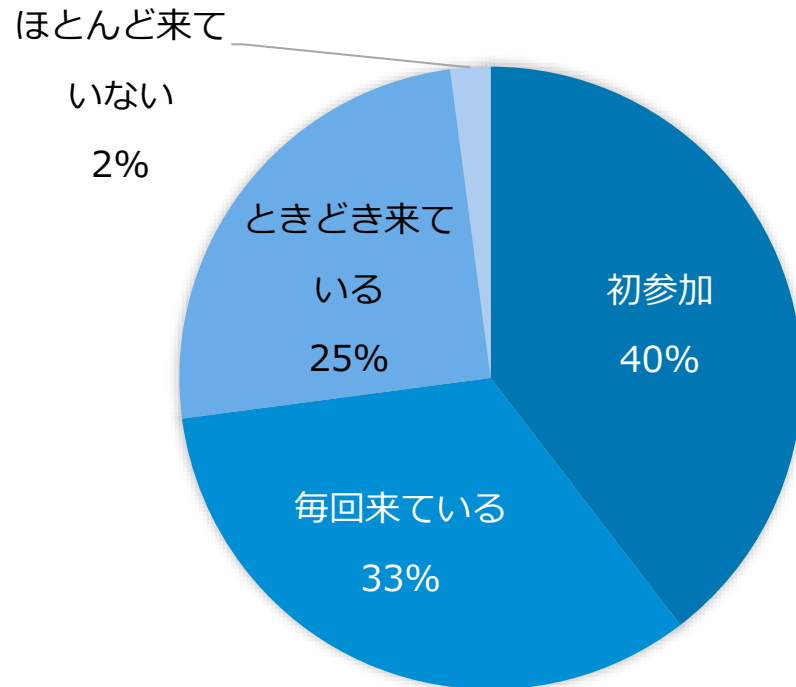
(n=40)



- 参加者のうち初参加が39%、毎回来ている、ときどき来ているが59%となっている。
- イベントについて大変満足または満足と回答したのは79%となった。

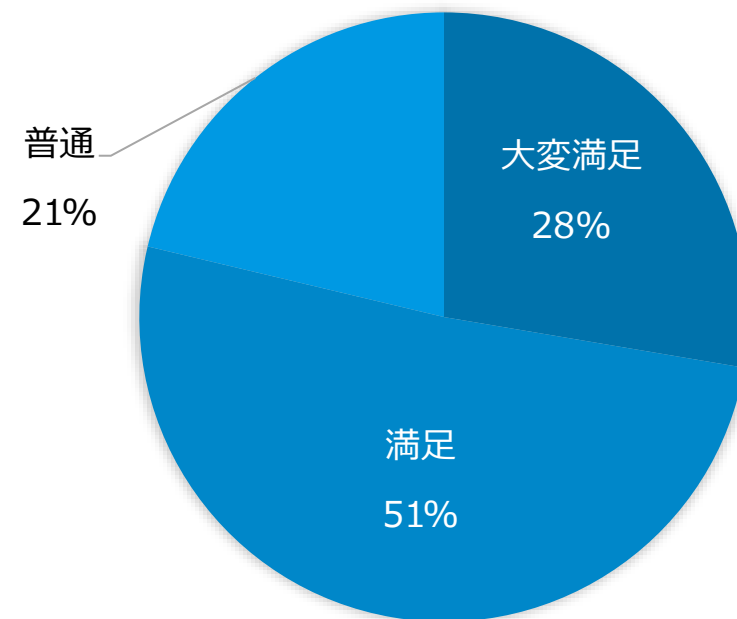
イベントへの参加頻度

(n=9)



イベントの満足度

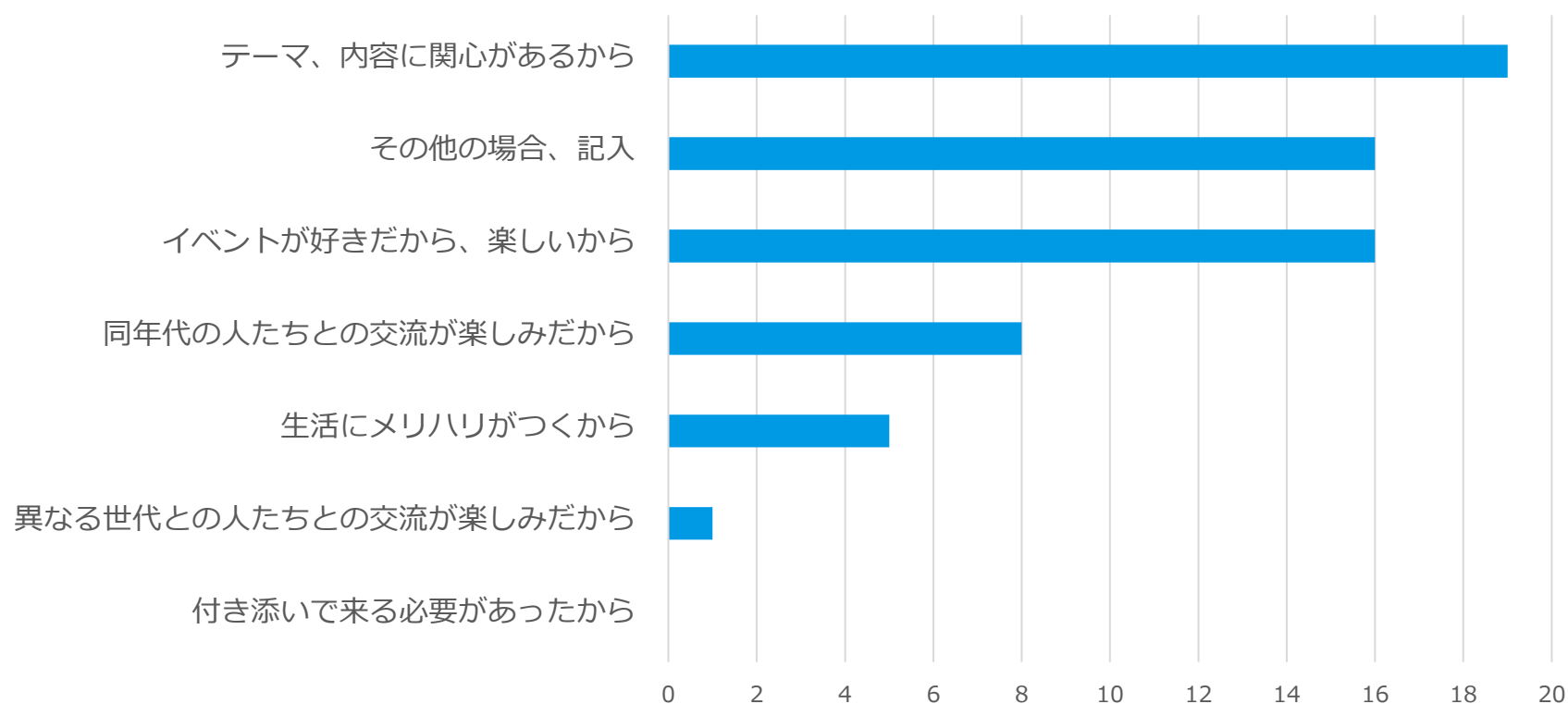
(n=48)



- 参加理由としては、「テーマ・内容に関心があるから」が一番多くなっており、その後、「イベントが好きだから、楽しいから」が続いている。

イベントへの参加理由（複数回答可）

(n=48)

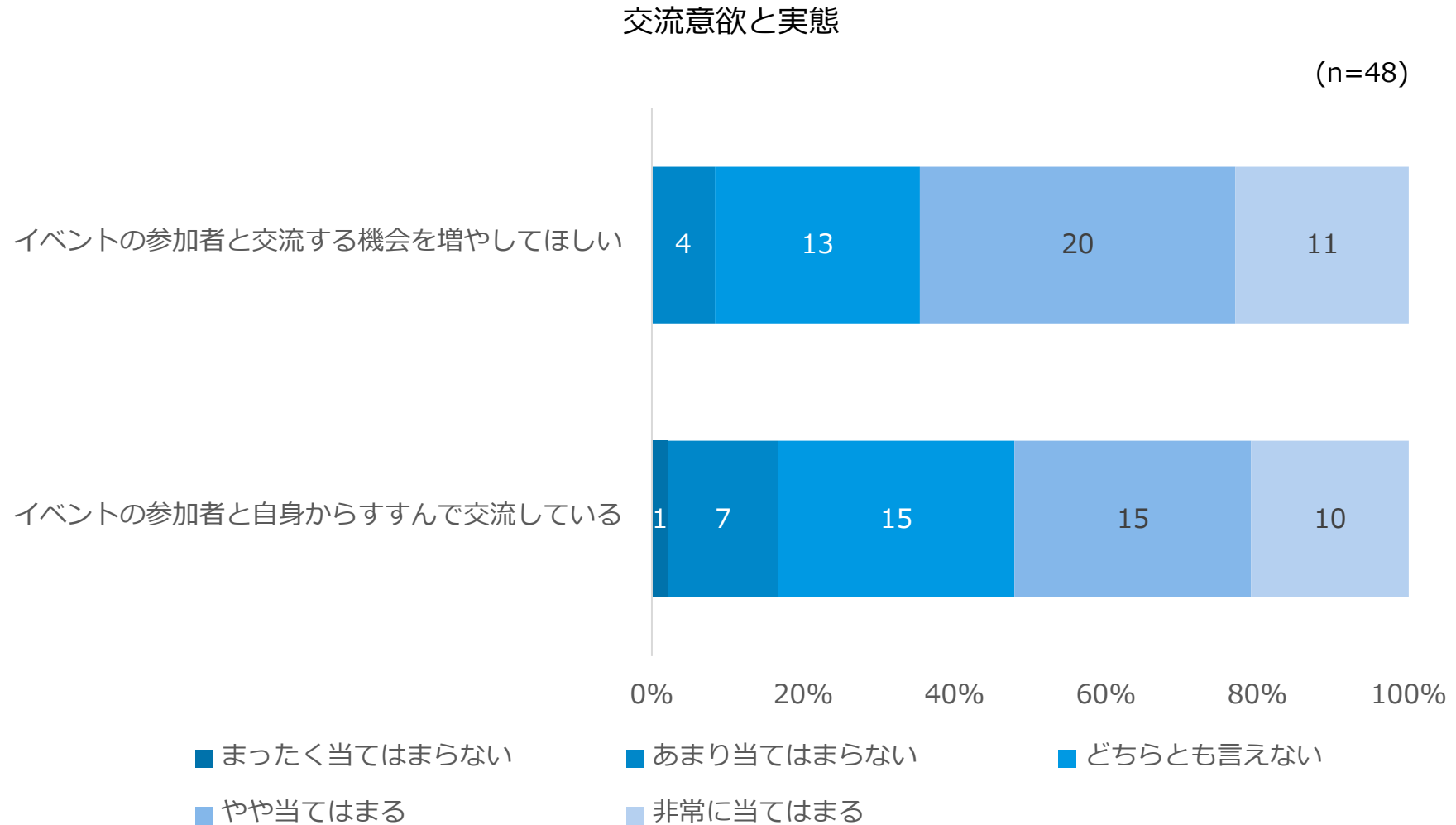


（その他の場合、記入）

野菜を買いにきた、友人に誘われた、広告媒体をみて興味をもった（辻堂朝市）

友達が欲しい、健康のため（プラス・テン体操）

- 65%が「交流する機会を増やしてほしい」と回答したのに対し、「自身からすすんで交流している」と回答したのは52%にとどまった。



- プラス・テン体操がイベント内での交流が一番活発である。
- 一方で、歌声の会は、交流機会が少なく、交流する機会を増やして欲しいと参加者が感じている。

イベント内の交流状況について

(全体 n=48)

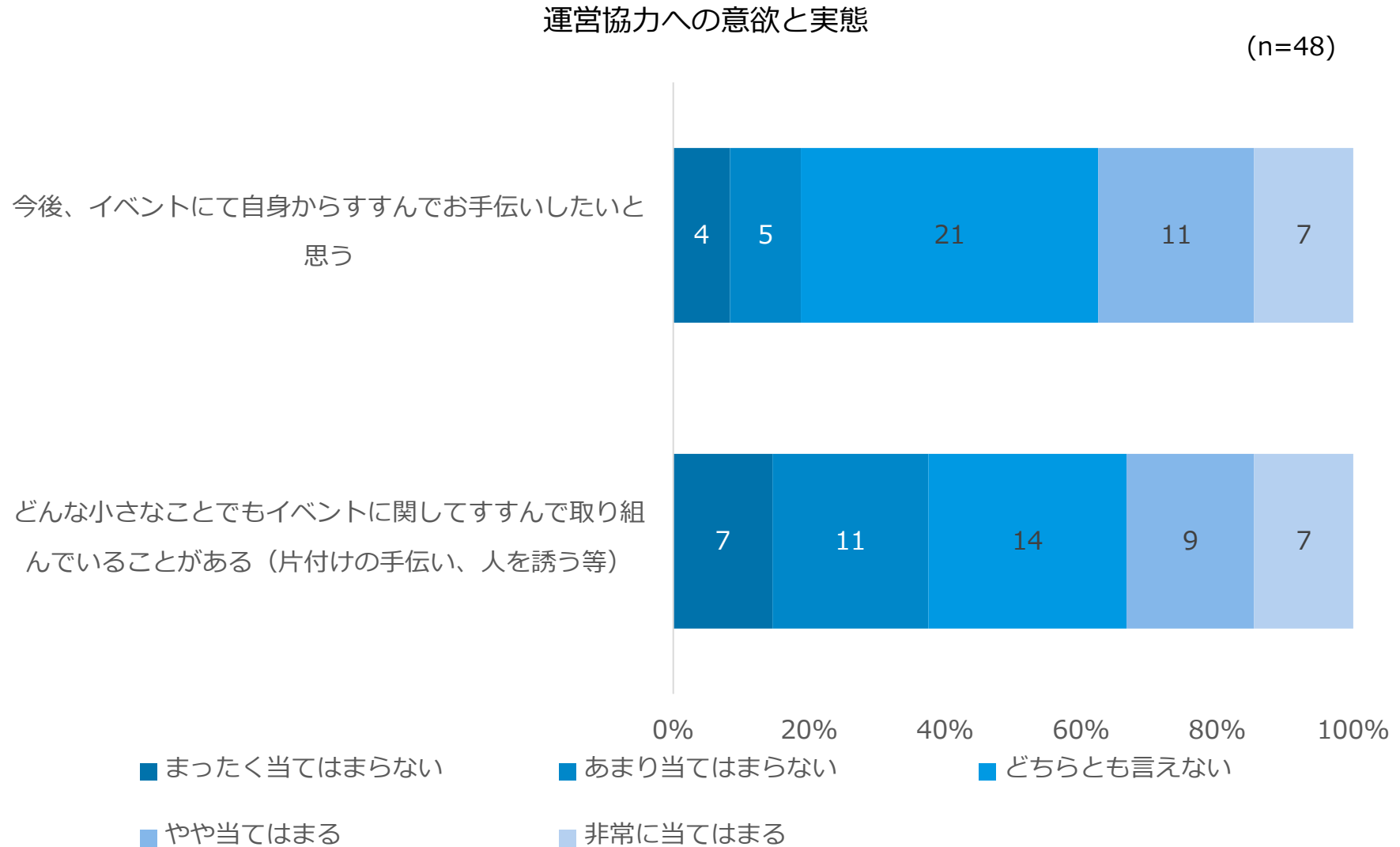
	アンケート項目	全体	プラス・テン	辻堂朝市	おはなし会	歌声の会
a	イベントの参加者と自身からすすんで交流している	3.5	4.1	3.6	3.0	2.8
b	他の参加者(同伴者を除く)を思いやったり気を配ったりする	3.7	4.0	3.7	3.5	3.4
c	他の参加者(同伴者を除く)に対して元気づけることがある	3.5	3.5	3.8	3.3	2.2
d	他の参加者(同伴者を除く)から学ぶことがある	3.6	4.1	3.5	4.0	3.2
e	自分以外の世代について理解が深まった	3.6	3.4	3.6	4.0	3.6
f	イベントの参加者と交流する機会を増やしてほしい	3.8	4.1	3.6	3.8	4.4

5段階回答を、まったく当てはまらない=1、あまり当てはまらない=2、どちらとも言えない=3、やや当てはまる=4、非常に当てはまる=5とスコア化しその平均値を算出

サンプル数について、プラス・テン体操は8、辻堂朝市は31、おはなし会は4、歌声の会は5となっている。

平均スコアが4以上       平均スコアが3未満

- 「お手伝いをしたいと思う」と回答したのは38%にとどまる。「自身からすすんで取り組んでいることがある」と回答したのは33%で実態と乖離も少ない。





- 全体的に運営協力への参画は活発でない。
- 一方で、プラス・テン体操や歌声の会の参加者は、すすんでお手伝いをしたいと思っていることが理解された。

イベント内の運営協力状況について

(全体 N=48)

	アンケート項目	全体	プラス・テン	辻堂朝市	おはなし会	歌声の会
G	どんな小さなことでもイベントに関してすすんで取り組んでいることがある（片付けの手伝い、人を誘う等）	3.0	3.0	3.3	1.8	2.8
H	イベントの運営において少しでも力になれていると思う	3.0	2.6	3.1	2.0	3.8
I	自分からすすんでやっていることについて、周囲から喜んでもらっていると思う（または、参加者からありがとうと言われる）	3.0	3.6	3.2	2.3	3.8
j	今後、イベントにて自身からすすんでお手伝いしたいと思う	3.3	4.4	3.7	3.0	4.8

5段階回答を、まったく当てはまらない=1、あまり当てはまらない=2、どちらとも言えない=3、やや当てはまる=4、非常に当てはまる=5とスコア化しその平均値を算出

平均スコアが4以上       平均スコアが3未満

サンプル数について、プラス・テン体操は8、辻堂朝市は31、おはなし会は4、歌声の会は5となっている。

- ・ 辻堂朝市を除いたイベントで、イベント参加がウェルビーイング向上につながっていると参加者が感じている。
- ・ 歌声の会については、全項目が4.8となっており、イベントへの参加がウェルビーイングの向上につながっていると参加者が感じている。

参加者のウェルビーイングについて

(N=48)

	アンケート項目	全体	プラス・テン	辻堂朝市	おはなし会	歌声の会
K	健康につながっていると思う	3.9	4.4	3.7	3.0	4.8
L	気持ちが前向きになる	3.9	4.4	3.7	4.0	4.8
m	頭の体操になっている/知的刺激をもらっている	3.7	4.5	3.3	4.0	4.8

5段階回答を、まったく当てはまらない=1、あまり当てはまらない=2、どちらとも言えない=3、やや当てはまる=4、非常に当てはまる=5とスコア化しその平均値を算出

サンプル数について、プラス・テン体操は8、辻堂朝市は31、おはなし会は4、歌声の会は5となっている。

 平均スコアが4以上       平均スコアが3未満

- ・ 囲碁教室とおはなし会の運営者および参加者に、運営または参加の目的についてインタビューした。

イベント  
運営の目的

仲間づくり、健康づくり、支え合い、交流などを目的に運営している

- ・ **仲間をつくったり、余暇を健康的におくるため**（囲碁教室運営者）
- ・ **囲碁を楽しんでもらうことを大事にしている**（囲碁教室運営者）
- ・ **ママたちが誰かと交流できる場が必要**だと思った（おはなし会運営者）
- ・ ママたちが「こうじゃなきゃいけない」と思ってしまっていて、**それにあわないと「うちの子はおかしいんじゃないか」と思ってしまう。そんなの「平気平気」と言ってあげられるおばあちゃんになりたい。**（おはなし会運営者）
- ・ **子育て中は（中略）孤独を感じていた。知り合える、付き合える場が必要**（おはなし会運営者）

イベント  
参加の目的

健康づくり、趣味づくり、交流、子育ての参考や勉強の機会の場として参加している

- ・ **ボケ防止のため、趣味にしたい**（囲碁教室参加者）
- ・ **上達したい**と思っている（囲碁教室参加者）
- ・ **気持ちのハリが出る。**（中略）家にいるよりはいいと思う（囲碁教室参加者）
- ・ **他のお母さんとは積極的に交流していない。できたらいいなと思うけど、あまり横のつながりを期待して来ているわけではない**（おはなし会参加者）
- ・ **図書館で本を選ぶ時の参考**にしている。（中略）とても**勉強**になる（おはなし会参加者）
- ・ 他の子供達の様子をみている、自分の子供がどうなのか（おはなし会参加者）

- 囲碁教室とおはなし会の運営者および参加者に、交流状況と運営協力実施状況についてインタビューした。

イベント中  
の交流

**多世代交流の機会はある。また、交流ニーズの有無は多様である**

- **囲碁の良さはどの年代でもできること。**（中略）異なる年代の人が同じレベルで対話をする  
ことができる（囲碁教室運営者）
- **囲碁をする時は、雑談はしない。**そういう競技ではない（囲碁教室参加者）
- **知り合いをつくることは面倒くさいと感じることもある**（中略）**交流が広がるのは良いこ  
とかと思う。**（中略）**年齢が違うのは楽しいかも**（囲碁教室参加者）

イベント外  
での交流

**イベント外での交流は見られない**

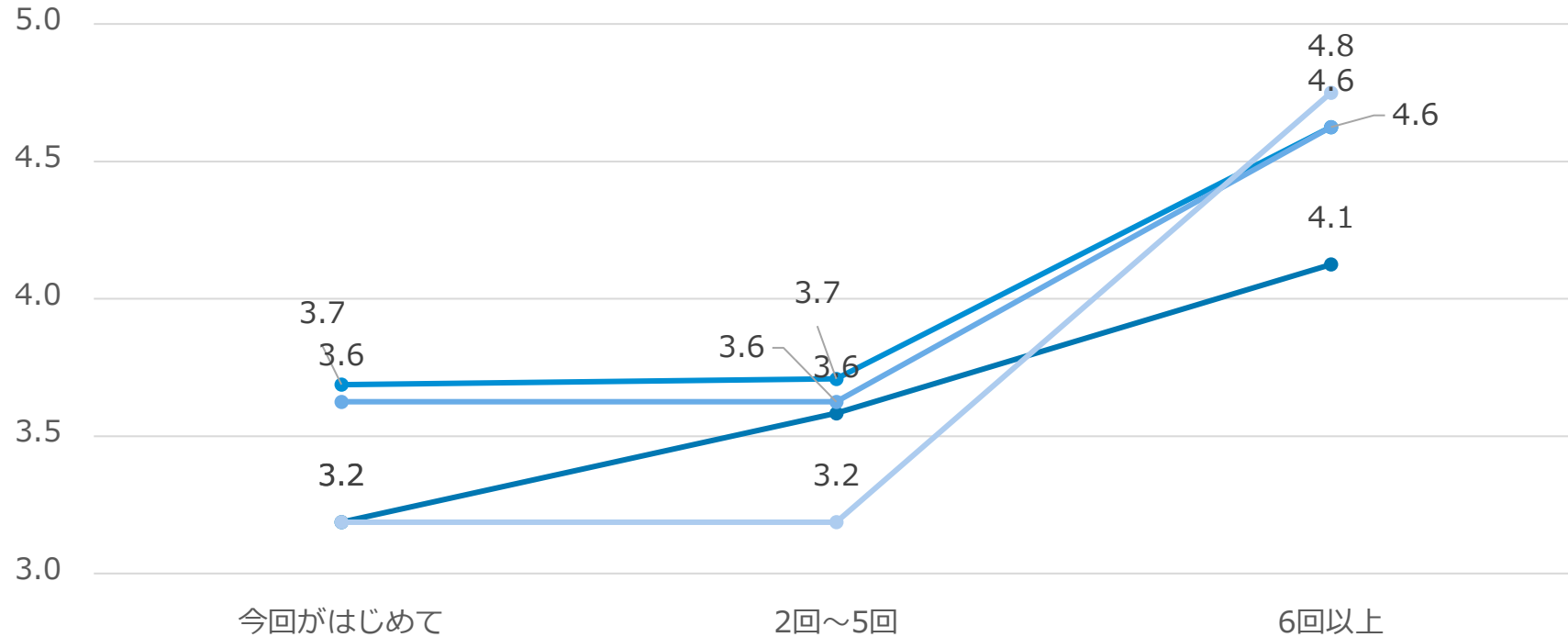
- 囲碁教室が**終わった後はそれぞれ皆すぐに帰ってしまうようだ**（囲碁教室運営者）
- 同じ目的があれば話すことがあるが、**そうでないと何を話せばよいのか**（囲碁教室参加者）
- よみきかせが終わった後に（お母さんの）**ご相談に乗ることもある**（おはなし会運営者）
- **他で会っているというのは聞いたことはない**（おはなし会運営者）

## 運営協力

**囲碁教室とおはなし会については、運営協力の必要性和協力希望は特にない**

- 特に**今の参加者に運営を手伝ってもらうことは考えていない**（囲碁教室運営者）
- **運営者側として関わりたいとは、あまり思わない**（囲碁教室運営者）
- **運営が大変そう**（囲碁教室参加者）
- **この二人で準備できてしまうので、これから人員を増やす予定はない**（おはなし会運営者）

- 南館開催のイベントの参加回数別に、アウトカムa, k, l, mの回答平均値を算出したところ、回数が多いほどアウトカムの平均値も高くなる傾向が見られることが分かった。

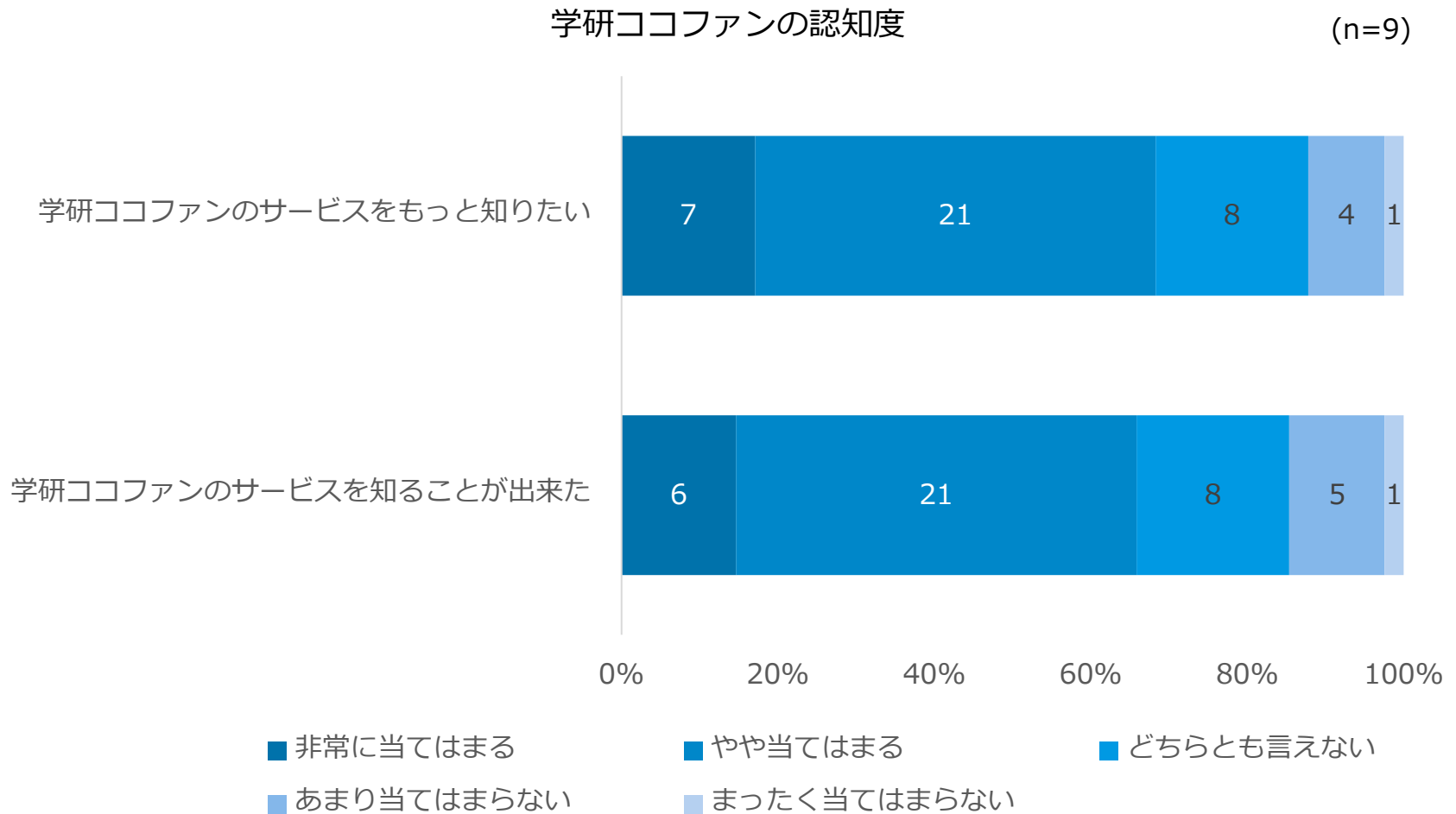


- a. イベントの参加者と自身からすすんで交流している
- k. 健康につながっていると思う
- l. 気持ちが前向きになる
- m. 頭の体操になっている/知的刺激をもらっている

5段階回答を、まったく当てはまらない=1、あまり当てはまらない=2、どちらとも言えない=3、やや当てはまる=4、非常に当てはまる=5とスコア化しその平均値を算出

サンプル数について、「今回がはじめて」は16、「2回~5回」は24、「6回以上」は8となっている。

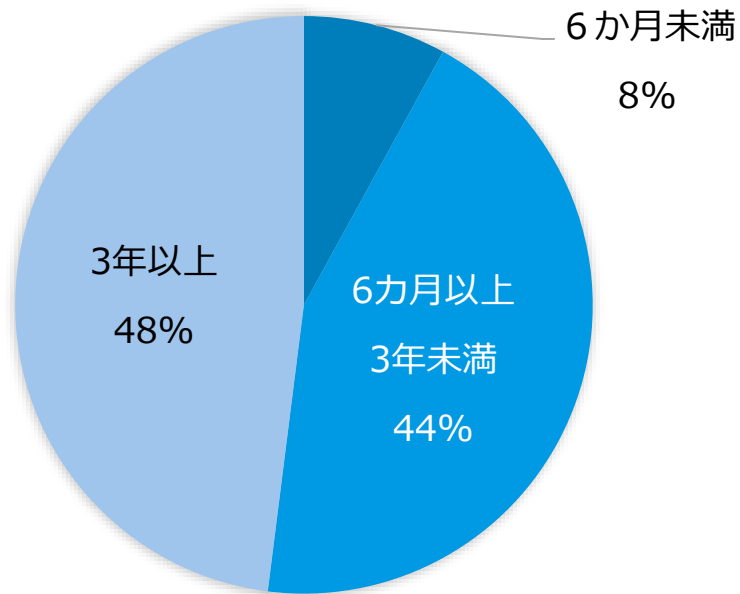
- 交流事業参加者のうち、学研ココファンのサービスをもっと知りたいと回答したのは68%、サービスを知ることが出来たと回答したのは66%である。



- 入居期間別にみると3年以上と3年未満が約半数ずつになっている。
- 女性の割合が73%と多くなっている。

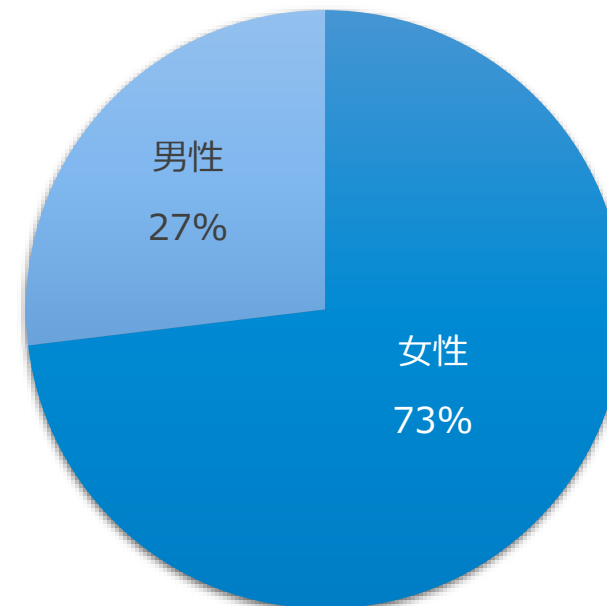
入居期間

(n=24)



性別

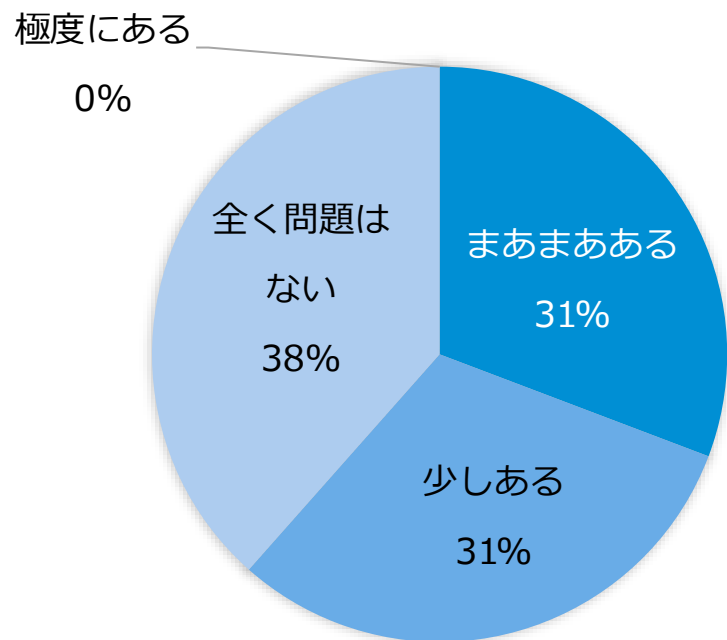
(n=26)



- 日々の生活における身体的な問題について、「ある」と回答したのは62%である。
- 日々の生活において寂しい・孤独と感じると回答したのは27%にとどまる。

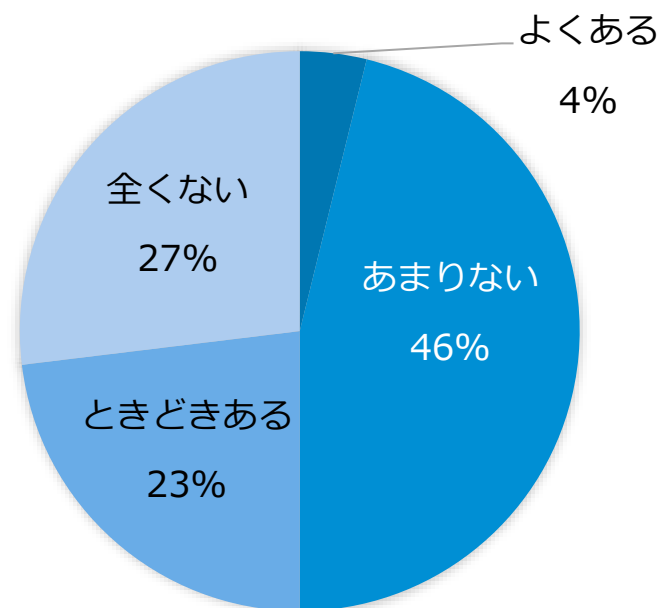
日々の生活における身体的な問題

(n=26)



日々の生活において寂しい・孤独と感じること

(n=26)

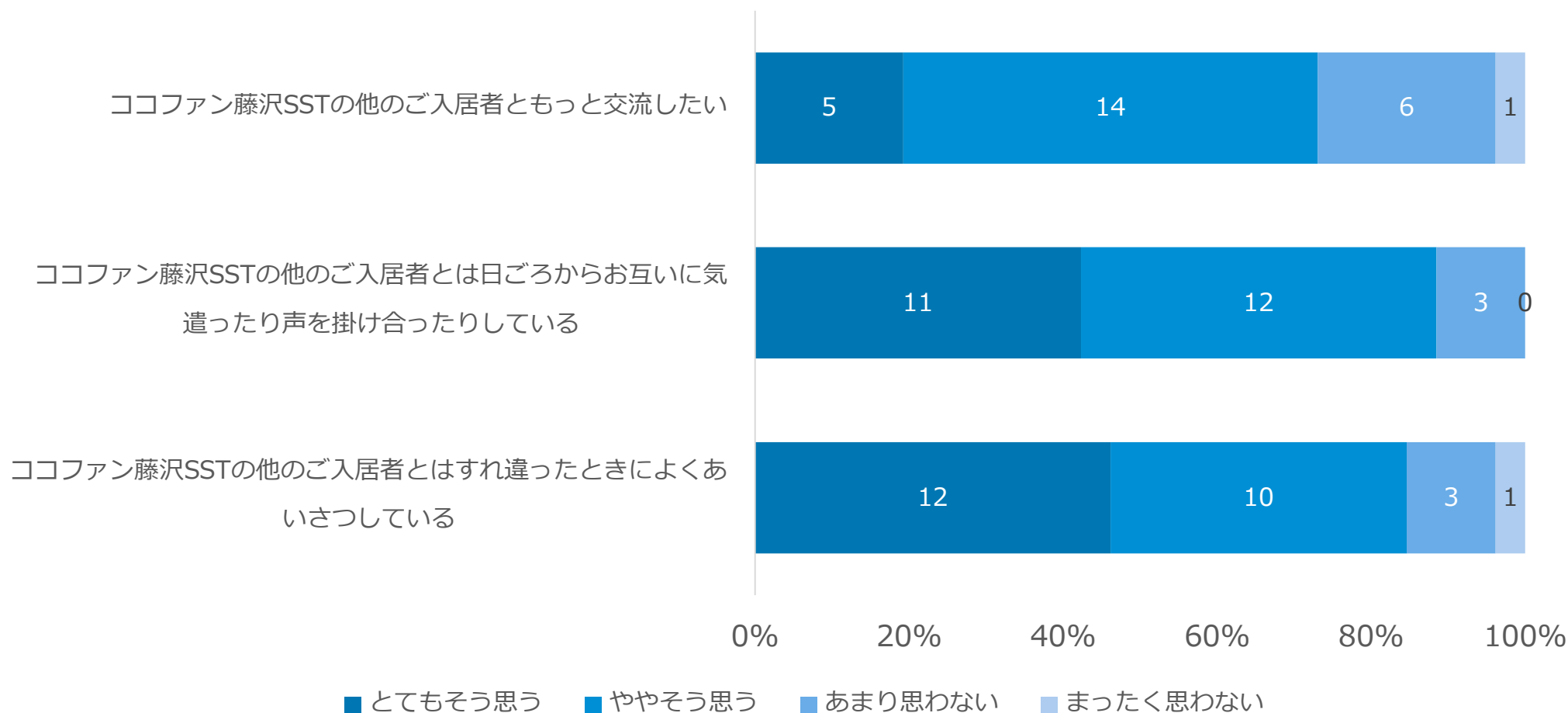




- 他入居者と挨拶をしたり声をかけあっていると回答したのは80%以上であった。一方で、もっと交流したいと回答したのは73%にとどまった。

サ高住む入居者の交流意欲と実態について  
(ココファン藤沢SSTの他入居者と)

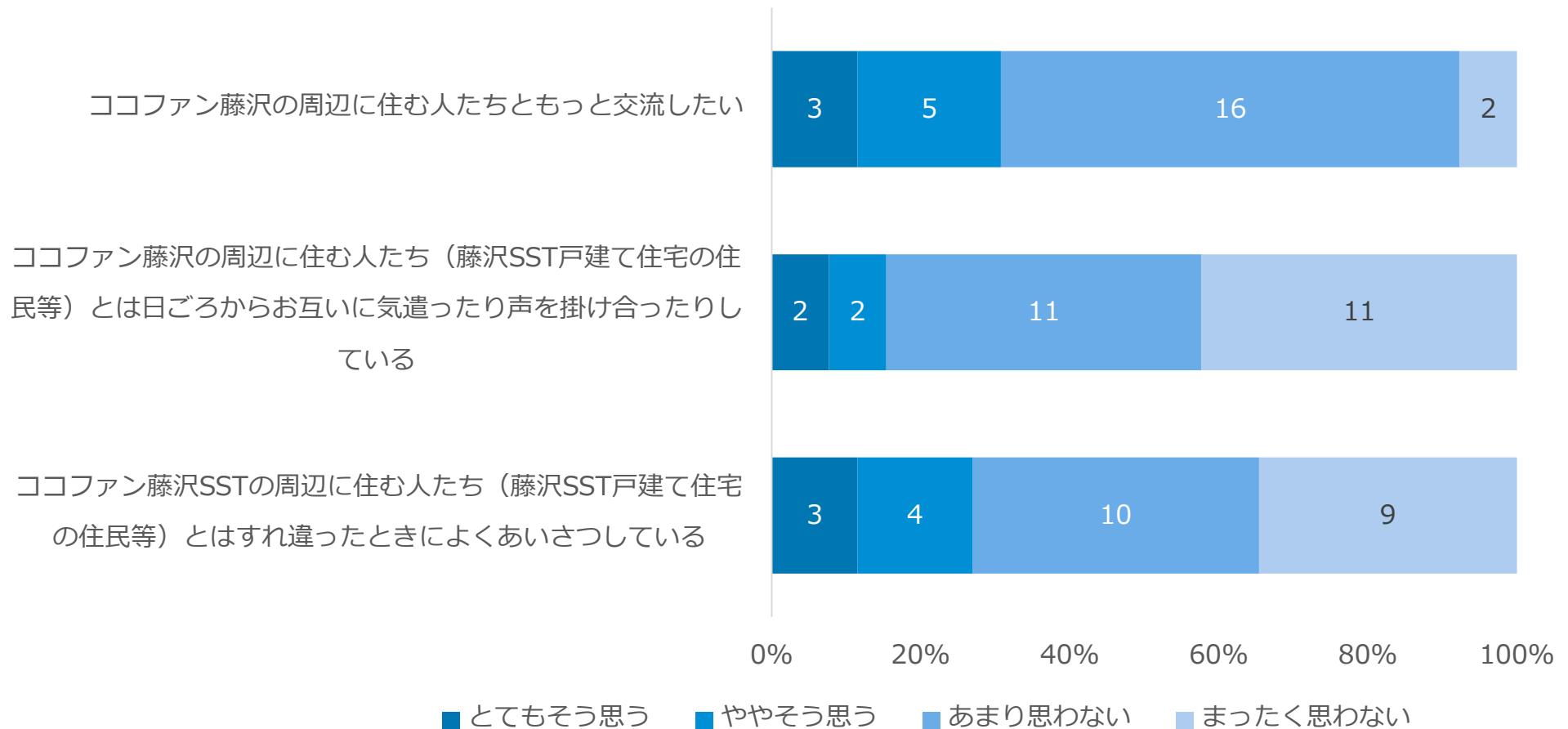
(n=26)



- 他入居者と比較すると、ココファン藤沢SSTの周辺住民と交流をもつ割合は著しく低く、挨拶をしていると回答したのは27%であった。一方で、交流意欲も31%と低い。

サ高住む入居者の交流意欲と実態について  
(ココファン藤沢SSTの周辺住民と)

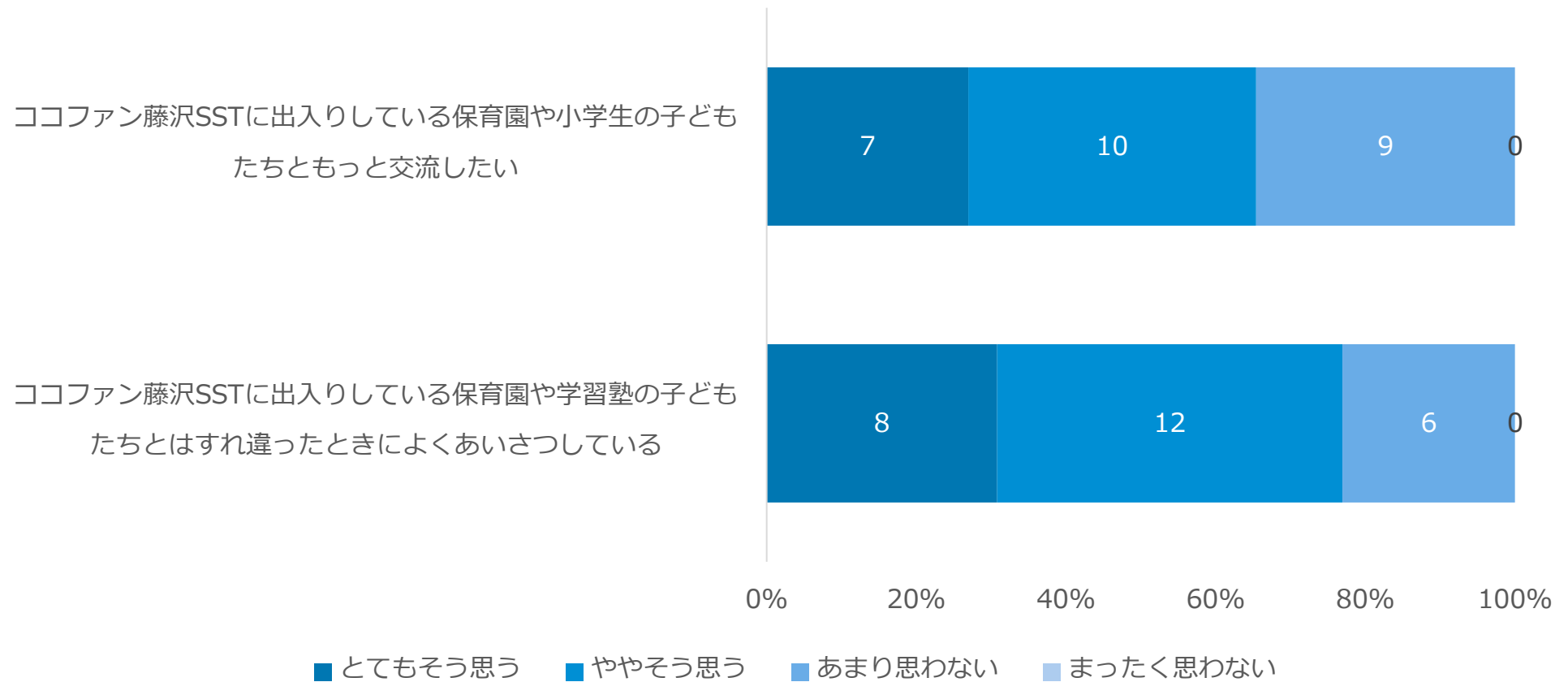
(n=26)



- 子供達と挨拶していると回答したのは77%となり、周辺住民との交流より活発に行われている。一方で、交流意欲は65%となっている。

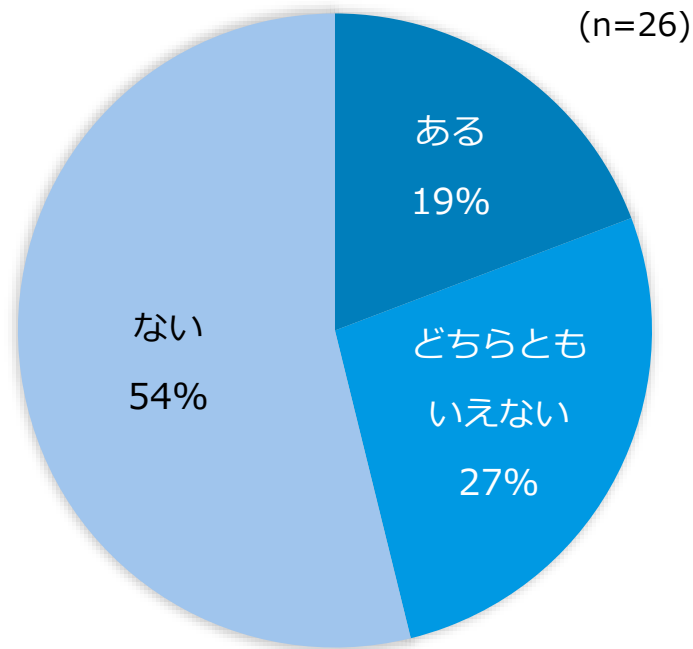
サ高住む入居者の交流意欲と実態について  
(保育園や小学生の子供達と)

(n=26)



- 19%が有償で依頼したいことが「ある」と回答した。

日常の困りごとの有無  
(介護保険や「ふれあいサービス」以外で  
有償で依頼したいこと)



「ある」の内容

- 外出不可能な時の買出し援助
- 身体が動かないため片付け
- 選挙時の投票 (Fujisawa SSTでシャトルバスの運行をして欲しい)

- サ高住入居者が思うココファン藤沢SSTの魅力は以下のとおり。

ココファン藤沢SSTの魅力

(n=9)

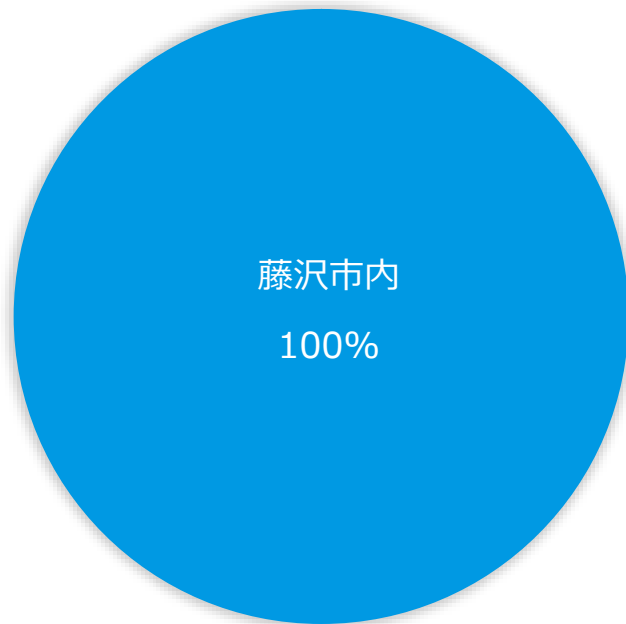
アンケート項目	とてもそう思う+や やそう思う	まったく思わない+ あまり思わない
保育園や学習塾が併設されており、子どもの姿が日常的に見られるところが良い	81%	19%
保育園や学習塾に通っている子どもと会話できるところが良い	69%	31%
子どもとシニアと一緒に参加して交流するイベントがあるところが良い	81%	19%

 80%以上

- 生活支援スタッフとして、ココファン藤沢SSTでは、短時間勤務スタッフ（日専門職）を9名雇用している。
- 居住地は藤沢市内で、67%は本業務のみに携わる。

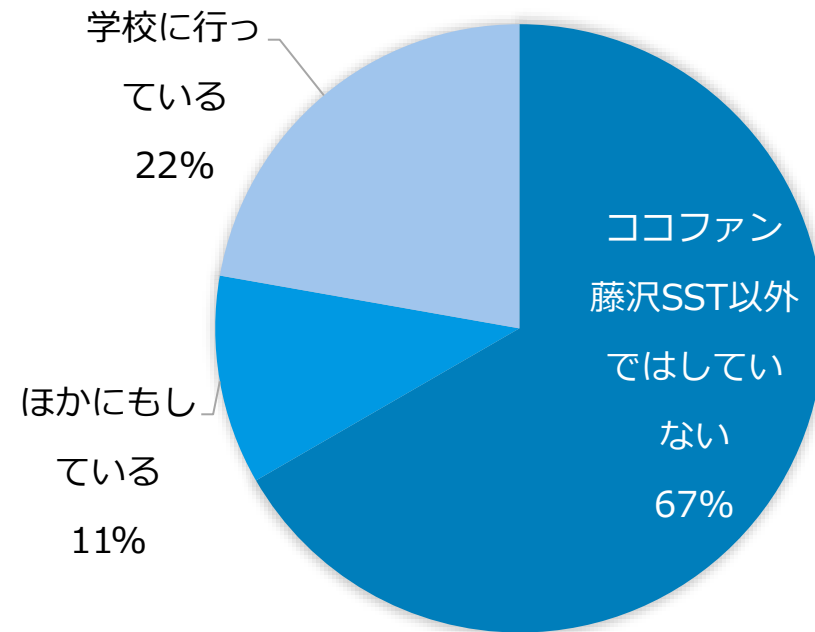
居住地

(n=9)



他のお仕事等の状況

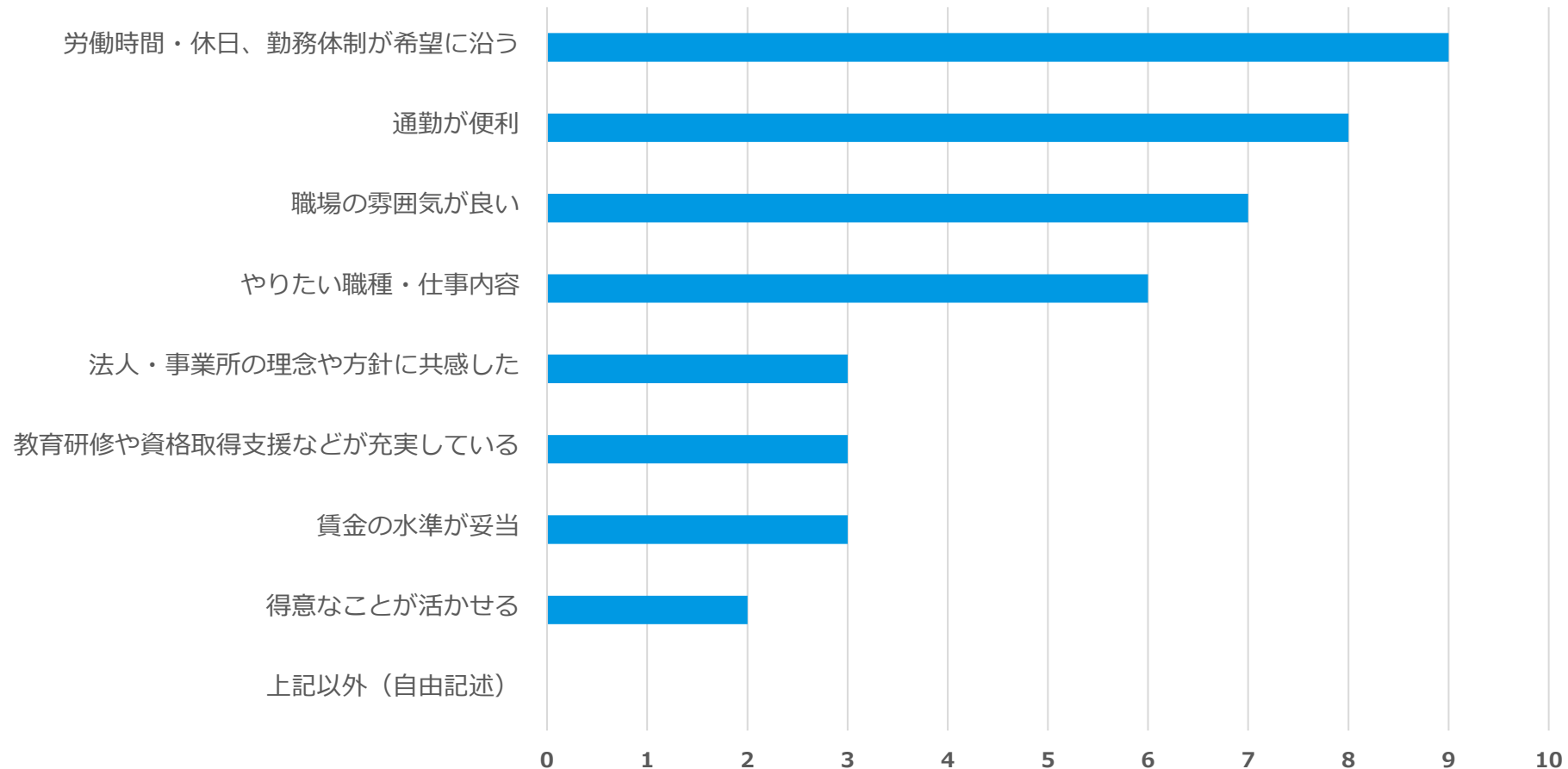
(n=9)



- 全員が「勤務形態や勤務体制が希望に沿う」を回答した。
- 続いて、「通勤が良い」「職場の雰囲気が良い」が続いている。

ココファン Fujisawa SSTで  
仕事をはじめた理由（複数回答可）

(n=9)



- 多くの項目で「そう思う」と回答した割合が80%を超えている。
- 一方で、仕事を通じてキャリアアップを考えている回答者は少ない。

仕事の様子

(n=9)

アンケート項目	とてもそう思う+ややそう思う	まったく思わない+あまり思わない
通しやすい	89%	11%
今やっている仕事が好きだ	100%	0%
仕事を通じて自分も成長できている	89%	11%
自分が得意なことが活かしている	67%	33%
時間的にプライベートと仕事を両立できている	100%	0%
他のスタッフがいろいろと教えてくれる	100%	0%
賃金は妥当だと思う	78%	22%
入居者の方との関係は良い	100%	0%
職場の雰囲気が良い	100%	0%
自分の体力的に大変ではない	78%	22%
これからも長く働きたい	100%	0%
介護・高齢者支援についてもっと学びたいと思う	78%	22%
ヘルパーやケアマネジャー等、資格取得を目指したい	56%	44%

 80%以上



- 子育て中の女性生活支援スタッフ4名に従事理由、仕事の様子、仕事開始後の生活面での変化についてインタビューを実施した。

## 従事理由

**時間に融通が利くから、学研ココファンへの親しみやすさがある**

- この仕事が見つかって感謝。**こどものことが自由が利く**というのは大きい
- このような良い条件の仕事は、(中略)「怪しい」と思って応募しなかったかもしれない。(中略)「**学研さんだから**」、ということで信用して応募した
- 様々な子供向けイベントでウェルネススクエア南館には出入りしていた。そのため、**中の様子がわかっていて安心**できたし、**イベントを通じて顔見知りの方もできていた**

## 仕事の様子

**職場の雰囲気が良い、福利厚生が良い、マニュアルの必要性を感じる**

- スタッフの声をよく聞いてくれる**
- プチワーカー同士、同じ世代のこどもがいて、**情報交換ができるし、話も合う**
- インフルの予防接種の補助**があった。プチ勤務なの**にありがたい**
- 曜日や時間帯によってやることも異なるため、(中略) **マニュアルがあったほうが良い**

生活面での  
変化**交友関係が広がった、高齢者への理解や対応スキルが向上した**

- 同じ小学校に通っているが、親同士は知り合いではなかった。**仕事を通じて知り合えた**
- ロッカーで会ったときなど、**仕事の情報交換**だったり、学校の情報交換をしている
- 今までは(中略) **困っている様子的高齢者に声がけしてもよいのかどうか、どう声がけしたらよいかわからなかった**。ここで仕事をするようになってから、(中略) **困っている高齢者がいたときに自然に声をかけができるようになった**

調査者記入 実施日 2019年 月 日 No. イベント名

## ウェルネススクエア南館 イベント参加者 アンケート

この度はアンケートにご協力頂きまして誠にありがとうございます。このアンケートは「神奈川県 SDGs 社会的インパクト評価実証事業」の一環として、皆さまのご意見を Fujisawa SST ウェルネススクエア南館（以下、南館）にて実施されているイベントの意義の確認と、今後の改善につなげることを目的としています。アンケートの回答は統計的に処理され、特定の個人が識別できる情報として公表されることはありません。また、本アンケートは神奈川県から業務を委託されたケイスリー株式会社（〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-26-16 第五叶ビル 5F）が実施しております。何卒、ご協力の程、宜しくお願ひ申し上げます。  
※回答者が小学3年生以下の場合は、保護者の方が代わりにご回答ください。

### 1. あなたご自身について

1. 参加立場	<input type="checkbox"/> 参加者 <input type="checkbox"/> 参加者の付き添い <input type="checkbox"/> スタッフ・運営者
2. 居住地域	<input type="checkbox"/> 藤沢 SST 内（うち <input type="checkbox"/> ウェルネススクエア南館 <input type="checkbox"/> 北館 <input type="checkbox"/> 戸建て） <input type="checkbox"/> 藤沢 SST 以外の藤沢市内 <input type="checkbox"/> 藤沢市以外
3. 年代	<input type="checkbox"/> 小学生未満 <input type="checkbox"/> 小・中・高校生 <input type="checkbox"/> 18歳以上40歳未満 <input type="checkbox"/> 40歳以上65歳未満 <input type="checkbox"/> 65歳以上
4. 性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> その他
5. 同伴者 ※複数回答可	<input type="checkbox"/> なし（ご自身のみ） <input type="checkbox"/> 友人 <input type="checkbox"/> 配偶者 <input type="checkbox"/> 親 <input type="checkbox"/> 子（   歳） <input type="checkbox"/> 祖父母 <input type="checkbox"/> その他（   ）
6. 南館開催のイベントの参加回数	<input type="checkbox"/> 今回が初めて <input type="checkbox"/> 2回～5回 <input type="checkbox"/> 6回～10回 <input type="checkbox"/> それ以上

### 2. 本イベントの参加状況について

1. 本イベントの参加頻度	<input type="checkbox"/> 初参加 <input type="checkbox"/> 毎回来ている <input type="checkbox"/> ときどき来ている <input type="checkbox"/> ほとんど来ていない
2. 参加理由 ※複数回答可	<input type="checkbox"/> イベントが好きだから、楽しいから <input type="checkbox"/> テーマに内容関心があるから <input type="checkbox"/> 同年代の人たちとの交流が楽しめだから <input type="checkbox"/> 付き添いで来る必要があったから <input type="checkbox"/> 異なる世代の人たちとの交流が楽しめだから <input type="checkbox"/> 生活にメリハリがつかから <input type="checkbox"/> その他（   ）
3. 本イベントの感想	<input type="checkbox"/> 大変満足 <input type="checkbox"/> 満足 <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 不満 <input type="checkbox"/> 大変不満
4. 上記のようにご回答した理由 ※自由記述	

【複数回参加の方のみ】

5. イベントにて参加者同士（同伴者は除く）で話すことはありますか？

毎回話す    数回に1回程度話す    ほとんど話さない    全く話さない

どの年代の人と話しますか？（※複数回答可）

児童・学生（高校生以下）    18歳～65歳未満    65歳以上

6. イベントへの参加経験について、下記の項目ごとに当てはまる□1つに✓をつけてください。

項目	まったく当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらとも言いえない	やや当てはまる	非常に当てはまる
<b>イベントの参加者（同伴者を除く）とのイベント内での交流について</b>					
a. イベントの参加者と自身からすすんで交流している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b. 他の参加者（同伴者を除く）を思いやり気配りする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c. 他の参加者（同伴者を除く）に対して元気づけることがある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
d. 他の参加者（同伴者を除く）から学ぶことがある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
e. 自分以外の世代について理解が深まった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
f. イベントの参加者と交流する機会を増やしてほしい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<b>イベントの運営協力について</b>					
g. どんな小さなことでもイベントに關してすすんで取り組んでいることがある（片付けの手伝い、人を誘う等）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
h. イベントの運営において少しでも力になれると思う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
i. 自分からすすんでやっていることについて、周囲から喜んでもらっていると思う（または、参加者からありがとうと言われる）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
j. 今後、イベントにて自身からすすんでお手伝いしたいと思う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<b>交流イベントの影響について</b>					
k. 健康につながっていると思う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
l. 気持ちが前向きになる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
m. 頭の体操になっている/知的刺激をもらっている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

学研コファンの認知について					
n. 学研コファンのサービスを知ることが出来た (項目 p.参照)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
o. 学研コファンのサービスをもっと知りたい (項目 p.参照)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
【上記にて「当てはまる」と回答の方】					
p. 学研コファンのサービスのうち、何について知りたいですか ※複数回答可	<input type="checkbox"/> 保育所	<input type="checkbox"/> 学童保育	<input type="checkbox"/> 学習塾	<input type="checkbox"/> サービス付き高齢者住宅	<input type="checkbox"/> 配食サービス <input type="checkbox"/> 大人の教室

7. あなた自身の状態について、イベントをとおして感じている変化（良かったこと、悪くなったこと）があれば教えてください。

### 3. 参加者(同伴者を除く)との関係性について

1. 本イベントで知り合った参加者(同伴者を除く)と、普段の生活でのつきあい方（あいさつをする等）を教えてください。

他参加者との普段のお付き合いの有無	<input type="checkbox"/> お付き合いがある	<input type="checkbox"/> お付き合いがない
-------------------	-----------------------------------	-----------------------------------

2. 上記にて、お付き合いがあるに✓をつけた方のみお答えください。具体的に当てはまる関係性に✓をつけてください。

あてはまる関係性 ※複数回答可	<input type="checkbox"/> 困り事や悩みごとを相談する程度 <input type="checkbox"/> 一緒にお茶を飲む程度 <input type="checkbox"/> たまに立ち話をする程度（メールやSNS等でのやり取り含む） <input type="checkbox"/> 会えばあいさつをかさず程度 <input type="checkbox"/> その他（ ）
--------------------	--

アンケートは以上となります。ご協力、誠にありがとうございます。



## ココファン藤沢 SST ご入居者様アンケート

この度はアンケートにご協力頂きまして誠にありがとうございます。このアンケートは「神奈川県 SDGs 社会的インパクト評価実証事業」の一環として、皆さまのご意見を Fujisawa SST ウェルネススクエア南館（以下、南館）にて実施されている交流の取り組みの意義の検証と今後の改善、生活支援ニーズの把握につなげることを目的としています。アンケートの回答は統計的に処理され、特定の個人が識別できる情報として公表されることはありません。また、本アンケートは神奈川県から業務を委託されたケイスリー株式会社（〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-26-16 第五叶ビル 5F）が実施しております。何卒、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

## 1. あなたさまについて教えてください

ココファン藤沢 SST のご入居期間	<input type="checkbox"/> 6か月未満 <input type="checkbox"/> 6か月以上3年未満 <input type="checkbox"/> 3年以上
性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性
日々の生活で身体的な問題がありますか？（家事、買い物、余暇活動等）	<input type="checkbox"/> 全く問題はない <input type="checkbox"/> 少しある <input type="checkbox"/> まあまあある <input type="checkbox"/> 極度に
日々の生活で寂しい・孤独と思うことはありますか？	<input type="checkbox"/> よくある <input type="checkbox"/> ときどきある <input type="checkbox"/> あまりない <input type="checkbox"/> 全くない
ウェルネススクエア南館で実施されている交流イベントに参加しますか？	<input type="checkbox"/> 一度も参加したことがない <input type="checkbox"/> 1回～5回 <input type="checkbox"/> 6回～10回 <input type="checkbox"/> それ以上

## 2. 地域での交流の状況をお聞かせください

あいさつの状況	思わない まったく	あまり 思わない	やや 思わない	とても 思わない
ココファン藤沢 SST の他のご入居者とはすれ違ったときによくあいさつしている	1	2	3	4
ココファン藤沢 SST に入居している保育園や学習塾の子どもとはすれ違ったときによくあいさつしている	1	2	3	4
ココファン藤沢 SST の周辺に住む人たち（藤沢 SST 戸建て住宅の住民等）とはすれ違ったときによくあいさつしている	1	2	3	4

声のかけあいや気遣いの状況	思わない まったく	あまり 思わない	やや 思わない	とても 思わない
ココファン藤沢 SST の他のご入居者とは日ごろからお互いに気遣ったり声を掛け合ったりしている	1	2	3	4
ココファン藤沢の周辺に住む人たち（藤沢 SST 戸建て住宅の住民等）とは日ごろからお互いに気遣ったり声を掛け合ったりしている	1	2	3	4

交流することについて	思わない まったく	あまり 思わない	やや 思わない	とても 思わない
ココファン藤沢 SST の他のご入居者ともっと交流したい	1	2	3	4
ココファン藤沢 SST に入居している保育園や小学生の子どもともっと交流したい	1	2	3	4
ココファン藤沢の周辺に住む人たちともっと交流したい	1	2	3	4

## 3. ココファン藤沢 SST について

ココファン藤沢 SST では、様々な世代との交流を行っています。あなたのお考えに最も近いものをお選びください。

ココファン藤沢 SST の魅力	思わない まったく	あまり 思わない	やや 思わない	とても 思わない
保育園や学習塾が併設されており、子どもの姿が日常的に見られるところが良い	1	2	3	4
保育園や学習塾に通っている子どもと会話できるところが良い	1	2	3	4
子どもとシニアと一緒に参加して交流するイベントがあるところが良い	1	2	3	4

## 4. 日常生活で手伝いを頼みたいことについて

現在、介護保険や「ふれあいサービス」以外で、有償で依頼したいと思うことはありますか？

ある  ない  どちらともいえない

「ある」と回答した方：どのようなことを依頼したいですか？

アンケートへのご協力、誠にありがとうございます。

## ココファン藤沢 SST 短時間勤務スタッフ(非専門職)アンケート

この度はアンケートにご協力頂きまして誠にありがとうございます。このアンケートは「神奈川県 SDGs 社会的インパクト評価実証事業」の事業の一環として、ココファン藤沢 SST 短時間勤務スタッフ(非専門職)の勤務についてご意見を頂き、働きやすい環境を整えていくために参考にさせて頂きたいと考えています。集計は統計的に処理され、個人が特定されませんので安心ください。アンケートは神奈川県から業務を委託されたケイスリー株式会社(〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-26-16 第五叶ビル 5F)が実施しております。

### 1. あなたさまについて教えてください

居住地域	<input type="checkbox"/> 藤沢市内 <input type="checkbox"/> 藤沢市外
他のお仕事等の状況 ※複数選択可	<input type="checkbox"/> ココファン藤沢 SST 以外ではしていない <input type="checkbox"/> ほかにもしている <input type="checkbox"/> 学校に行っている

### 2. ココファン藤沢 SST でお仕事を始めた理由についてあてはまるものすべてチェックしてください

利便さ	<input type="checkbox"/> 通勤が便利
意識	<input type="checkbox"/> やりたい職種・仕事内容
	<input type="checkbox"/> 得意なことが活かせる
待遇・労働環境	<input type="checkbox"/> 労働時間・休日、勤務体制が希望に沿う
	<input type="checkbox"/> 賃金の水準が妥当
	<input type="checkbox"/> 教育研修や資格取得支援などが充実している
事業所・経営者の マネジメント	<input type="checkbox"/> 職場の雰囲気が良い
	<input type="checkbox"/> 法人・事業所の理念や方針に共感した

上記以外

### 3. 今のお仕事の様子について教えてください

	思わなかった	まあ思わない	まあ思う	思ったより
通しやすい	1	2	3	4
今やっている仕事が好きだ	1	2	3	4
仕事を通じて自分も成長できている	1	2	3	4
自分が得意なことが活かしている	1	2	3	4
時間的にプライベートと仕事を両立できている	1	2	3	4
他のスタッフがいろいろと教えてくれる	1	2	3	4
賃金は妥当だと思う	1	2	3	4
入居者の方との関係が良い	1	2	3	4
職場の雰囲気が良い	1	2	3	4
自分の体力的に大変ではない	1	2	3	4

### 4. これからについて教えてください

	思わなかった	まあ思わない	まあ思う	思ったより
これからも長く働きたい	1	2	3	4
介護・高齢者支援についてもっと学びたいと思う	1	2	3	4
ヘルパーやケアマネジャー等、資格取得を目指したい	1	2	3	4

ご協力、誠にありがとうございます。

- 
1. Fujisawa SST コミュニティケアの取り組み
  2. Fujisawa SST スマート&エコな暮らしの実現
  3. インターネットインフィニティー社のビジネスを通じた社会的価値の創出
  4. リエゾンワークス社のビジネスを通じた社会的価値の創出

2019年度 神奈川県 SDGs社会的インパクト評価実証事業  
実証事業 報告書

SDGs達成への貢献に向けた  
Fujisawaサステイナブル・スマートタウンの取組み  
～スマート&エコな暮らし～

2020年3月25日

ケイスリー株式会社

本レポートは、Fujisawaサステイナブル・スマートタウンの特徴的な取り組みであるエネルギーの自産・自消について、社会的インパクト・マネジメントの手法を用い、特にSDGs達成貢献の観点から、社会的価値創出のシナリオ・現状・課題を分析し、今後の価値創出力向上のための施策を検討したものです。

## 目次

### 本編

#### サマリー

1. 対象事業の概要
2. 社会的インパクトマネジメント実施の目的
3. SDGs達成への貢献シナリオ
4. 価値創出力を高めるために ～社会的インパクトマネジメントから得られた教訓～

### 添付

- I. 事業内容・目標とSDGsゴールとの関連付け
- II. 指標・評価デザイン
- III. データ分析結果



## 進化し続けるエコ&スマートな街を目指して

### 機器・設備の導入

Fujisawaサステイナブル・スマートタウン (以下Fujisawa SST)は2014年4月の街びらき当初から、太陽光パネルを街全体に設置し、全戸建て住宅に省エネ・創エネ機器を導入し**使用エネルギー量、二酸化炭素(CO2)排出量の削減**を行っている。

### 意識や行動

現在の機器がいつか製品としての寿命を迎え、こども世代がおとなになってからも、Fujisawa SSTが将来にわたってエコで快適な暮らしを実現し続ける街として発展していくためには、**そこに暮らす人たちの環境意識や街への想いに裏付けされた行動が鍵**となる。



### 成果の見える化

#### サマリー (詳細p6・7)

- エネルギーマネジメントの技術により、エネルギー消費量はマイナス(余剰分は売電されている)となっている。
- CO2排出量は大幅に全国平均を下回っている。

### 社会的インパクト・マネジメントの実施

#### サマリー (詳細p8以降)

- 住民の方々は**環境意識が高く、また街の将来にわたる発展を願っている。**
- その思いを維持し、また行動につなげるために、Fujisawa SSTでは既に戸建て住宅毎の使用エネルギーの見える化や、住民参画による街づくりを行っている。
- 現在街で展開されている様々な住民向けサービスや、住民による活動を工夫したり、お互いを連動させたりすることで、子ども世代を含めた**更なる環境意識の向上や街のための行動を引きだしていける可能性が示唆された。**

### 関連するSDGs

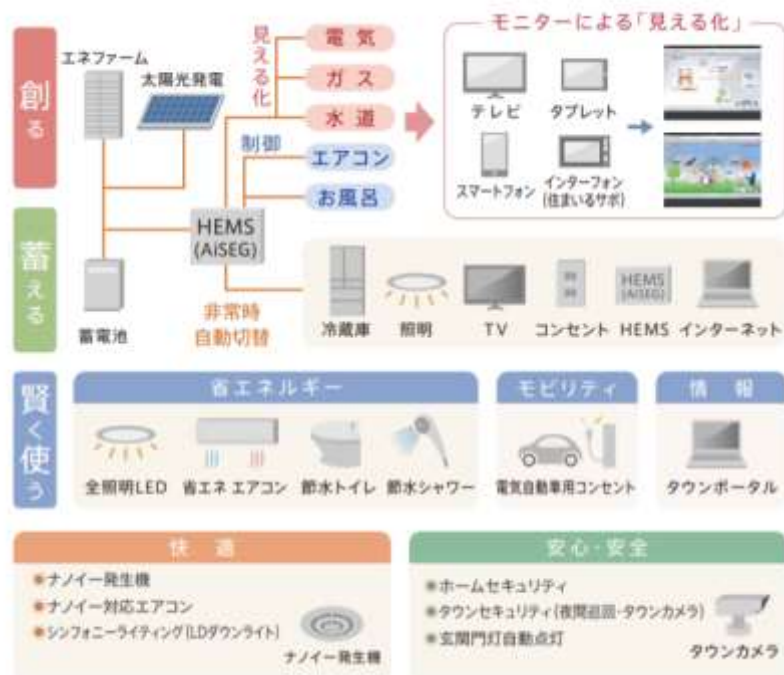


# 1 対象事業の概要

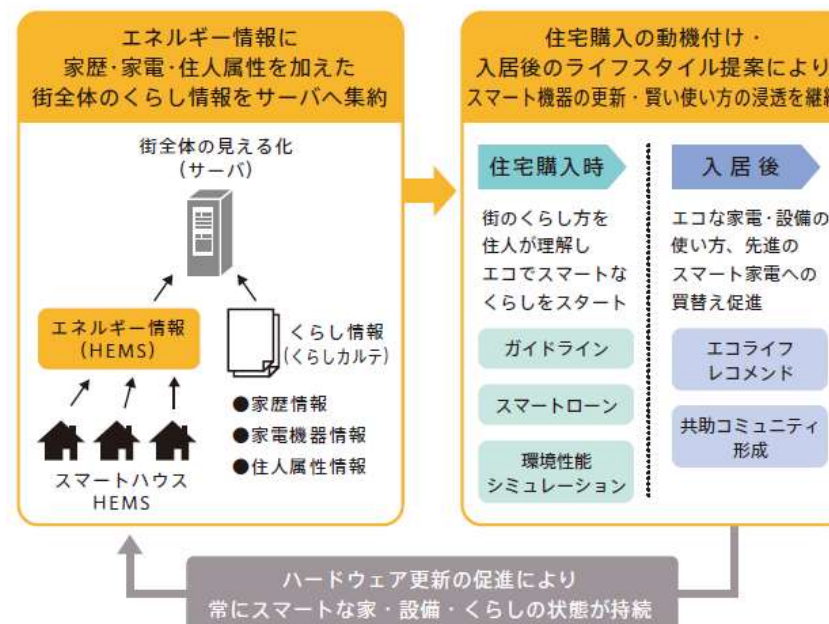
組織名/事業名	Fujisawa SST協議会/Fujisawaサステイナブル・スマートタウン(Fujisawa SST)におけるエコ&スマートな暮らしの実現
取組概要	Fujisawa SSTでは戸建住宅、施設、公共エリアに太陽光パネルや蓄電池、省エネ設備を導入し、街全体で二酸化炭素(CO2)排出量の大幅な削減を目指すとともに、街で使うエネルギーの多くを再生可能エネルギーでまかなう取り組みを実践している。住宅におけるエネルギー活用が効率的に行われるように「自立共生型エネルギー・マネジメント」概念の導入し、エネルギー使用量の情報提供やガイドラインの履行のモニタリングが行われている。
事業が取り組む社会的・環境的課題	日本国内では家庭部門、業務部門とも民生部門からの二酸化炭素排出量の伸びが増加し続けている。個人の取り組みでは限界があるなか、エネルギーマネジメントの技術と行動変容が起きやすくする工夫により、エネルギー消費を抑えるしくみが求められている。

## Fujisawa SSTのエネルギーマネジメントのしくみ

### 戸建て住宅のエネルギーマネジメントの設備



### エコ&スマートな暮らしを促進する働きかけ



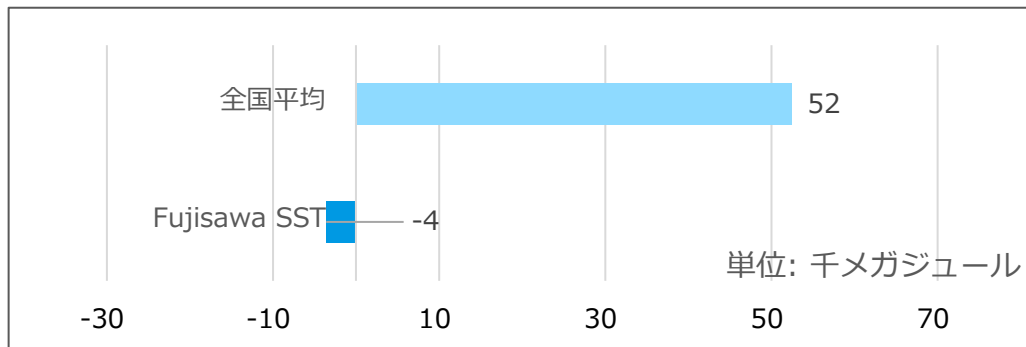
# 1 対象事業の概要 (続き)

## Fujisawa SSTの戸建て住宅 エネルギー消費量及びCO2排出量 全国比較

全国比較: 年間エネルギー消費量(2018年年度)

- エネルギー管理の技術により、エネルギー消費量はマイナス(余剰分は売電されている)

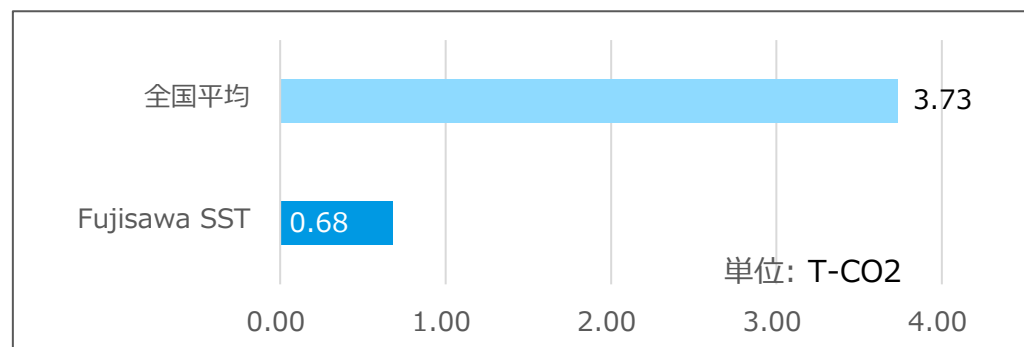
比較対象: 資源エネルギー庁「平成30年度 総合エネルギー統計」



全国比較: 年間CO2排出量(2018年年度)

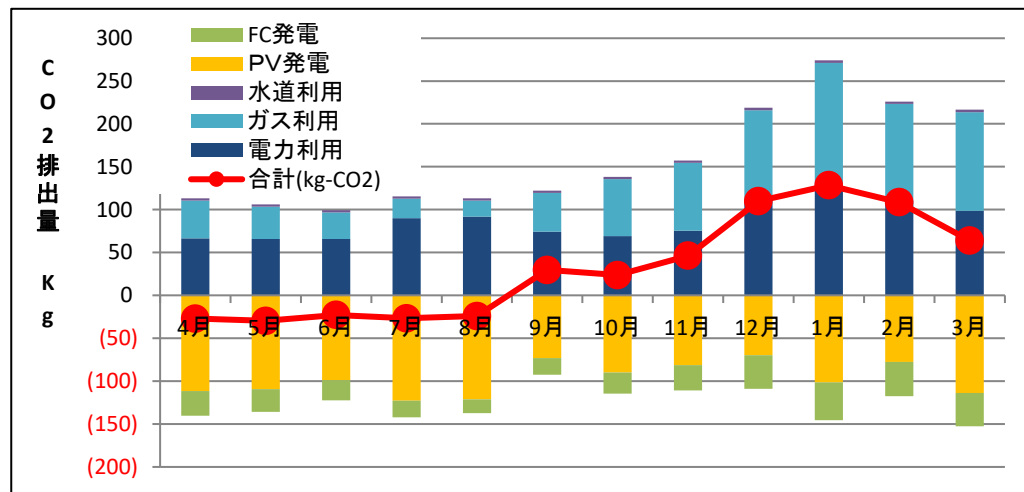
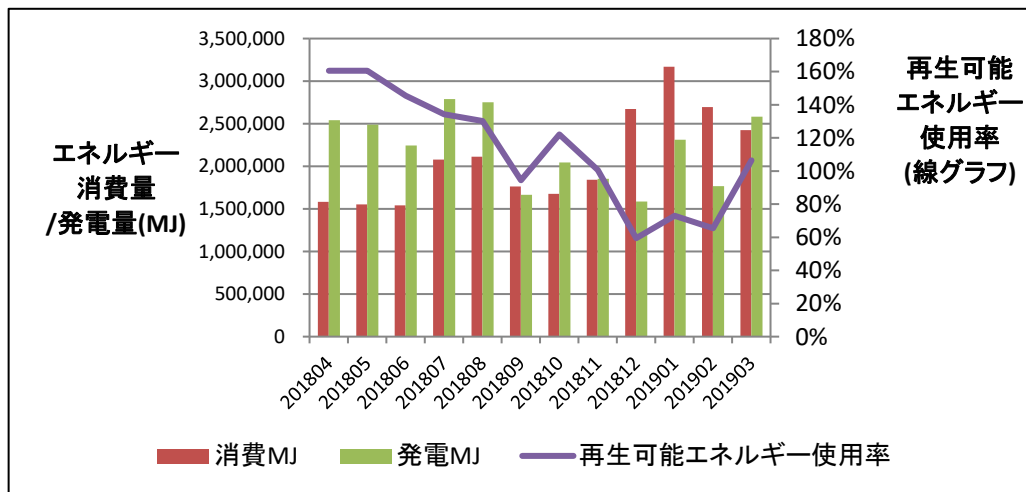
- CO2排出量は大幅に全国平均を下回る

比較対象: 環境省「平成30年 家庭部門のCO2排出実態統計調査 (確報値)」

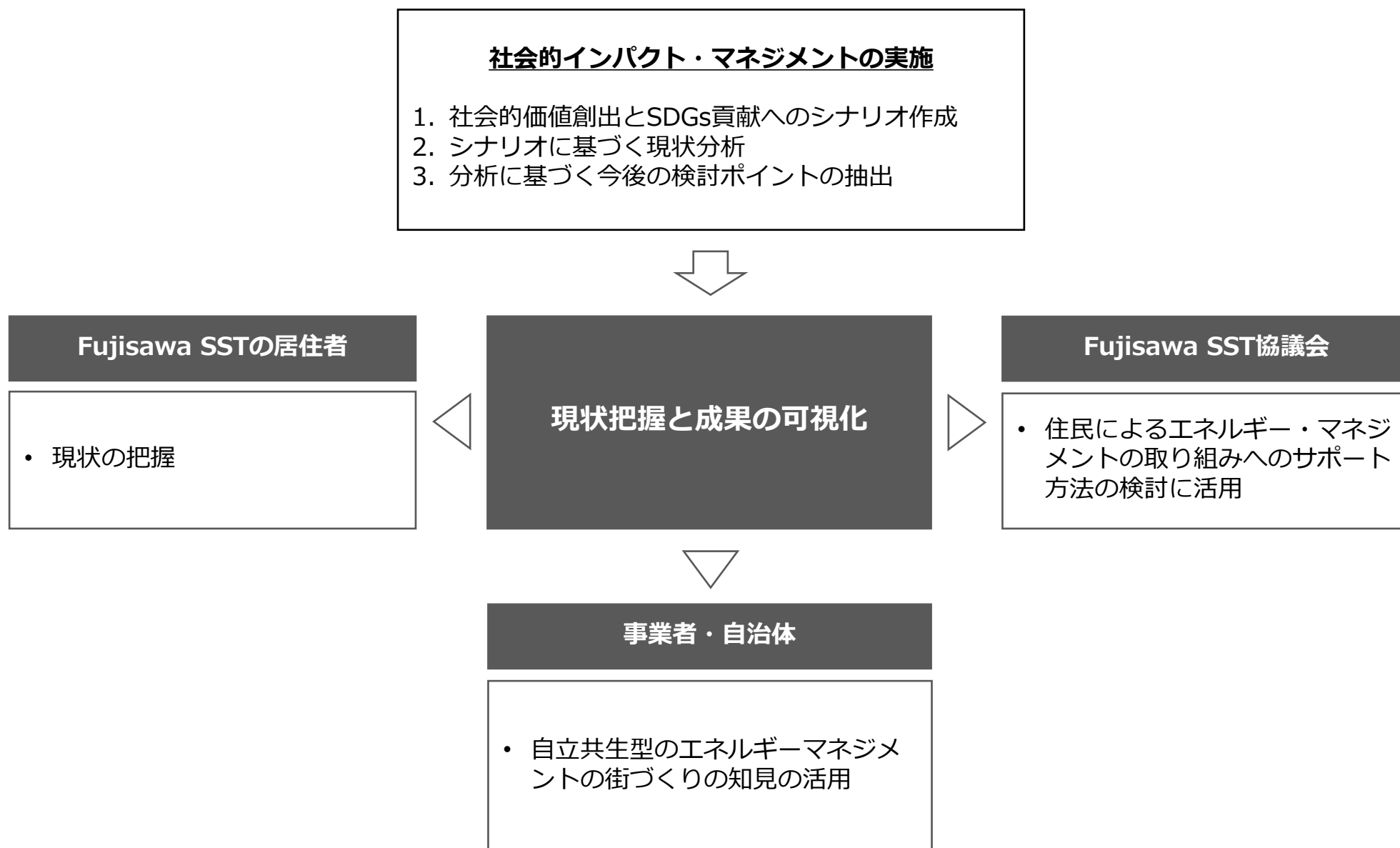


## Fujisawa SSTの戸建て住宅 エネルギー消費量及びCO2排出量の月次推移(2018年度)

- 冬期は使用エネルギーやCO2排出量が増えるが、春から夏にかけて発電量が消費量を上回り、相当のCO2排出量が相殺される。



## 2 社会的インパクト・マネジメント実施の目的



# 3 SDGs達成貢献へのシナリオ

## 取組目標

エコ&スマートな暮らしに対する住民の理解と行動に基づき、Fujisawa SST内の住宅及び施設のエネルギー関連設備のメンテナンス・アップグレードされ、街のエネルギーの自給自足のしくみが維持・発展する。

### 施設・設備の現状

戸建て・商業施設とも省・創・蓄エネを実現するハードが実稼働している

- ・ 太陽光発電システムの導入
- ・ 省エネルギーシステムの導入
- ・ 蓄エネルギーシステムの導入

### 活動・介入

- 0101 各世帯のエネルギーの見える化とエコなライフスタイルの提案
- 0102 エコ・イベントの開催
- 0103 防災訓練におけるエネルギー設備の理解促進
- 0201 ガイドラインの策定と改定
- 0202 ガイドラインへの住民・事業者の誓約
- 0203 ガイドラインの順守状態のモニタリング
- 0204 ガイドラインが守られていない場合の警告
- 0301 エネルギーの使用状況及びよりエコなライフスタイルを提案するレポートの送付(=0101)
- 0302 カーシェア・サービスの提供
- 0303 サイクルシェア・サービスの提供
- 0401 省・創・蓄エネに関する新規サービスの実証実験
- 0501 街づくり委員会、コミッティ役員会の設置
- 0502 街づくり委員会(隔月)、コミッティ役員会(毎月)の定期的開催

\*タウンデザイン及びコミュニティデザインガイドライン

### 直接アウトカム

- 01 住民の理解と行動  
住民が無理なく進んで、省・創エネルギーのための活動や習慣を維持・強化をしている
- 02 ガイドライン  
Fujisawa SSTのガイドライン(\*)のエネルギーに関する項目が遵守される。
- 03 エコなタウンサービス利用  
住民がエコなタウンサービスを利用する
- 04 技術革新  
省・創・蓄新規サービスが実装可能な状態になる
- 05 住民や事業者による街の運営  
課題の把握や解決に向けた取り組みが推進される

### 中間アウトカム

Fujisawa SSTにおけるエネルギーの自給自足を維持・発展するために、将来にわたって住民と事業者によって課題が解決され続ける

### 最終アウトカム






Fujisawa SSTがエコ&スマートなくらしを実現する街として進化し続ける

### 波及効果

- 街の課題が住民や事業者によって解決される風土が醸成される
- 自立共生型のI社格・マネジメントの街づくりの知見が他地域でも活用される
- 将来にわたってFujisawa SSTの街の価値が維持・向上する



### 3 SDGs達成貢献へのシナリオ

アウトカム		紐づけた SDGsターゲット	ターゲット紐づけの解釈と理由
中間	Fujisawa SSTにおけるエネルギーの自給自足を維持・発展するために、将来にわたって住民と事業者によって課題が解決され続ける	 <p>9.4 2030年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。全ての国々は各国の能力に応じた取組を行う。</p>	Fujisawa SSTでは「創エネ・蓄エネ・省エネ」のハイブリッドな先進技術を街の施設すべてに導入するとともに、設備の稼働状況をモニタリングし、維持している。
		 <p>12.8 2030年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。</p>	Fujisawa SSTは「エネルギーの自給自足」や自然との共生を理念にかかげ、入居時には持続可能な街の維持・発展のための「タウンルール」の承諾が求められる。入居後はエネルギーの使用状況等の情報が街の運営支援会社から提供される。
		 <p>17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。</p>	Fujisawa SSTでは住民の協力のもと、事業者による最新技術の実証実験が行われており、その中には環境負荷の低減に貢献する実験も含まれる。
最終	Fujisawa SSTがエコ&スマートな暮らしを実現する街として進化し続ける	 <p>7.2 2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。 7.3 2030年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。</p>	Fujisawa SSTでは太陽光発電が全ての住宅およびその他施設に設置されており、余剰分は販売されている。 また、エネルギー効率の高い建物や設備が街全体に導入されている。
		 <p>11.3 2030年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、全ての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。</p>	Fujisawa SSTは「100年続く街」をビジョンにかかげ、持続可能な街の運営に関し、事業者からなるFujisawa SST協議会と住民からなるコミティが協議するしくみがあり、住民の積極的な参画を求めている。

# 3 SDGs達成貢献へのシナリオ 検証結果概要

凡例 ◎：良好な結果であり、特段の課題はない。更なる成果の増大が期待される。  
 ○：概ね良好な結果だが、一部に課題が見られる。改善策の検討・実施を要する。  
 △：課題があり、改善すべき余地が十分にある。

  検証対象となる項目

## 施設・設備の現状

戸建て・商業施設とも省・創・蓄エネを実現するハードが実稼働している

- ・ 太陽光発電システムの導入
- ・ 省エネルギーシステムの導入
- ・ 蓄エネルギーシステムの導入

## 活動・介入

## 直接アウトカム

## 中間アウトカム

## 最終アウトカム

0101 各世帯のエネルギーの見える化とエコなライフスタイルの提案  
 0102 エコ・イベントの開催  
 0103 防災訓練におけるエネルギー設備の理解促進

**01 住民の理解と行動**  
 住民が無理なく進んで、省・創エネルギーのための活動や習慣を維持・強化をしている

◎ 理解  
 ○ 消費行動  
 △ 次世代教育

0201 ガイドラインの策定と改定  
 0202 ガイドラインへの住民・事業者の誓約  
 0203 ガイドラインの順守状態のモニタリング  
 0204 ガイドラインが守られていない場合の警告

**02 ガイドライン**  
 Fujisawa SSTのガイドライン(\*)のエネルギーに関する項目が遵守される。

\*タウンデザイン及びコミュニティデザインガイドライン

0301 エネルギーの使用状況及びよりエコなライフスタイルを提案するレポートの送付(=0101)  
 0302 カーシェア・サービスの提供  
 0303 サイクルシェア・サービスの提供

**03 エコなタウンサービス利用**  
 住民がエコなタウンサービスを利用する

○

0401 省・創・蓄エネに関する新規サービスの実証実験

**04 技術革新**  
 省・創・蓄新規サービスが実装可能な状態になる

0501 街づくり委員会、コミッティ役員会の設置  
 0502 街づくり委員会(隔月)、コミッティ役員会(毎月)の定期的開催

**05 住民や事業者による街の運営**  
 課題の把握や解決に向けた取り組みが推進される

◎

Fujisawa SSTにおけるエネルギーの自給自足を維持・発展するために、将来にわたって住民と事業者によって課題が解決され続ける

Fujisawa SSTがエコ&スマートなくらしを実現する街として進化し続ける

## 波及効果

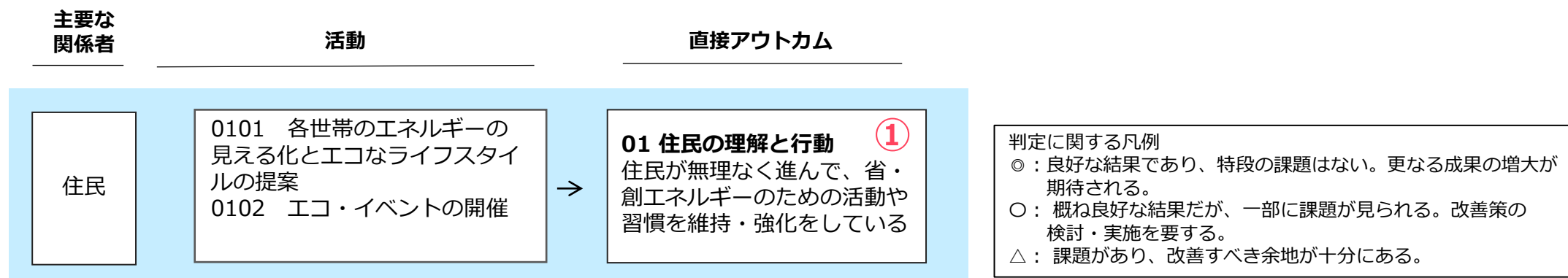
街の課題が住民や事業者によって解決される風土が醸成される

自立共生型のI社キーマネジメントの街づくりの知見が他地域でも活用される

将来にわたってFujisawa SSTの街の価値が維持・向上する

### 3 SDGs達成貢献へのシナリオ（検証）①

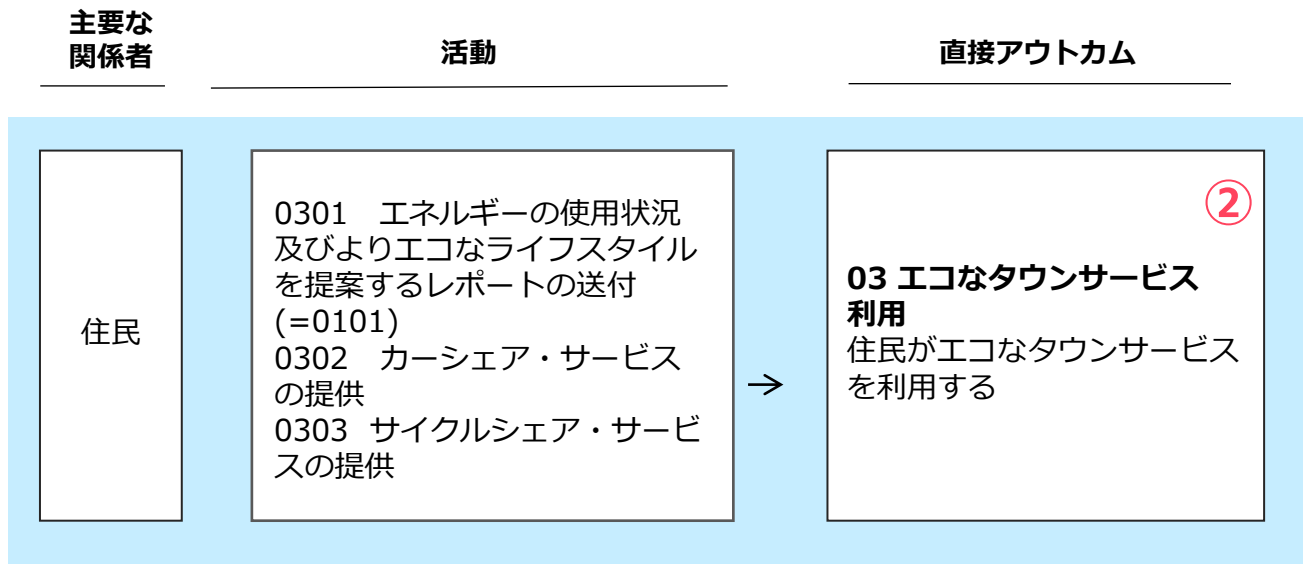
- シナリオを検証するため、重要かつ測定可能な変化について指標を立て、測定しました。



	直接アウトカム	測定結果	評価
①	住民の省・創・蓄エネルギーの理解が進んでいるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>Fujisawa SSTで暮らす前よりも自分の家のエネルギー消費について気にするようになった回答が大半で、「前から気にしていたので変わらない」と答えた回答とあわせて9割以上がエネルギー消費を気にしている。</li> <li>気にするようになった理由では「エネルギー・レポート」「エネルギーック」等によるエネルギー使用量の可視化が最も影響が大きかった。</li> </ul>	◎
	消費行動が維持・強化されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境に負担をかけない今の暮らしを維持していきたいと思う一方で、エコな暮らしを支える機器が壊れた際には、高くても買う、どちらともいえない、高ければ買わないに三分された。</li> </ul>	○
	こどもの環境学習の機会を利用しているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学生以下のこどもがいる家庭のうち、大半は子ども向けのエコについて学ぶイベントに参加させたことがなかった。「エコについてのイベントがあった記憶がない」とのコメントもあった。</li> </ul>	△

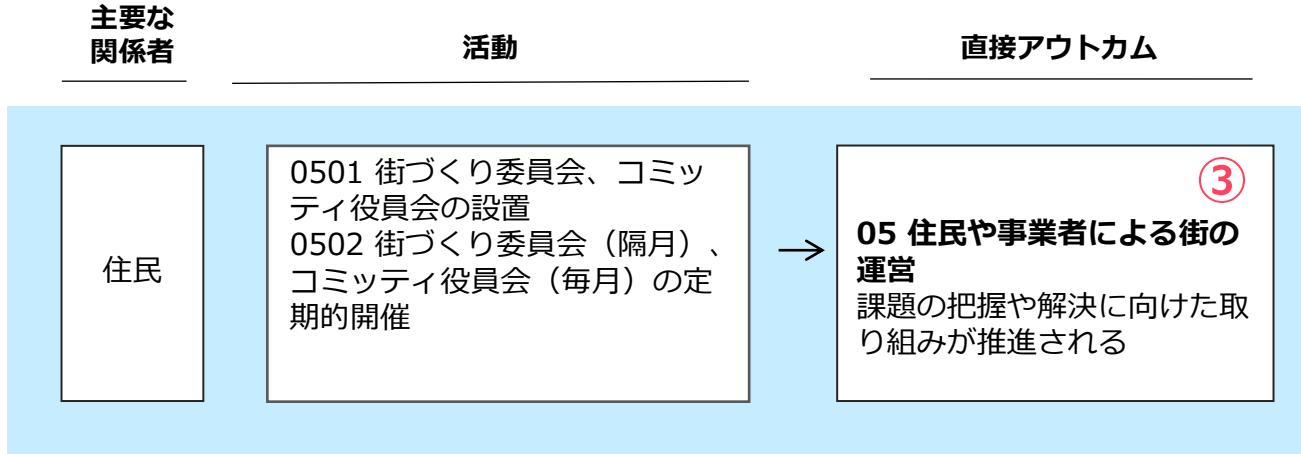


### 3 SDGs達成貢献へのシナリオ（検証）②



	直接アウトカム	測定結果	評価
②	カーシェアを利用しているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>カーシェアの利用は回答者の2割で、利用する理由としては経済性が一番多く、次に利便性（2台目自家用車の代わりとして、便利）、環境に優しいことが挙げられた。</li> <li>エネルギー・レポートが住民のエネルギー使用の意識化に最も貢献していることが明らかになった。</li> </ul>	○
	サイクルシェアを利用しているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>カーシェアの利用は回答者の2割で、利用する理由としては経済性が一番多く、次に利便性（2台目自家用車の代わりとして、便利）、環境に優しいことが挙げられた。</li> <li>エネルギー・レポートが住民のエネルギー使用の意識化に最も貢献していることが明らかになった。</li> </ul>	○

### 3 SDGs達成貢献へのシナリオ（検証）③



	直接アウトカム	測定結果	評価
③	街の持続発展について関心が高いか	<ul style="list-style-type: none"> <li>次の世代までFujisawa SSTが持続・発展して欲しいと回答した数は「非常にそう思う」「どちらかといえばそう思う」併せて95%で、理由については、半数近くが環境問題の悪化を防ぐためと回答し、快適に住み続けられる街であって欲しいこと、街づくりのモデルとなることが続いた。</li> </ul>	◎
	取組への意欲はあるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>実証実験には、回答者全員が協力する意思を示し、そのなかで生活に少し不便があっても協力したいと答えた割合が31%だった。</li> <li>エコ&amp;スマートFujisawa SSTの発展のために、56人中51人が家の設備を維持すると半数が回答したほか、26人が街づくりの参加、15人が周りの人と話すことに意欲を示した。</li> </ul>	◎

- 測定結果を踏まえ、以下の改善・更なる向上のための施策が考えられる。

アウトカム	指標測定結果の解釈	改善・更なる向上のための施策案
<p><b>01 住民の理解と行動</b> 住民が無理なく進んで、省・創エネルギーのための活動や習慣を維持・強化をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エコな暮らしを求めてFujisawa SSTに入居した住民の環境意識が、使用エネルギーの見える化により維持・強化されている。</li> <li>エコな暮らしを支える機器の買い替えの際の情報提供や働きかけが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用エネルギーの<b>見える化を継続・強化</b>する。</li> <li>エコな機器の平常時・災害時のメリットについて<b>防災訓練</b>を通じて理解を深める取り組みを継続する。</li> <li>エコな機器や家電の寿命が近づく頃に家屋の定期点検時等適切な機会を利用して、新しい機器の提案ができるように、<b>働きかけのしくみ</b>をディベロッパーや家電販売者等、街のエコ&amp;スマートな暮らしを支えるステークホルダーが協働して構築する。</li> </ul>
<p><b>05 住民や事業者による街の運営</b> 課題の把握や解決に向けた取り組みが推進される</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの年代に応じた環境教育の機会が限られている。</li> <li>子どもの環境意識を高め、エコ&amp;スマートな街に誇りを持てるような働きかけが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの年代に応じた環境教育の機会を充実させて、子どもたちの環境意識を高めるとともに、<b>街の担い手としての気持ちを持てる働きかけ</b>を行う。 ※できるだけ負荷なく、持続可能な方法を模索する。 【例】参加者の多い既存のキッズ・ファミリー向けイベントに環境教育の要素を加える / 小学生の「自由研究」や中学生以上の「調べ学習」「課題」の題材として、エコ&amp;スマートの技術や街づくりの情報を提供したり、まちのエコ&amp;スマートな暮らしの仕事に携わるおとなと交流できるようにする。</li> </ul>
<p><b>03 エコなタウンサービス利用</b> 住民がエコなタウンサービスを利用する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モビリティのタウンサービスがニーズのある住民に活用されている。</li> <li>使用エネルギーの見える化はアウトカム01に貢献している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミッティ等で、日々の街の課題に加えて、より多くの住民の参画や、こども世代の環境教育等、<b>100年先を見越した街の担い手育成の戦略</b>についても検討する。</li> <li>戦略の実施において「コミッティセンター」、「班会」、「寺子屋」、「ウェルネススクエア南館」等、住民の交流を促進するを<b>地域資源の連携と活用</b>を進める。</li> </ul> <p>(新規のエコなタウンサービスが導入される際にはアウトカム01「住民の理解と行動」等他のアウトカムと相乗効果を生むように工夫点を検討する)</p>

---






# 添付資料

- I. 事業内容・目標とSDGsゴールとの関連付け
- II. 指標・評価デザイン
- III. データ分析結果

# I 事業内容・目標とSDGsゴールとの関連付け

SDGsゴール		正の影響のあるターゲット		負の影響を与えるターゲット
		コミットするターゲット	波及効果のありうるターゲット	
1	あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ	-	-	-
2	飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する	-	-	-
3	あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する	3.8、3.d	-	-
4	すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する	-	-	-
5	ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る	-	-	-
6	すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する	-	-	-
7	すべての人に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する	7.2	-	-
8	すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する	-	-	-
9	強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る	9.4	-	-
10	国内および国家間の格差を是正する	-	-	-
11	都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする	11.3	11.5	-
12	持続可能な消費と生産のパターンを確保する	12.8	-	-
13	気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る	-	-	-
14	海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する	-	-	-
15	陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る	-	-	-
16	持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する	-	-	-
17	持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する	17.17	-	-

# I-1 SDGsターゲット(コミットするSDGsターゲット) (再掲)

アウトカム		紐づけた SDGsターゲット	ターゲット紐づけの解釈と理由
中間	Fujisawa SSTにおけるエネルギーの自給自足を維持・発展するために、将来にわたって住民と事業者によって課題が解決され続ける	 <p>9.4 2030年までに、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させる。全ての国々は各国の能力に応じた取組を行う。</p>	Fujisawa SSTでは「創エネ・蓄エネ・省エネ」のハイブリッドな先進技術を街の施設すべてに導入するとともに、設備の稼働状況をモニタリングし、維持している。
		 <p>12.8 2030年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。</p>	Fujisawa SSTは「エネルギーの自給自足」や自然との共生を理念にかかげ、入居時には持続可能な街の維持・発展のための「タウンルール」の承諾が求められる。入居後はエネルギーの使用状況等の情報が街の運営支援会社から提供される。
		 <p>17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。</p>	Fujisawa SSTでは住民の協力のもと、事業者による最新技術の実証実験が行われており、その中には環境負荷の低減に貢献する実験も含まれる。
最終	Fujisawa SSTがエコ&スマートな暮らしを実現する街として進化し続ける	 <p>7.2 2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。 7.3 2030年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる。</p>	Fujisawa SSTでは太陽光発電がを全ての住宅およびその他施設に設置されており、余剰分は販売されている。 また、エネルギー効率の高い建物や設備が街全体に導入されている。
		 <p>11.3 2030年までに、包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、全ての国々の参加型、包摂的かつ持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する。</p>	Fujisawa SSTは「100年続く街」をビジョンにかかげ、持続可能な街の運営に関し、事業体からなるFujisawa SST協議会と住民からなるコミッティが協議するしくみがあり、住民の積極的な参画を求めている。

## II 指標・評価デザイン：スケジュール

No.		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	マイルストーン	● キックオフ			● ロジックモデル 完成	● 指標と測定方法 設定	● アンケート 回収	● 結果 導出	● 学びの 抽出	● 最終報告
1	課題・事業内容整理		ヒアリング ・整理							
2	ロジックモデル作成			作成						
3	指標設定				指標セット 作成					
4	測定・分析						測定	分析		
5	学びの抽出 報告書作成							とりまとめ 作成		

## 取組目標

エコ＆スマートな暮らしに対する住民の理解と行動に基づき、Fujisawa SST内の住宅及び施設のエネルギー関連設備のメンテナンス・アップグレードされ、街のエネルギーの自給自足のしくみが維持・発展する。

### 施設・設備の現状

戸建て・商業施設とも省・創・蓄エネを実現するハードが実稼働している

- ・ 太陽光発電システムの導入
- ・ 省エネルギーシステムの導入
- ・ 蓄エネルギーシステムの導入

### 活動・介入

0101 各世帯のエネルギーの見える化とエコなライフスタイルの提案  
0102 エコ・イベントの開催  
0103 防災訓練におけるエネルギー設備の理解促進

0201 ガイドラインの策定と改定  
0202 ガイドラインへの住民・事業者の誓約  
0203 ガイドラインの順守状態のモニタリング  
0204 ガイドラインが守られていない場合の警告

0301 エネルギーの使用状況及びよりエコなライフスタイルを提案するレポートの送付(=0101)  
0302 カーシェア・サービスの提供  
0303 サイクルシェア・サービスの提供

0401 省・創・蓄エネに関する新規サービスの実証実験

0501 街づくり委員会、コミッティ役員会の設置  
0502 街づくり委員会（隔月）、コミッティ役員会（毎月）の定期的開催

\*タウンデザイン及びコミュニティデザインガイドライン

### 直接アウトカム

**01 住民の理解と行動**  
住民が無理なく進んで、省・創エネルギーのための活動や習慣を維持・強化をしている

**02 ガイドライン**  
Fujisawa SSTのガイドライン(\*)のエネルギーに関する項目が遵守される。

**03 エコなタウンサービス利用**  
住民がエコなタウンサービスを利用する

**04 技術革新**  
省・創・蓄新規サービスが実装可能な状態になる

**05 住民や事業者による街の運営**  
課題の把握や解決に向けた取り組みが推進される

### 中間アウトカム

Fujisawa SSTにおけるエネルギーの自給自足を維持・発展するために、将来にわたって住民と事業者によって課題が解決され続ける

### 最終アウトカム

Fujisawa SSTがエコ＆スマートなくらしを実現する街として進化し続ける

### 波及効果

街の課題が住民や事業者によって解決される風土が醸成される

自立共生型のI社社「マナジ」メントの街づくりの知見が他地域でも活用される

将来にわたってFujisawa SSTの街の価値が維持・向上する



## II 指標・評価デザイン：指標設計

1 準備

2 ロジック  
モデル  
作成

3 データ  
収集

4 データ  
分析

5 解釈  
活用

アウトカム		何を知りたいのか	指標	どう測るのか	いつ測るのか	誰が集めるか
現状	Fujisawa SSTが高い 省エネ・創エネ・蓄 エネ率を維持してい る	省エネ、創エネ、蓄エネの 状況(現時点及び予測値)	エネルギー消費量の(家庭当たり/ ひとりあたり) ・ 再生エネルギー消費率 ・ 施設ごとのCO2排出量削減	既存データの開示・編集	12～1月	タウンマネジメント会社
	01省・創・蓄エネを 実現するハードが実 稼働する	省・創・蓄エネを実現する ファシリティの導入状況及 び稼働状況	省・創・蓄エネを実現するファシ リティの導入率 稼働率	既存データの開示・編集	12～1月	タウンマネジメント会社
	住民がエコでスマート な暮らしを進んで選択 している	住民がエコでスマートな暮 らしを進んで選択してい るか		住民アンケート※150戸に 配布、50戸から回答(予測)	1月	タウンマネジメント会社/ケ イスリー
最終	(データ収集しない)					
直接	01住民の省・創・蓄 エネの理解が進み消 費行動が維持・強化 される	住民の省・創・蓄エネの理 解が進んでいるか 消費行動が維持・強化され ているか	今使っているのものが故障したと きに次も省・創・蓄エネ製品を購 入するか Fujisawa SSTで暮らすことで CO2排出量削減の重要性の理解が 増したか 住民が省エネ・創エネ・蓄エネの 生活を快適で安心と感じているか 等の住民意識	住民アンケート※150戸に 配布、50戸から回答(予測)	1月	タウンマネジメント会社/ケ イスリー
	03住民がエコなタウ ンサービスを利用す る	住民がどの程度エコなタウ ンサービスを利用してい るのか	利用状況のデータ	既存データの開示・編集	12～1月	タウンマネジメント会社

## II 指標・評価デザイン：アンケート項目

① 準備

② ロジック  
モデル  
作成

③ データ  
収集

④ データ  
分析

⑤ 解釈  
活用

#	設問	種類	回答					
1	ご回答者の性別	単数選択	男性	女性	その他			
2	ご回答者の年代	単数選択	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代以上
5	ご家族に小学生以下のお子様はいらっしゃいますか？		はい	いいえ				
6	エコ&スマートな暮らしの観点から教えてください： Fujisawa SSTに住むことを決めた理由は何ですか？ (複数選択可)	複数選択	太陽光発電と省エネ構造の家によって環境負荷のない暮らしができるから	無理なくエコな暮らしができるから	災害時もエネルギーが使えるから	街全体がエコに取り組んでいるから	100年続く街を目指して持続可能な街の在り方を目指しているから	その他( )
7	現在のFujisawa SSTの太陽光発電や省エネルギーな設備等のエコ&スマートな暮らしは快適だと思いますか？	尺度選択	非常にそう思う	どちらかという とそう思う	どちらともい えない	あまりそう思わ ない	全くそう思わな い	
8	上記の通り答えた理由を教えてください	短文記述						
9	Fujisawa SSTに暮らし始めてから、以前よりも自分の家のエネルギー消費について気になるようになりましたか？	単数選択	暮らす前よりも 気にするように なった	前から気にして いたので変わら ない	前から気にして おらず、今も気 にしていない			
10	(気にするようになった方)何がきっかけでしたか？ (例：エネルギーレポートを読んだから)	短文記述						
11	環境に負担をかけない今の暮らしを維持していきたいと思えますか？	尺度選択	非常にそう思う	どちらかという とそう思う	どちらともい えない	あまりそう思わ ない	全くそう思わな い	
12	(お子さんがいる場合)Fujisawa SST内で開催される子ども向けのエコについて学ぶイベントに参加させたことはありますか？	単数選択	はい	いいえ				
13	どのようなイベントに参加しましたか？(例：パナソニックホームズの子供向けエコ教室)	短文記述						
14	今使っている太陽光パネルや省エネ家電など、エコな暮らしを支える機器が、将来壊れたら、次もエコな機器を買いますか？	単数選択	エコではない機 器より高くても 買う	エコな機器より も高ければ買わ ない	どちらともい えない			
15	カーシェアを利用していますか？	単数選択	利用している	していない				
16	(利用していると答えた方)利用する一番の理由は何ですか？	単数選択	経済的だから	環境に優しいか ら	その他( )			
17	これからも、Fujisawa SSTがエネルギーを生み出し、環境に優しい街として、次の世代まで持続・発展して欲しいと思えますか？	尺度選択	非常にそう思う	どちらかという とそう思う	どちらともい えない	あまりそう思わ ない	全くそう思わな い	
18	省エネ・創エネの技術発展のために、Fujisawa SSTで企業が行う実証事業に協力したいと思いますか？	単数選択	生活に少し不便 があっても協力 したい	生活に不便がな ければ協力した い	協力したくない	その他( )		
19	エコ&スマートなFujisawa SSTが持続・発展するためにやっていきたいことはありますか？	複数選択	自分の家の省エ ネ・創エネ設備 を維持する	エコについてま わりの人と話す 機会を増やす	街づくりに参加 する(街づくり 委員会やコミッ ティへの参加)	その他( )		

- アンケート調査実施概要は以下のとおりである。

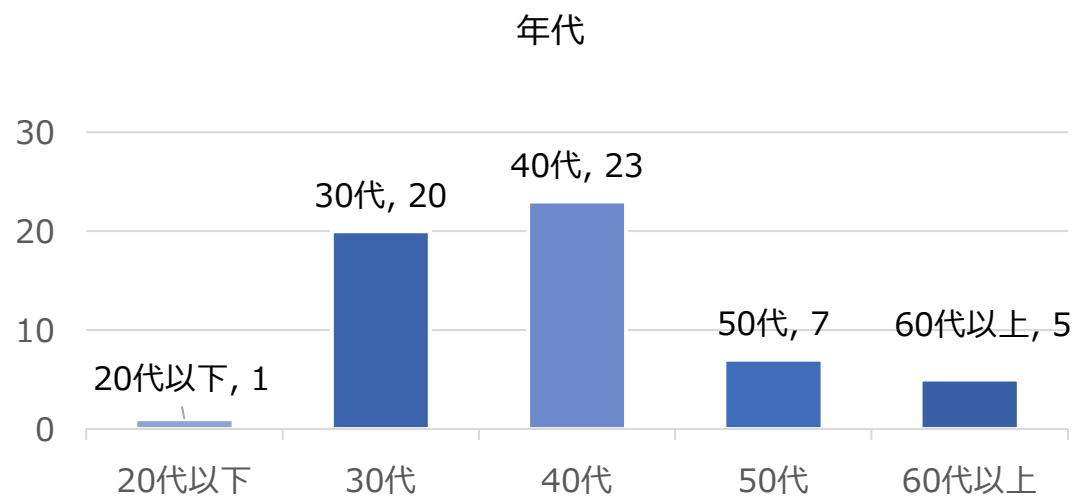
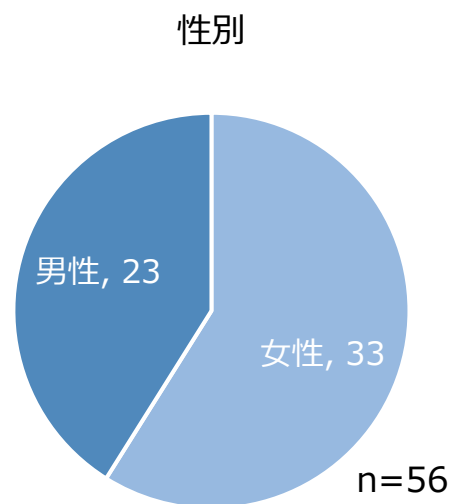
FSST住民アンケート

実施時期：2020年1月

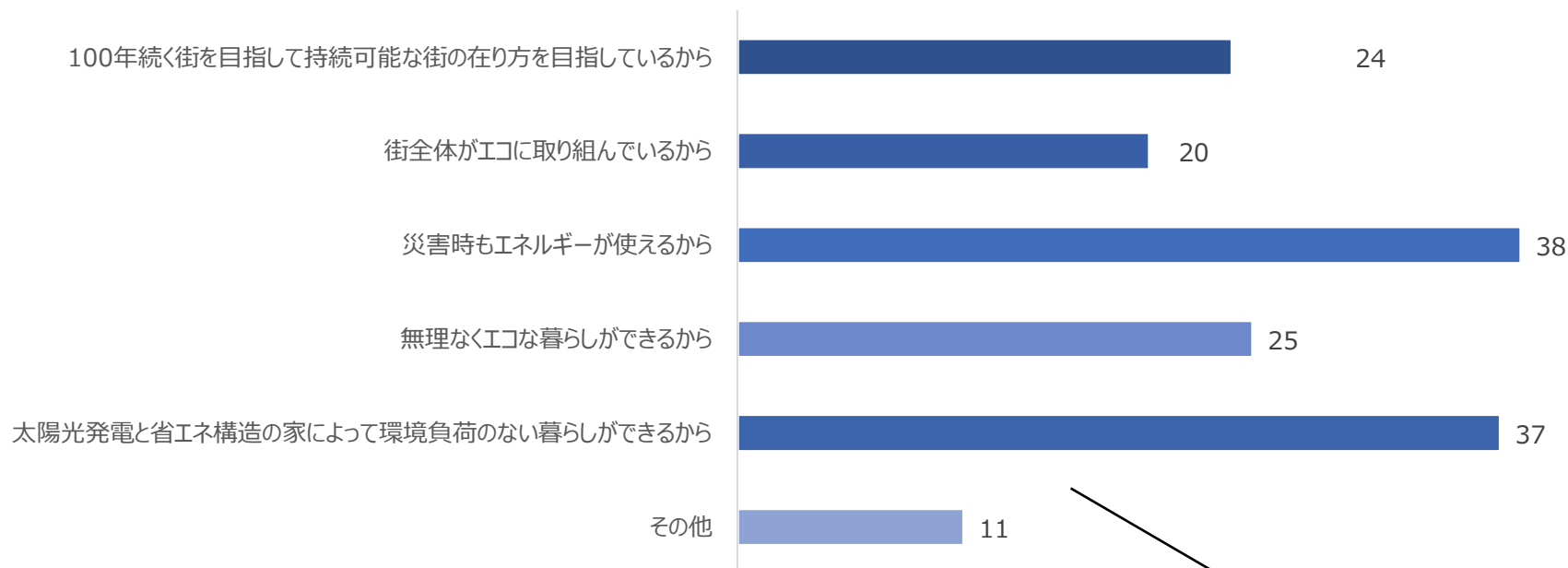
対象：FSST住民 計200人（うち有効回答数 56人）

実施方法：段階評定法及び自由回答法を用いた

- 回答者の属性情報は以下の通りである。

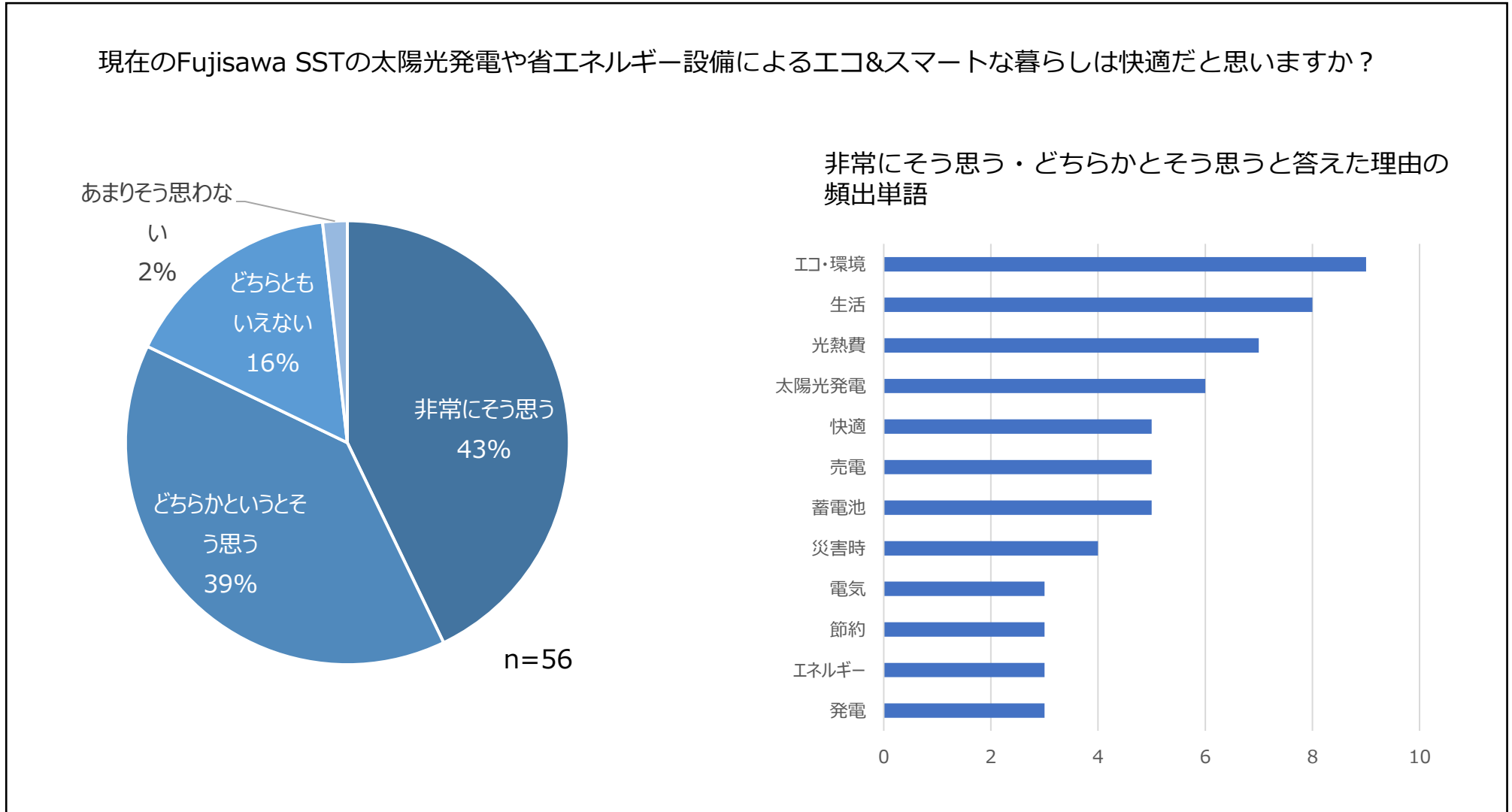


- エコ&スマートな暮らしの観点からFSSTを選んだ理由について複数回答を得た(回答者56人)。
- 災害時もエネルギーが使えるという居住者の利便性に次いで、環境負荷のない暮らしができることを選んだ回答者が多かった。

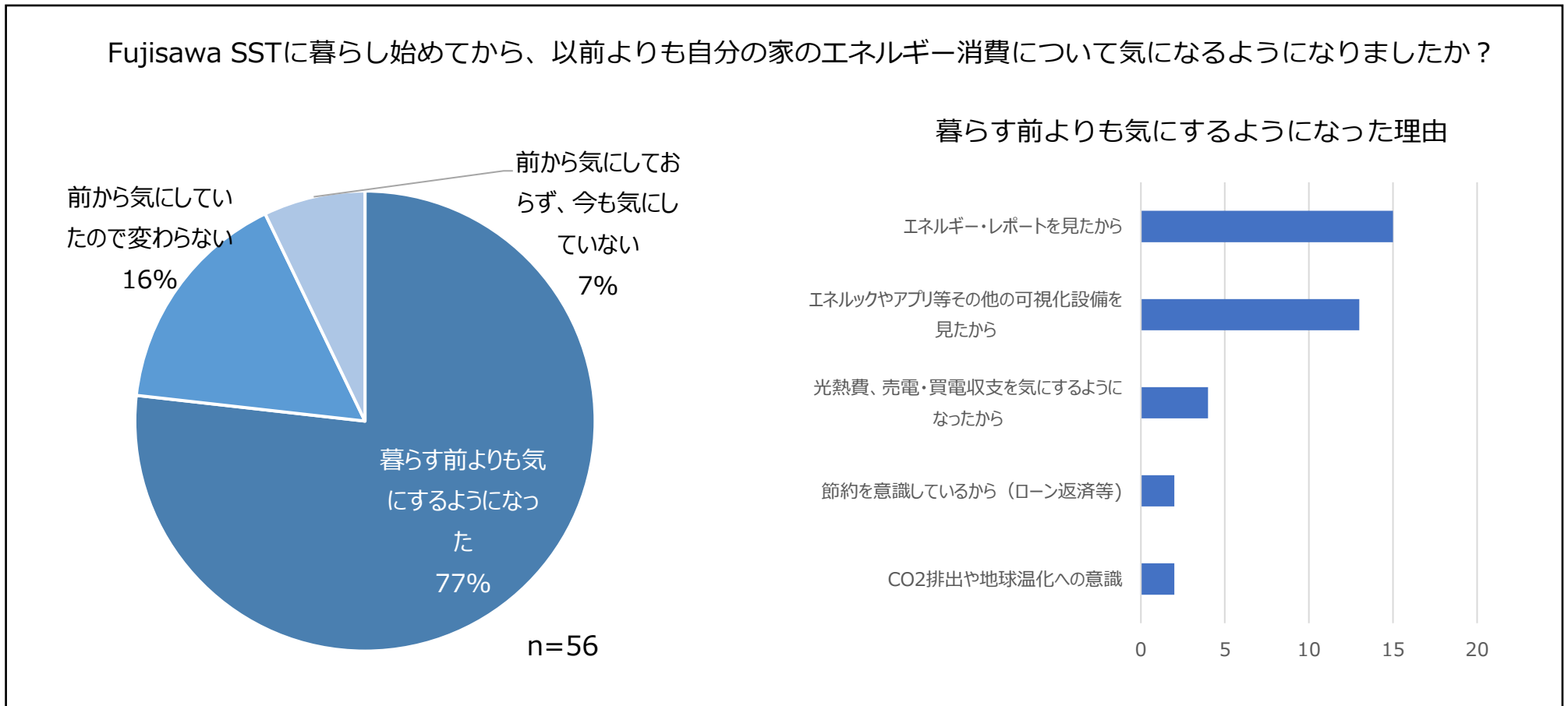


- サステナブル技術が面白そうだから
- 街並みが美しく洗練されているから
- 街並みの景観、マネジメント会社がある、ご近所の方がおそらく安心できる方達だと思ったから
- 角地で日当たりがよく、海までそこまで遠くもなくハザードマップ上も安全だったから
- 子供の環境として良さそうだったから
- 実家に近いから
- 住宅街になると決まる前から「家が建ったら住みたい」と考えていたから
- 信頼と好感を持っていたパナソニックが開発主体だったから
- 新しいコミュニティが魅力
- 地域コミュニティの醸成に取り組んでいるから
- 藤沢は天候が温暖なので

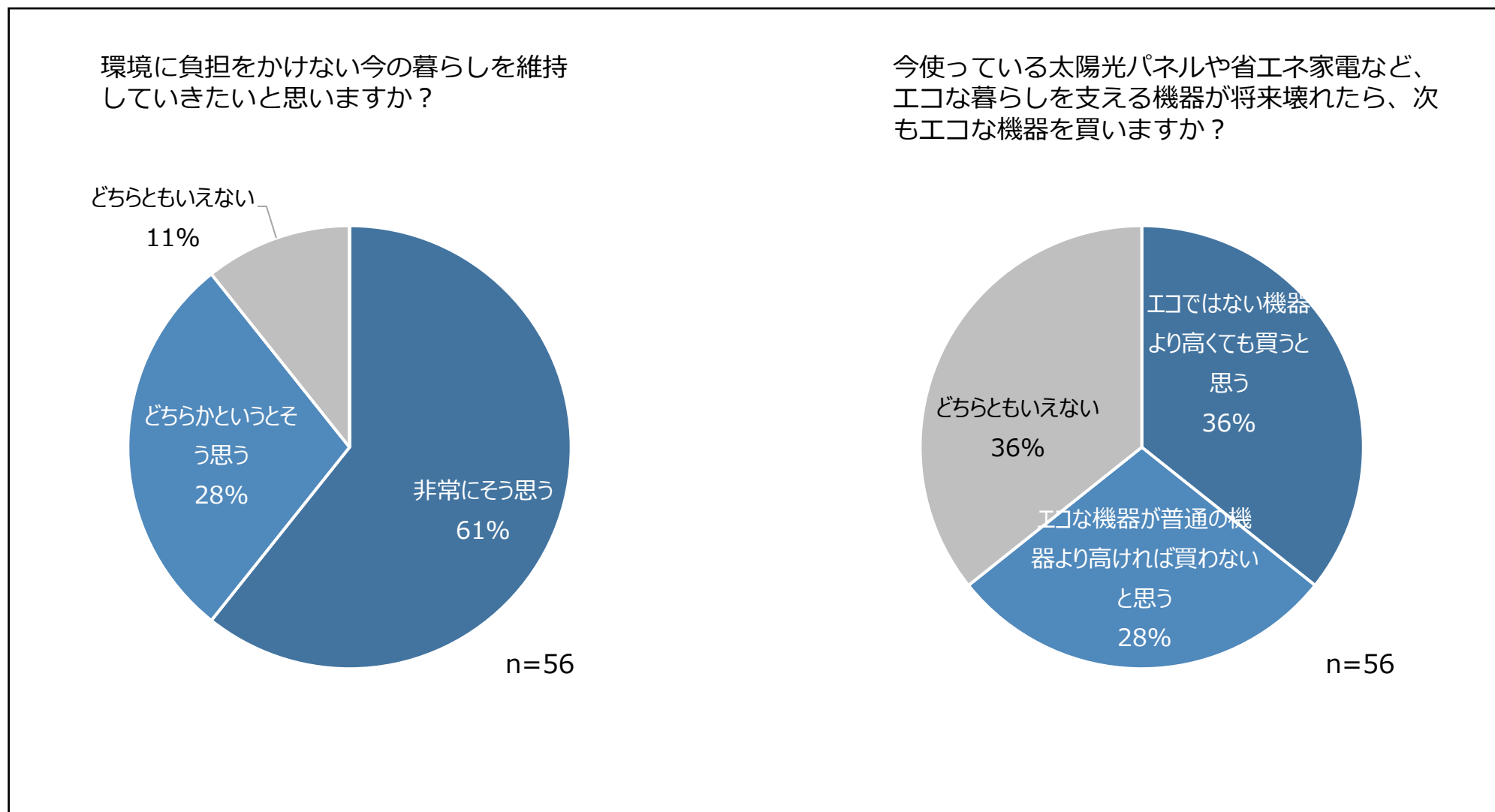
- 現在のFujisawa SSTの太陽光発電や省エネルギー設備によるエコ&スマートな暮らしは快適かどうかという質問に対して82%が肯定しており、その理由として環境負荷をかけないことと、経済性、快適性が両立できることが挙げられていた。



- Fujisawa SSTで暮らす前よりも自分の家のエネルギー消費について気にするようになった回答が大半で、「前から気にしていたので変わらない」と答えた回答とあわせて9割以上がエネルギー消費を気にしている。
- 気にするようになった理由では「エネルギー・レポート」「エネルック」等によるエネルギー使用量の可視化が最も影響が大きかった。

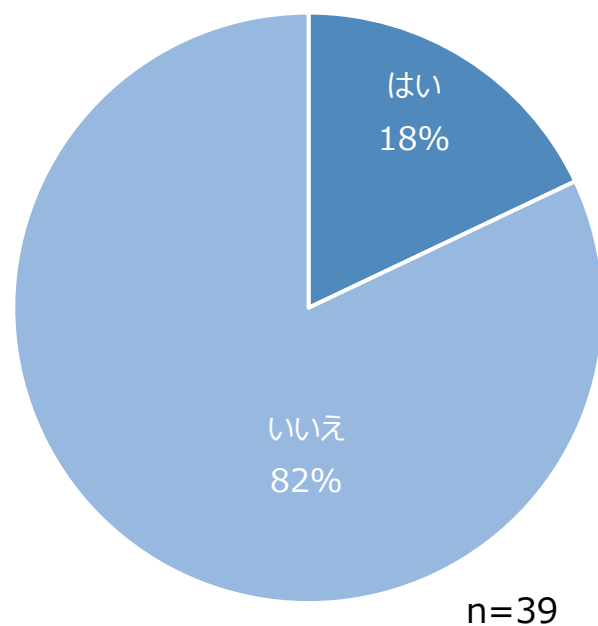


- 環境に負担をかけない今の暮らしを維持していきたいと思う一方で、エコな暮らしを支える機器が壊れた際には、高くても買う、どちらともいえない、高ければ買わないに三分された。



- 小学生以下のこどもがいる家庭のうち、大半は子ども向けのエコについて学ぶイベントに参加させることがなかった。「エコについてのイベントがあった記憶がない」とのコメントもあった。

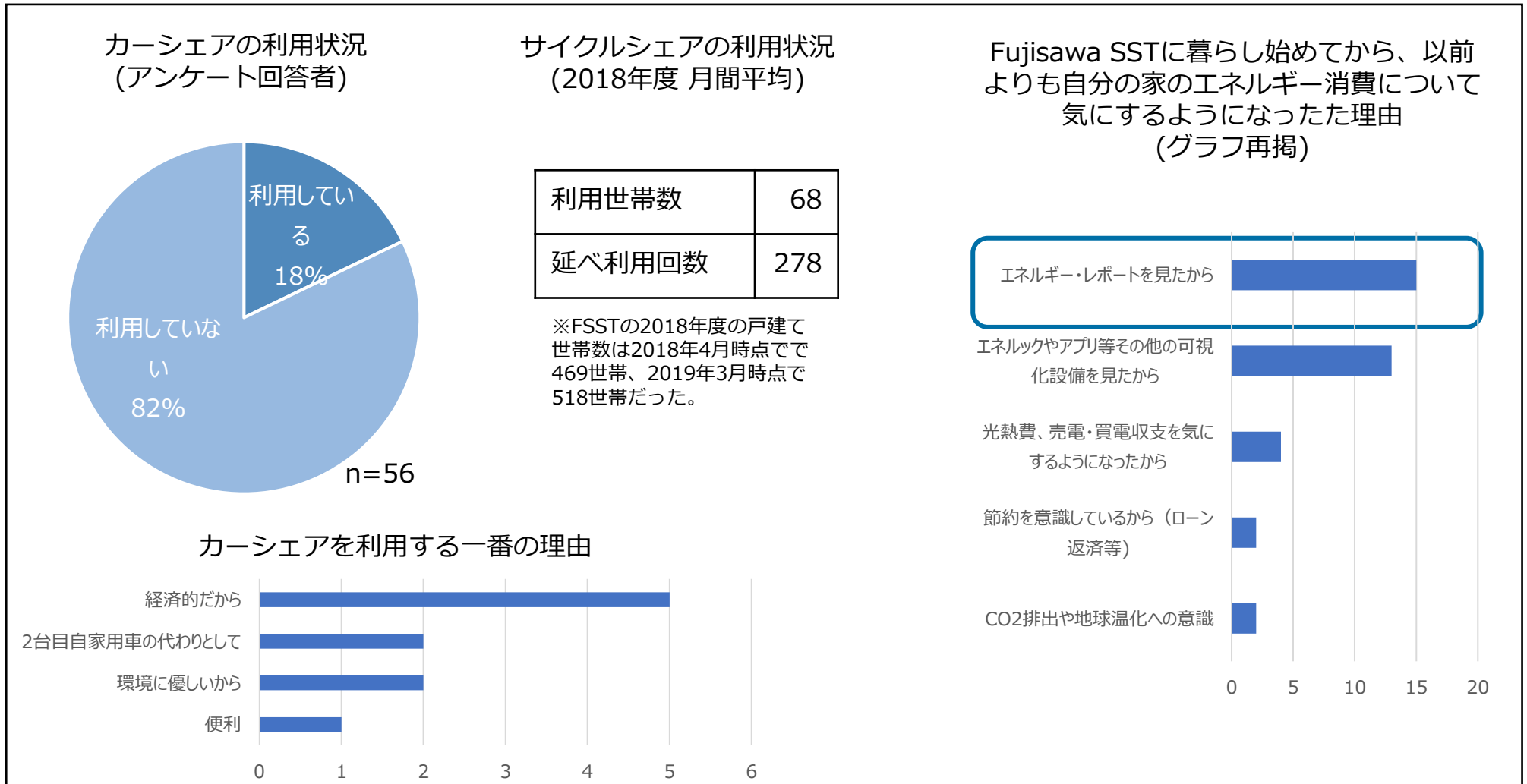
(お子さんがいる場合)Fujisawa SST内で開催される子ども向けのエコについて学ぶイベントに参加させたことはありますか？



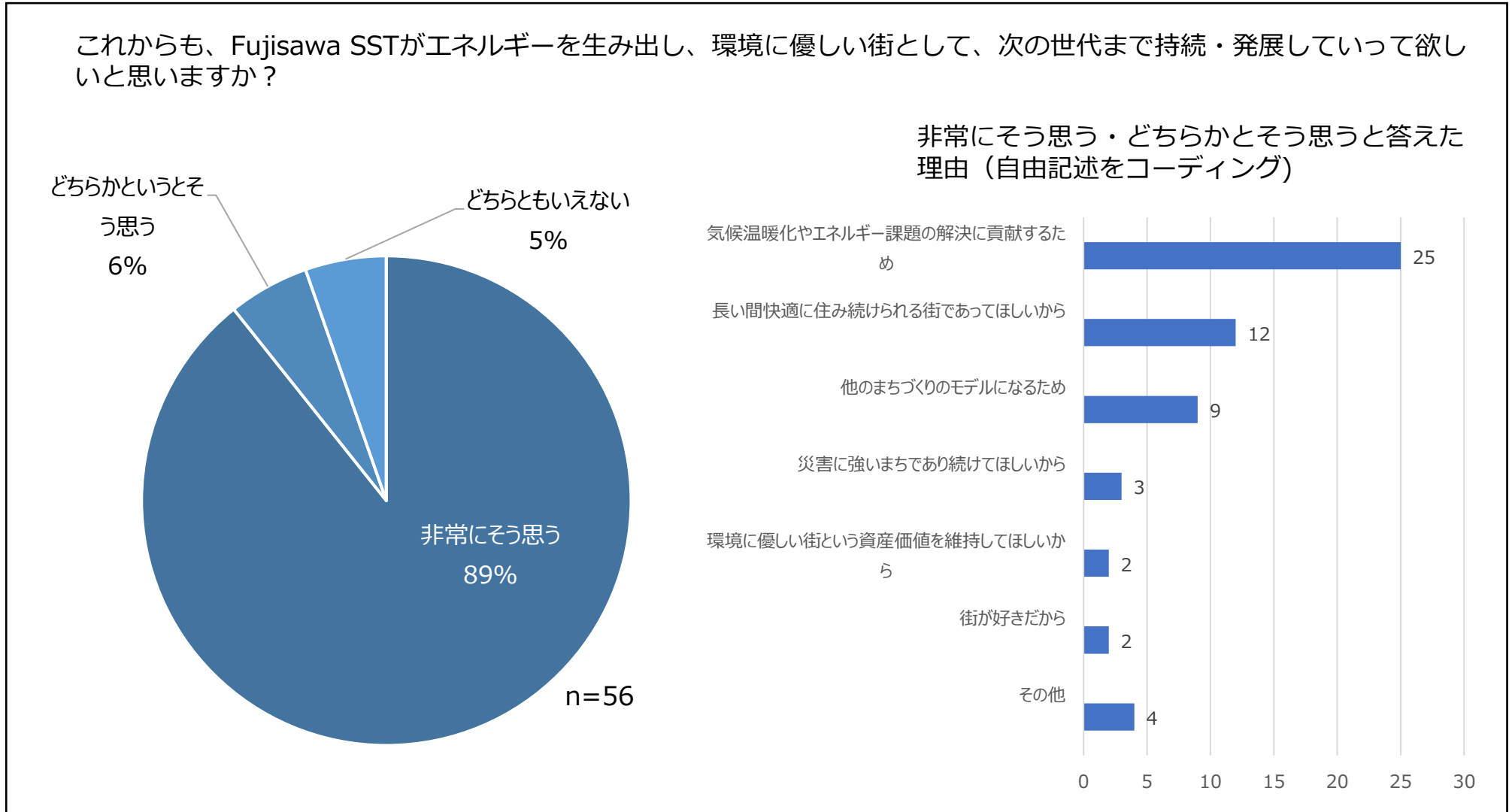
- KURA-THINKの子ども向けエコ教室など
- リサイクル品の工作経験等
- 太陽光発電の仕組みについて学ぶイベント
- 防災訓練



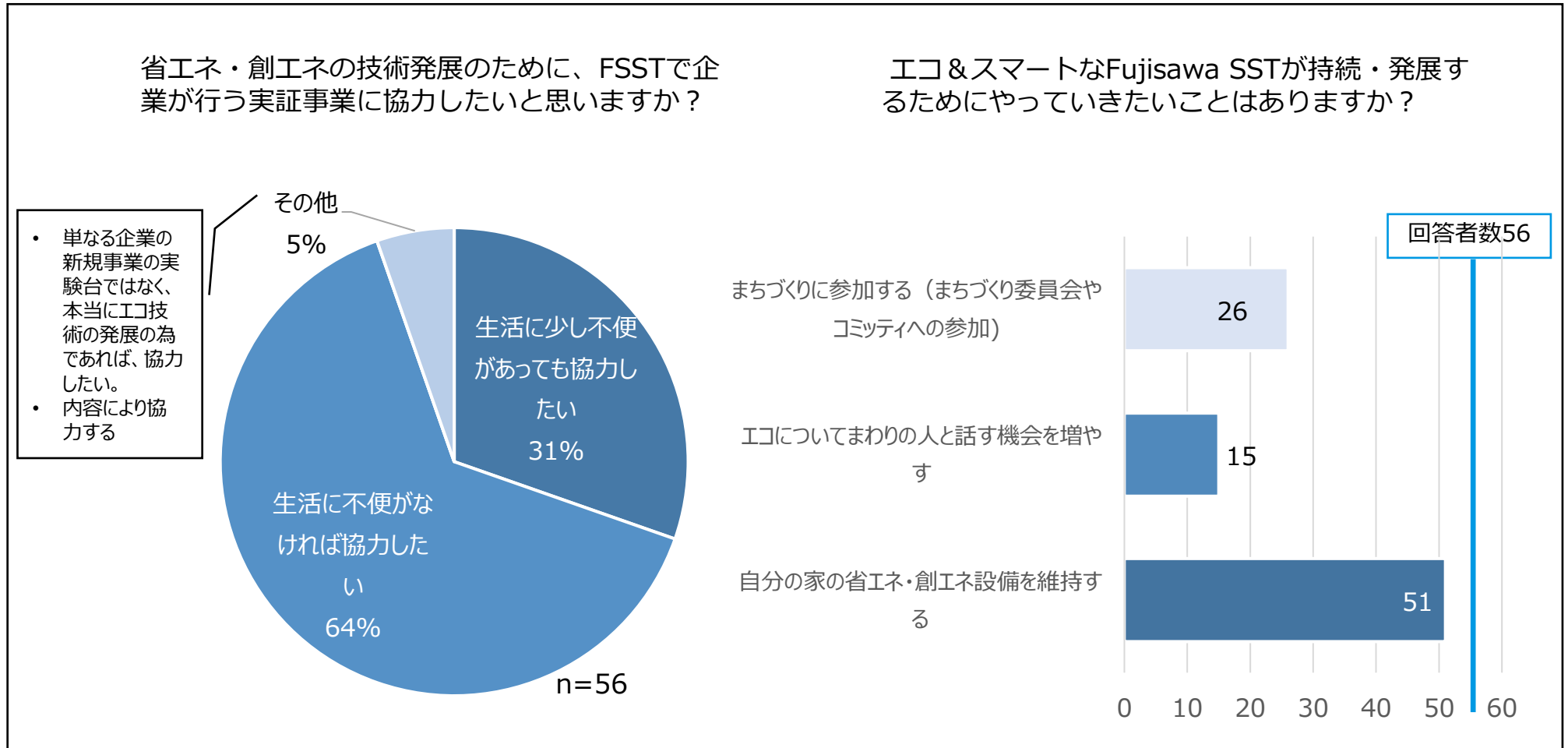
- カーシェアの利用は回答者の2割で、利用する理由としては経済性が一番多く、次に利便性（2台目自家用車の代わりとして、便利）、環境に優しいことが挙げられた。また、無料のシェアサイクルも毎月一定数利用されていた。
- エネルギー・レポートが住民のエネルギー使用の意識化に最も貢献していることが明らかになった。



- 次の世代までFujisawa SSTが持続・発展して欲しいと回答した数は「非常にそう思う」「どちらかといえばそう思う」併せて95%で、理由の自由記述をコーディングして分類したところ、半数近くが環境問題の悪化を防ぐためと回答し、快適に住み続けられる街であって欲しいこと、街づくりのモデルとなることが続いた。



- 実証実験には、回答者全員が協力する意思を示し、そのなかで生活に少し不便があっても協力したいと答えた割合が31%だった。
- エコ&スマートFujisawa SSTの発展のために、56人中51人が家の設備を維持すると半数が回答したほか、26人が街づくりの参加、15人が周りの人と話すことに意欲を示した。



- 
1. Fujisawa SST コミュニティケアの取り組み
  2. Fujisawa SST スマート&エコな暮らしの実現
  3. インターネットインフィニティー社のビジネスを通じた社会的価値の創出
  4. リエゾンワークス社のビジネスを通じた社会的価値の創出

2019年度 神奈川県 SDGs社会的インパクト評価実証事業  
実証事業 報告書

# インターネットインフィニティー社の ビジネスを通じた社会的価値の創出

2020年3月25日

ケイスリー株式会社

本レポートは、インターネットインフィニティ社の主力事業であるレコードブック事業について、社会的インパクト・マネジメントの手法を用い、特にSDGsの観点からビジネスを通じた社会的価値創出のシナリオ・現状・課題を分析し、今後に向けた施策を検討したものです。

## 目次

### 本編

#### サマリー

1. 対象事業の概要
2. 社会的インパクト・マネジメント実施の目的
3. SDGs達成への貢献シナリオ
4. 価値創出力を高めるために ～社会的インパクト・マネジメントから得られた教訓～

### 添付

- I. 事業内容・目標とSDGsゴールとの関連付け
- II. 指標・評価デザイン
- III. データ分析結果

## 社会的インパクト・マネジメントの対象事業について

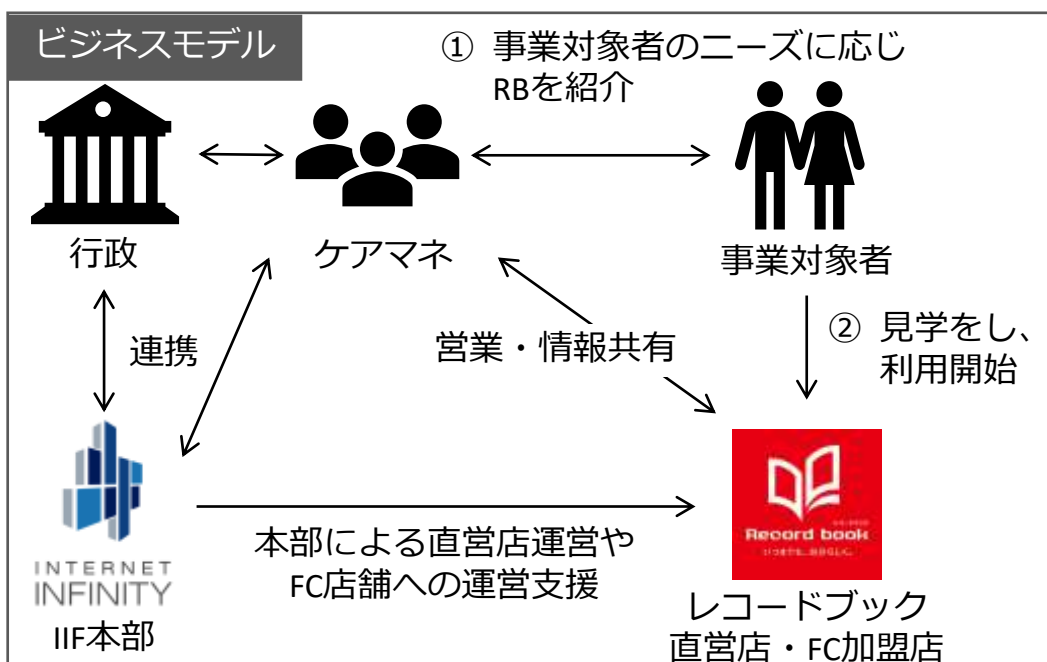
<p>対象事業 → P88参照</p>	<p>【レコードブック事業】 高齢者の健康寿命延伸を目的とした「健康と笑顔をつくる」3時間リハビリ型デイサービス事業</p>
<p>事業目標 → P88, P90参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の身体・心・脳の健康の維持・増進</li> <li>社会参加の促進</li> <li>上記2点による健康寿命の延伸</li> </ul>
<p>関連SDGs → P91参照</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>3 すべての人に健康と福祉を</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>8 働きがいも経済成長も</p> </div> </div>
<p>検証事項 → P90参照</p>	<p>【レコードブック利用者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サービスに満足しているか (心と脳の健康の維持・増進、社会参加促進)</li> <li>介護度が維持・改善されているか (日常運動量や身体機能の維持・向上)</li> </ul> <p>【レコードブック従業員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>モチベーション・スキルが向上しているか</li> </ul> <p>【ケアマネジャー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サービスへの信頼性を持たれているか</li> </ul>

## 検証結果と改善案

<p>検証結果概要 → P92-95参照</p>	<p>【レコードブック利用者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動による身体の健康への満足度は高い</li> <li>心と脳の健康は身体の健康に比べ相対的に低い結果</li> <li>レコードブック施設外での社会参加は限定的</li> </ul> <p>【レコードブック従業員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者や同僚との人間関係は良好</li> <li>総合的に見て今の仕事に満足している数値は相対的に低い</li> </ul> <p>【ケアマネジャー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プログラムの質や従業員の対応を高く評価</li> <li>従業員との連携を更に高める必要性</li> </ul>
<p>改善案 → P96参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>心と脳の健康に関するプログラムの改善検討</li> <li>社会参加に関する利用者ニーズの把握</li> <li>従業員とのビジョン共有と習得スキルの体系化</li> <li>ケアマネジャーとのコミュニケーション改善策策定</li> </ul>

# 1 対象事業の概要

組織名	株式会社インターネットインフィニティー
事業名	レコードブック（RB）事業
事業概要	高齢者の健康寿命延伸を目的とした「健康と笑顔をつくる」3時間リハビリ型デイサービス事業
事業対象者	軽度（要支援1~2、要介護1~2）の介護認定者
事業が取り組む社会的課題	日本では少子高齢化が社会課題となり、世界に先駆けて超高齢社会に突入した。高齢化は今後団塊世代の影響によりさらに加速する。こうした社会のもとで、高齢者自身が、活動的で生きがいのある生活や人生を送ることができるようになることが求められている。
事業戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの介護サービスがあるなかで、「介護予防」に重点をおき他社と差別化</li> <li>乱立するレスパイトケア型ではなく、国家戦略と方向性を同じくする介護予防サービスを提供</li> <li>都市部の急激な高齢化を見据え、都市部を主要サービス提供エリアとするドミナント戦略</li> </ul>



**RBの強み**

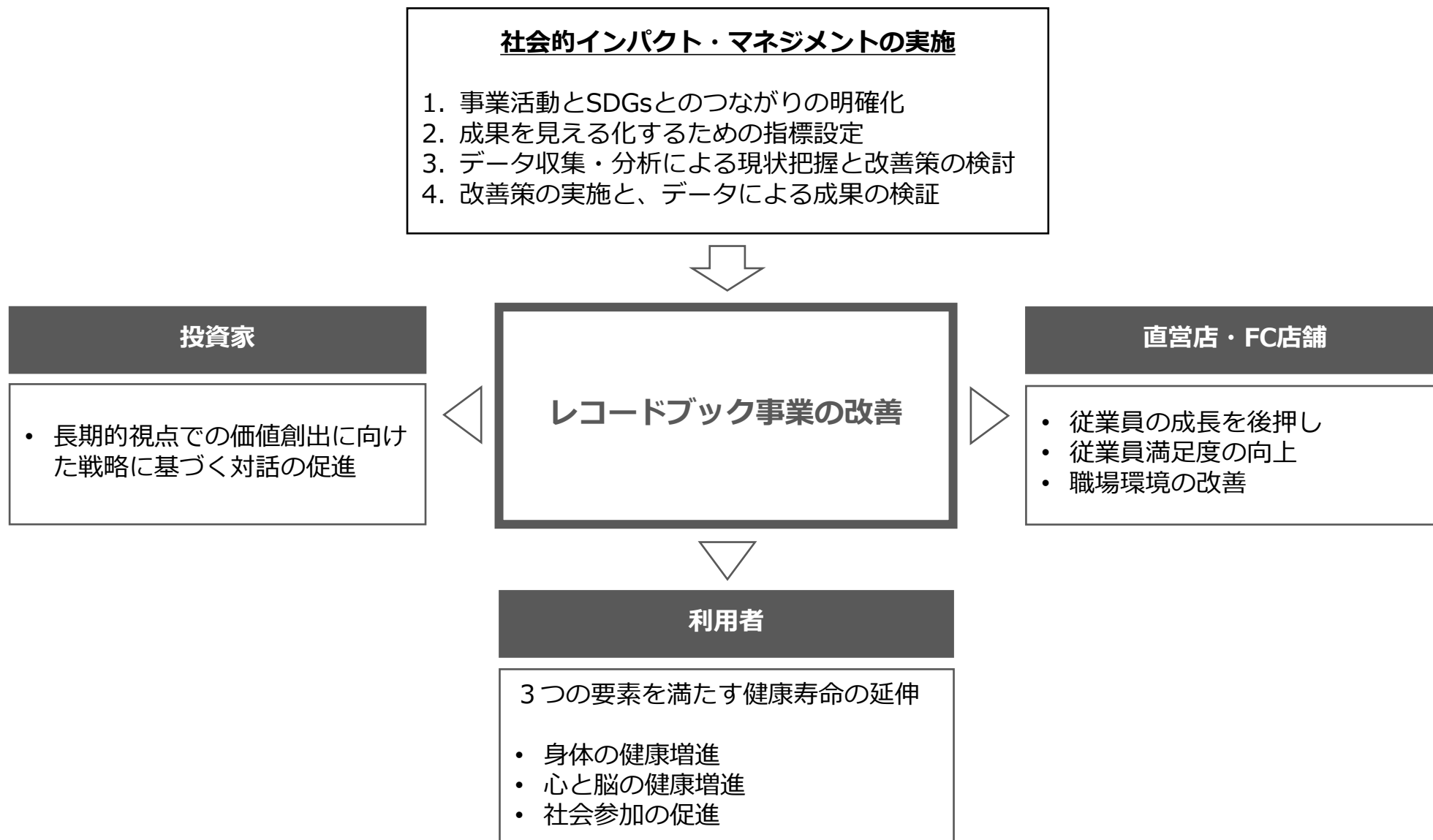
- コミュニケーション能力や運動指導能力のある従業員の育成
- デイサービスを感じさせない環境づくり
- 利用者の能力を最大限に引き出す運動プログラムの提案・実践
- 地域のケアマネジャーや地域住民との関係構築





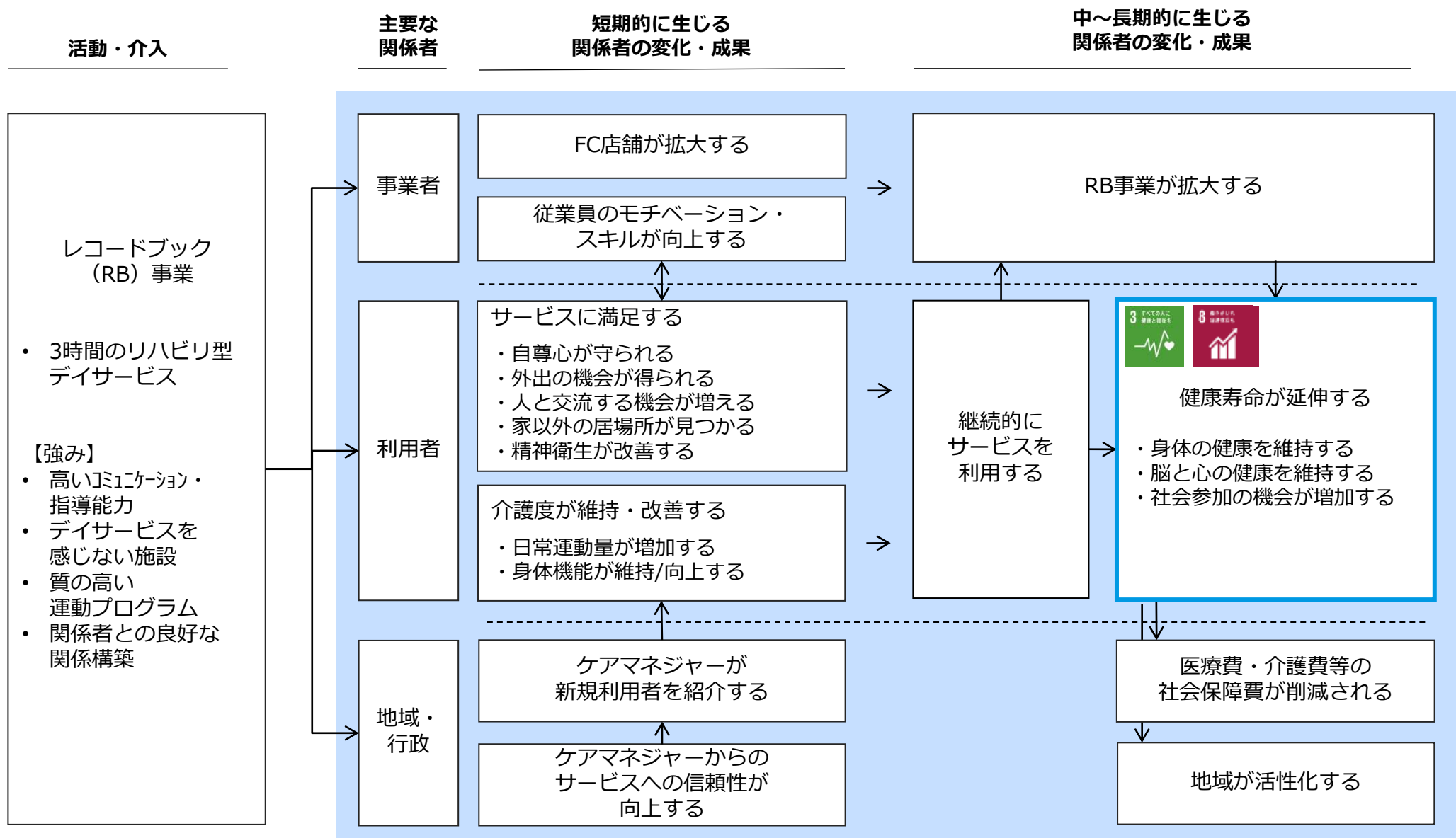
## 2 社会的インパクト・マネジメント実施の目的

- 以下に示す目的を達成するために、社会的インパクト・マネジメントを通じたレコードブック事業の事業改善を行う。





### 3 SDGs達成貢献へのシナリオ

**事業目標** 高齢者の身体・心・脳の健康の維持・増進と、社会参加を促すことで健康寿命を延伸する

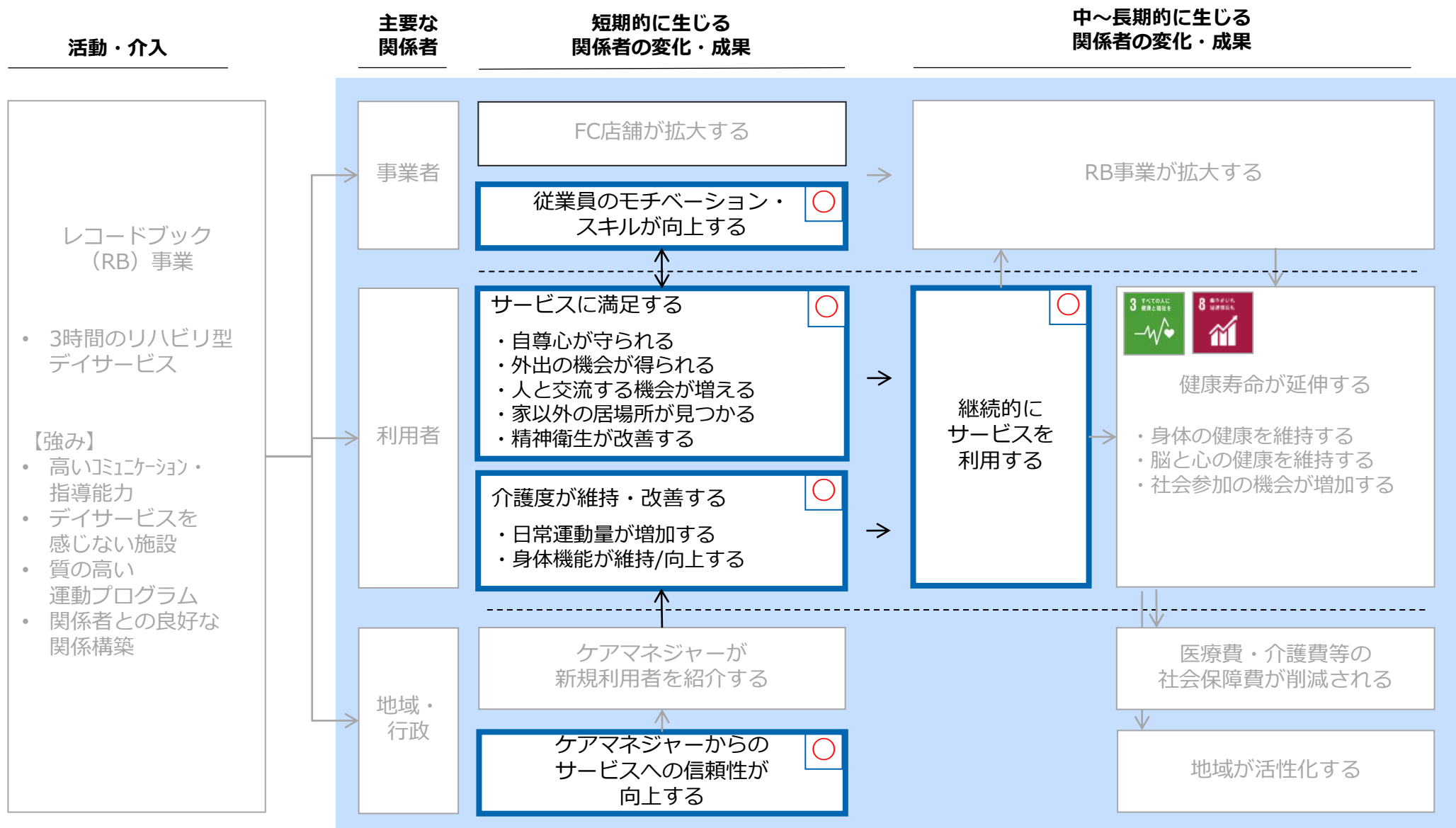


### 3 SDGs達成貢献へのシナリオ

- 本事業がSDGsターゲットに対し与える正・負の影響とその理由を一覧にした。

紐づけたSDGsターゲット	正の影響	負の影響	ターゲット紐づきの解釈と理由
 <p>3 すべての人々に健康と福祉を</p> <p>すべての人々に対する財政保障、質の高い基礎的なヘルスケア・サービスへのアクセス、および安全で効果的、かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンのアクセス提供を含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を達成する。（3.8）</p> <p>&lt;平和と健康のための基本方針&gt; 「全ての人々が生涯を通じて基礎的保健サービスを必要な時に負担可能な費用で受けることができる UHC の実現を目指す。提供されるべきサービスには、…（中略）…、<b>高齢者の医療介護</b>、口腔衛生などあらゆる基礎的保健サービスを含む。」 （日本政府健康・医療戦略推進本部）</p> <p>&lt;SDGsアクションプラン2020~2030年の目標達成に向けた「行動の10年」の始まり～&gt; 「優先課題②：健康・長寿の達成」に介護についても記載。 （日本政府SDGs推進本部）</p>	✓	—	<p>質の高いヘルスケア・サービス（介護予防）を高齢者に提供するとともに、それを通じたUHCの達成が考えられる。</p> <p>SDGsに取り組む日本政府の健康・医療戦略推進本部でも「高齢者の医療介護」をUHCの一つとみなしており、RB事業は本ゴール・ターゲットと関連づけられる。</p> <p>日本政府によるSDGsアクションプランでは、「健康・長寿の達成」が優先課題と位置付けられ介護にもついても多く触れている。</p>
 <p>8 働きがいも経済成長も</p> <p>2030年までに、若者や障害者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び<b>働きがいのある人間らしい仕事</b>、並びに同一労働同一賃金を達成する（8.5）</p> <p>&lt;日本SDGs実施指針&gt; 「働き方改革は、一億総活躍社会の実現に向けた横断的課題であり、最大のチャレンジ。同一労働同一賃金の実現など非正規雇用労働者の待遇改善、総労働時間抑制等の長時間労働是正、<b>65歳以降の継続雇用・65歳までの定年延長企業の奨励等の高齢者就労促進に取り組み</b>、多様な働き方の選択肢を広げる。」（日本政府SDGs推進本部）</p>	✓	—	<p>高齢者も含めたあらゆる人が生産的で働きがいのある人間らしい仕事を続けられる社会を目指しており、この点はRB事業の最終目的である健康寿命の延伸とも結びつく。</p> <p>また、日本政府のSDGs推進本部においても、65歳以上の就労に取り組んでおり、健康寿命の延伸はこの実施指針とも接合する。</p>

### 3 SDGs達成貢献へのシナリオ：検証（まとめ）



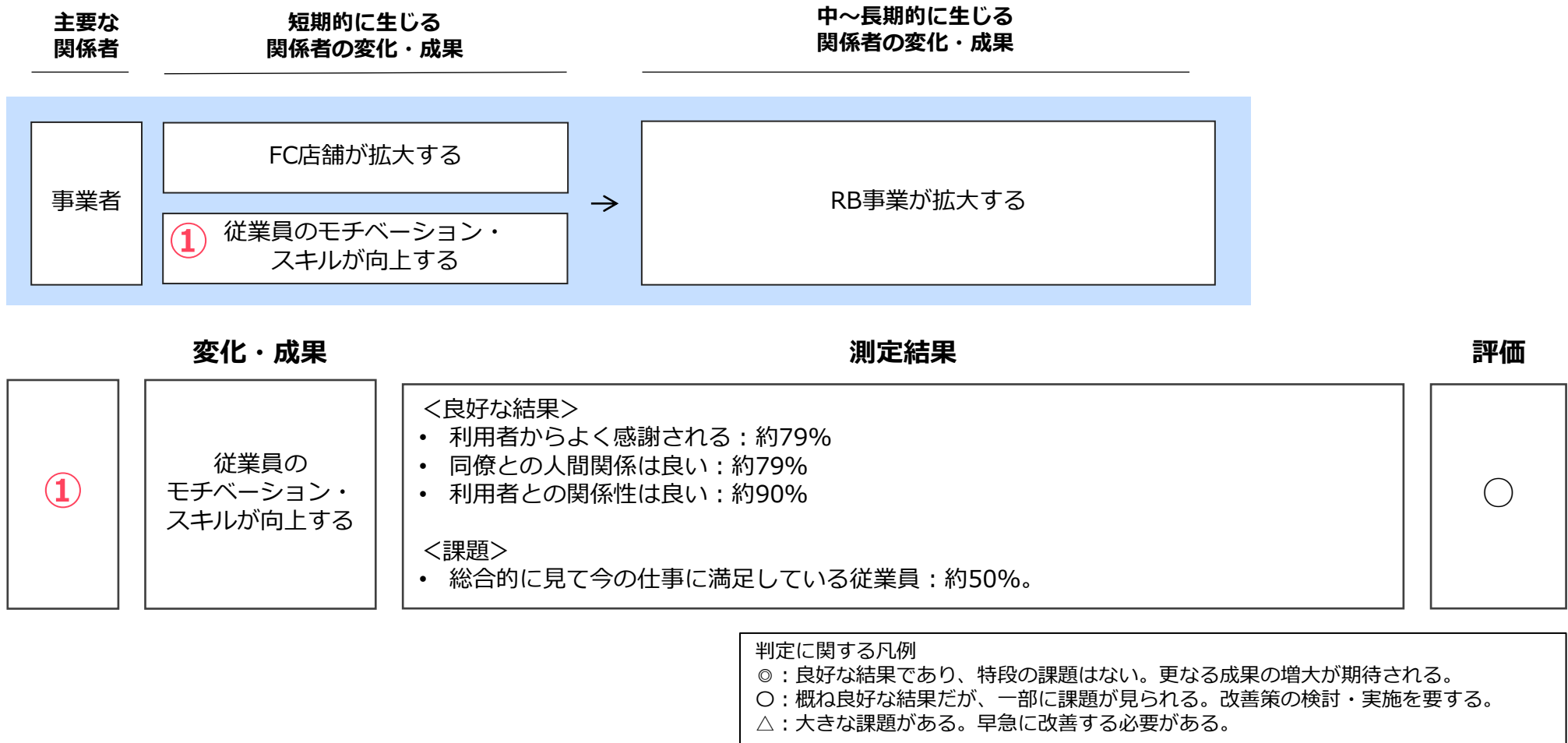
検証対象項目内の判定に関する凡例

- ◎：良好な結果であり、特段の課題はない。更なる成果の増大が期待される。
- ：概ね良好な結果だが、一部に課題が見られる。改善策の検討・実施を要する。
- △：大きな課題がある。早急に改善する必要がある。

   検証対象となる項目

### 3 SDGs達成貢献へのシナリオ：検証①

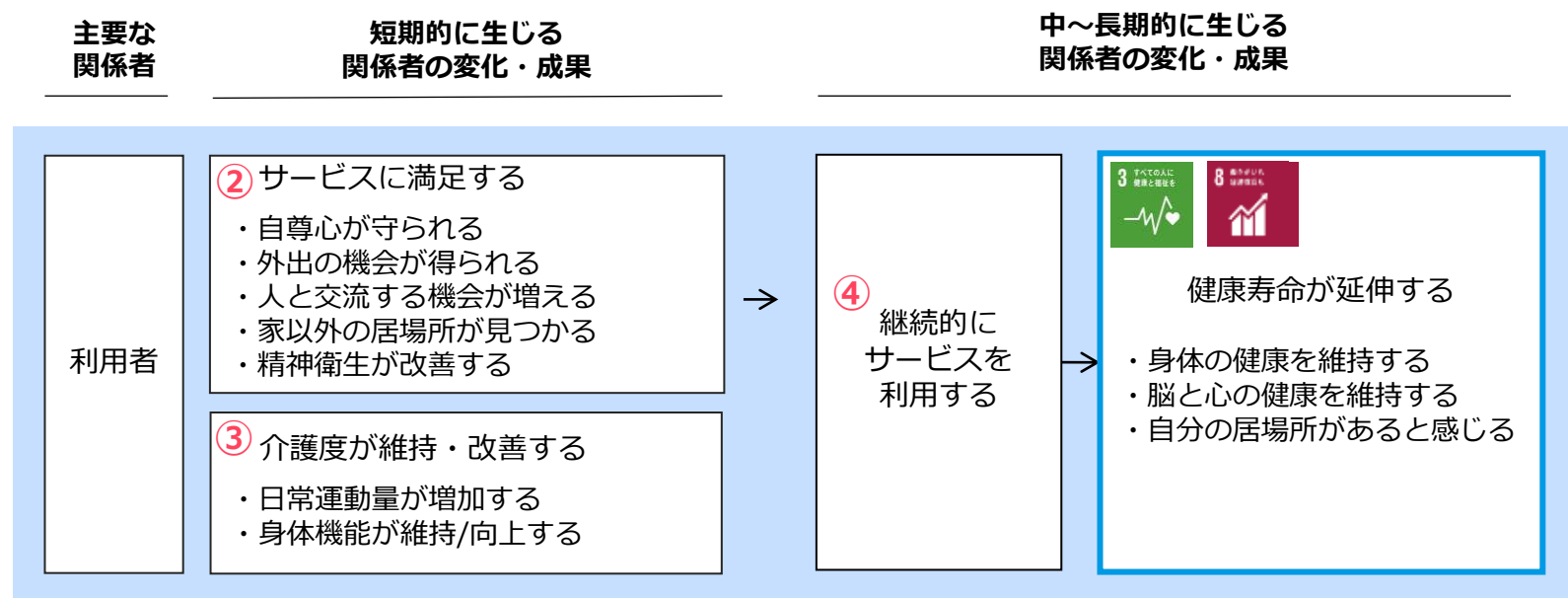
- シナリオを検証するため、重要かつ測定可能な変化について指標を立て、測定した。



\*今回は新たなデータ取得が必要なものについて実施。既存データの活用も今後考えられる。

### 3 SDGs達成貢献へのシナリオ：検証②

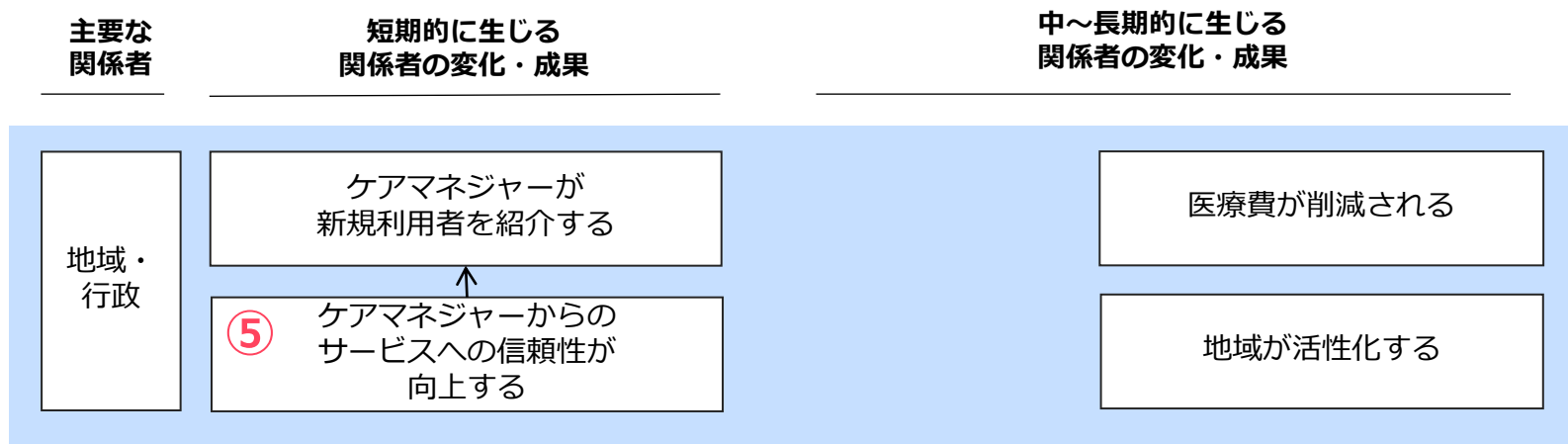
- シナリオを検証するため、重要かつ測定可能な変化について指標を立て、測定した。



	変化・成果	測定結果	評価
②	サービスに満足する	<p>&lt;良好な結果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>RBに満足している：92%</li> <li>RBへ今後も通いたい：99%</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>記述式回答のテキスト分析：主に施設内での交流や運動を楽しんでおり、心と脳の健康や社会参加に関する項目は相対的に低い結果となった。</li> </ul>	○
③	介護度が維持・改善する	<ul style="list-style-type: none"> <li>「以前に比べ歩く速度が遅くなってきたか」：58%の回答者が「いいえ」</li> <li>「この1年間で転んだことがあるか」：69%の回答者が「いいえ」</li> </ul>	○
④	継続的にサービスを利用する	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者のアンケート結果が一時的に低くなる利用期間（半年から1年の間（データ上では9カ月継続））で継続率をモニタリングし、高める必要がある。9か月継続率は約60%。</li> <li>当該数値そのものが優れたものかは、今後時系列で考察し検討する必要がある。</li> </ul>	○

### 3 SDGs達成貢献へのシナリオ：検証③

- シナリオを検証するため、重要かつ測定可能な変化について指標を立て、測定した。



	変化・成果	測定結果	評価
⑤	ケアマネジャーからのサービスへの信頼性が向上する	<p>&lt;良好な結果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>RBを他の潜在利用者へ紹介したい：約80%。</li> <li>RBの運動プログラムは効果的だと思う：約86%</li> <li>お客様見学時のスタッフの対応は良い：約81%</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ケアマネジャーが信頼する事業所の要件としてスタッフの質や対応、職員の入れ替わりが少ない、連携がしやすいといったものが多い。一部を満たせていないものの、全般的にRBはこれら要件を満たせている。</li> </ul>	○

\*今回は新たなデータ取得が必要なものについて実施。既存データの活用も今後考えられる。



## 4 SDGsへの貢献を高めるために ～社会的インパクト・マネジメントから得られた教訓～

- 測定結果を踏まえ、以下の改善・更なる向上のための施策を実施する。

関係者の変化・成果	指標測定結果の解釈	改善・更なる向上のための施策案
<p><b>【利用者】</b> サービスに満足する</p>	<p>RB以外の社会参加を促す効果は限定的であることが確認された。</p> <p>運動による身体の健康の満足度が高い一方で、心・脳の健康については相対的に低い結果となった。どのようなプログラム構成が、より利用者の心と脳の健康増進に寄与するか、再考する必要がある。また、加齢による指標数値の増加率は女性が相対的に男性より低い傾向にある。</p>	<p><b>【ニーズ調査の検討】</b> そもそもRB以外の社会参加が、利用者のニーズに合っていることなのかを調査・検討する。そのうえで必要であれば、RB事業内外でできることを検討・実施する。</p> <p><b>【心と脳の健康に関するプログラムの改善検討】</b> 性差を踏まえたうえで、RB利用者の心と脳の健康が改善・維持するプログラム内容の検討・実施と検証を行う。</p>
<p><b>【事業者】</b> 従業員のモチベーション・スキルが向上する</p>	<p>「これからもこの仕事を続けたいと思う」という項目の数値が低い原因として、従業員のなかで、<b>仕事を通じて新しい知識・能力の獲得や、成長している感覚が得られていないことが大きい</b>と考えられる。</p>	<p><b>【参加型会議の開催、達成度の可視化】</b> 参加型の会議等で従業員とRBのビジョンを共有することで、現場の従業員が納得感をもって働くことができると考えられる。そのうえで必要な知識やスキルを体系化し、ビジョン達成のために重要な目標値を設定することが可能となる。</p>
<p><b>【ケアマネジャー】</b> ケアマネジャーからのサービスへの信頼性が向上する</p>	<p>多くのケアマネジャーからプログラムやスタッフの質・対応について評価されており、利用者にRBを紹介したいとしている。一方、<b>職員とケアマネジャー間の情報共有や連携には課題が見られており、この点において更なる改善が期待される。</b></p>	<p><b>【ケアマネジャーとのコミュニケーション改善策策定】</b> ケアマネジャーへの報告体制や情報共有については十分になされていないケースに対し、いつ・どのような状況で・どのようにケアマネジャーへ情報共有するか、行動計画やマニュアルを策定・改善する。</p>



---

# 添付資料



- I. 事業内容・目標とSDGsゴールとの関連付け
- II. 指標・評価デザイン
- III. データ分析結果（非公開）

# I 事業内容・目標とSDGsゴールとの関連付け①

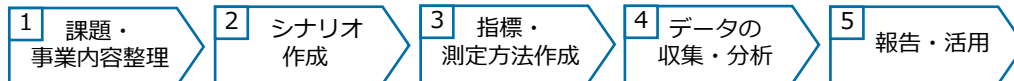
SDGsゴール		正の影響のあるターゲット		負の影響を与えるターゲット
		コミットするターゲット	波及効果のありうるターゲット	
1	あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ	—	—	—
2	飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する	—	—	—
3	あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する	3.8、3.d	—	—
4	すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する	—	—	—
5	ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る	—	—	—
6	すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する	—	—	—
7	すべての人に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する	—	—	—
8	すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する	—	8.5	—
9	強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る	—	—	—
10	国内および国家間の格差を是正する	—	—	—
11	都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする	—	—	—
12	持続可能な消費と生産のパターンを確保する	—	—	—
13	気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る	—	—	—
14	海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する	—	—	—
15	陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る	—	—	—
16	持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する	—	—	—
17	持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する	—	—	—

# I 事業内容・目標とSDGsゴールとの関連付け② <再掲>

- 本事業がSDGsターゲットに対し与える正・負の影響とその理由を一覧にした。

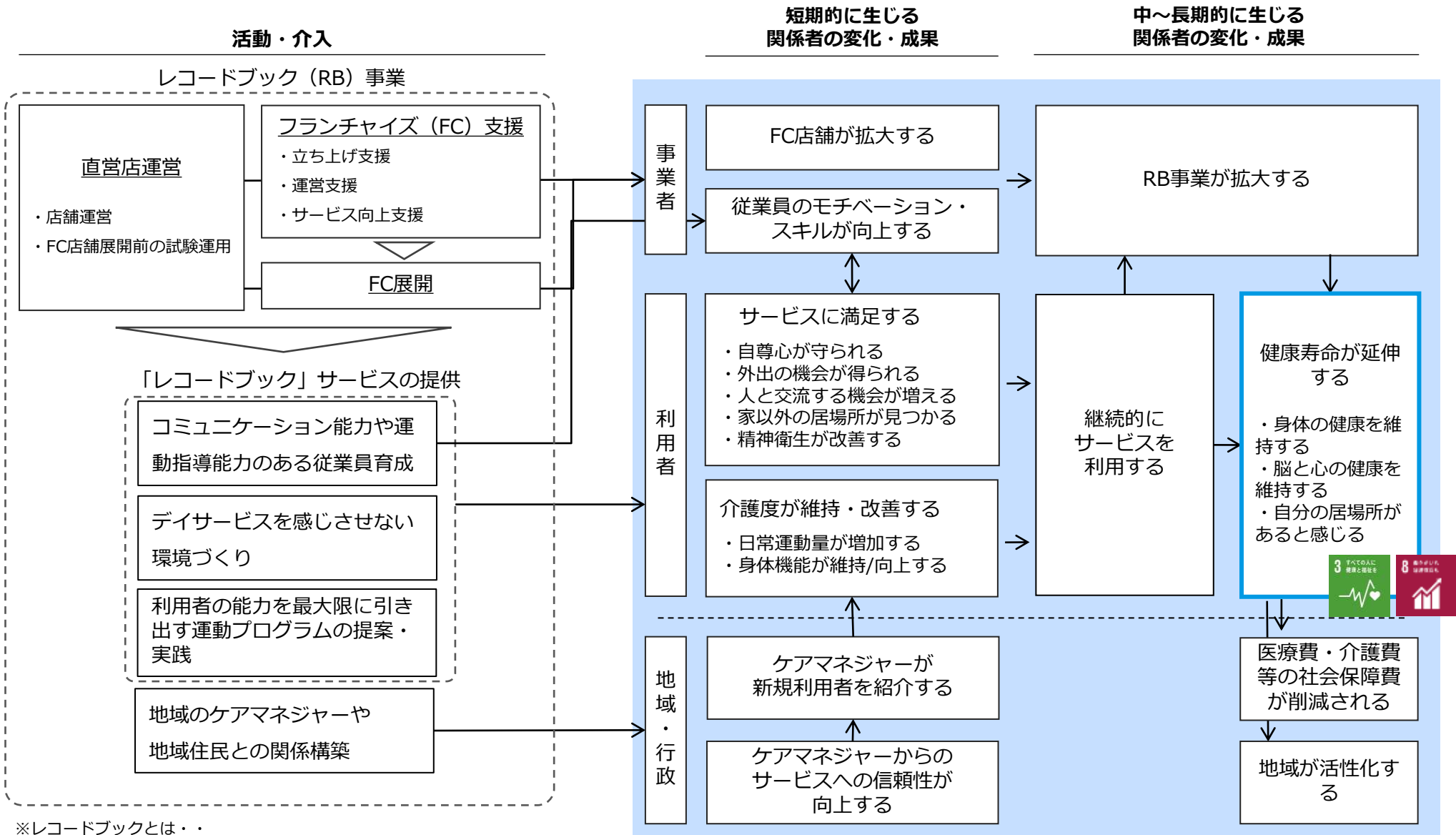
紐づけたSDGsターゲット	正の影響	負の影響	ターゲット紐づきの解釈と理由
 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p> <p>すべての人々に対する財政保障、質の高い基礎的なヘルスケア・サービスへのアクセス、および安全で効果的、かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンのアクセス提供を含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を達成する。（3.8）</p> <p>&lt;平和と健康のための基本方針&gt; 「全ての人々が生涯を通じて基礎的保健サービスを必要な時に負担可能な費用で受けることができる UHC の実現を目指す。提供されるべきサービスには、…（中略）…、<b>高齢者の医療介護</b>、口腔衛生などあらゆる基礎的保健サービスを含む。」 （日本政府健康・医療戦略推進本部）</p> <p>&lt;SDGsアクションプラン2020~2030年の目標達成に向けた「行動の10年」の始まり～&gt; 「優先課題②：健康・長寿の達成」に介護についても記載。 （日本政府SDGs推進本部）</p>	<p>✓</p>	<p>—</p>	<p>質の高いヘルスケア・サービス（介護予防）を高齢者に提供するとともに、それを通じたUHCの達成が考えられる。</p> <p>SDGsに取り組む日本政府の健康・医療戦略推進本部でも「高齢者の医療介護」をUHCの一つとみなしており、RB事業は本ゴール・ターゲットと関連づけられる。</p> <p>日本政府によるSDGsアクションプランでは、「健康・長寿の達成」が優先課題と位置付けられ介護にもついても多く触れられている。</p>
 <p>8 働きがいも経済成長も</p> <p>2030年までに、若者や障害者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び<b>働きがいのある人間らしい仕事</b>、並びに同一労働同一賃金を達成する（8.5）</p> <p>&lt;日本SDGs実施指針&gt; 「働き方改革は、一億総活躍社会の実現に向けた横断的課題であり、最大のチャレンジ。同一労働同一賃金の実現など非正規雇用労働者の待遇改善、総労働時間抑制等の長時間労働是正、<b>65歳以降の継続雇用・65歳までの定年延長企業の奨励等の高齢者就労促進に取り組み</b>、多様な働き方の選択肢を広げる。」（日本政府SDGs推進本部）</p>	<p>✓</p>	<p>—</p>	<p>高齢者も含めたあらゆる人が生産的で働きがいのある人間らしい仕事を続けられる社会を目指しており、この点はRB事業の最終目的である健康寿命の延伸とも結びつく。</p> <p>また、日本政府のSDGs推進本部においても、65歳以上の就労に取り組んでおり、健康寿命の延伸はこの実施指針とも接合する。</p>

## Ⅱ 指標・評価デザイン：スケジュール



No.		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	マイルストーン	● キックオフ	● シナリオ完成		● 指標と測定方法設定		● アンケート回収	● 結果導出	● 学びの抽出	● 最終報告
1	課題・事業内容整理 → P98-99参照	ヒアリング・整理								
2	シナリオ作成 → P101参照	作成								
3	指標・測定方法作成 → p102-109参照		指標セット作成							
4	データの測定・分析 → P110参照				測定		分析			
5	報告・活用							とりまとめ作成		

**事業目標** 高齢者の身体・心・脳の健康の維持・増進と、社会参加を促すことで健康寿命を延伸する



※レコードブックとは・・・機能訓練を中心とした3時間のリハビリ型デイサービス

対象者	アウトカム	評価設問	指標	収集方法	参考
事業者	従業員のモチベーション・スキルが向上する	従業員は仕事にモチベーション（やりがい）を感じているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合満足度</li> <li>経営満足度</li> <li>職場満足度</li> <li>仕事満足度</li> <li>処遇改善満足度</li> <li>福利厚生満足度</li> </ul>	各店舗におけるアンケート調査 → P103参照	<ul style="list-style-type: none"> <li>従業員満足度調査項目</li> </ul>
利用者	自尊心が守られる	RBによって自尊心が守られているか	RBによって生活満足度が上がり、自分のことを健康だと感じている利用者の割合	各店舗におけるアンケート調査 → P104参照	<ul style="list-style-type: none"> <li>第9回生活と意識についての国際比較調査調査票</li> <li>健康と保健医療に関する世論調査</li> <li>都民の健康や地域とのつながりに関する意識・活動状況調査</li> <li>ソーシャル・サポート</li> </ul>
	外出の機会が得られる	RBによって外出の機会が得られているか	RBによって外出の機会が増えたと感じる利用者の割合		
	人と交流する機会が増える	RBによって人と交流する機会が増えているか	RB店舗に通うことで、人と交流する機会が増えたと感じる利用者の割合		
	家以外の居場所が見つかる	RBの居心地が良いと感じているか	RBの居心地が良いと感じる利用者の割合		
	精神衛生が改善する	RBによって精神的な健康度が高まっているか	RBによって精神的健康度が高まっている利用者の割合		

## Ⅱ 指標・評価デザイン：アンケート項目

1 課題・  
事業内容整理

2 シナリオ  
作成

3 指標・  
測定方法作成

4 データの  
収集・分析

5 報告・活用

アウトカム	評価設問	指標	設問番号	アンケート項目
従業員の モチベーション が向上する	従業員は仕事に モチベーション（やりがい） を感じているか	総合満足度	1	総合的に見て、現在の仕事に満足していますか
		経営満足度	2-(1)	レコードブックのビジョンに共感できる
		職場満足度	2-(2)	上司との人間関係は良い
		職場満足度	2-(3)	同僚との人間関係は良い
		職場満足度	2-(4)	利用者との関係性は良い
		職場満足度	2-(5)	レコードブックの雰囲気は良い
		人材育成満足度	2-(6)	仕事を通じて新しい知識や能力を身につけられる
		人材育成満足度	2-(7)	仕事を通じて成長している感覚がある
		仕事継続満足度	2-(8)	これからもこの仕事を続けたいと思う
		仕事継続満足度	2-(9)	レコードブックへの愛着がある
		顧客貢献度	2-(10)	利用者からよく感謝される
		顧客貢献度	2-(11)	利用者の変化を見てやりがいを感じる
		仕事内容満足度	2-(12)	レコードブックのことが好きである
		仕事内容満足度	2-(13)	仕事に社会的意義を感じる
仕事内容満足度	2-(14)	仕事に達成感を感じる		

## Ⅱ 指標・評価デザイン：アンケート項目

1 課題・  
事業内容整理

2 シナリオ  
作成

3 指標・  
測定方法作成

4 データの  
収集・分析

5 報告・活用

アウトカム	評価設問	指標	設問番号	アンケート項目
—	—	レコードブック総合満足度	1-(1)	レコードブックに満足している。
自尊心が守られる	RBによって自尊心が守られているか	RBによって生活満足度が上がり、自分のことを健康だと感じている利用者の割合	1-(2)	「自分は健康になった」と思う。
			1-(3)	生活の満足感が増した。
外出の機会が得られる	RBによって外出の機会が得られているか	RBによって外出の機会が増えたと感じる利用者の割合	1-(4)	外出することが増えた。
人と交流する機会が増える	RBによって人と交流する機会が増えているか	RB店舗に通うことで、人と交流する機会が増えたと感じる利用者の割合	1-(5)	家族や友人との付き合いが増えた。
家以外の居場所が見つかる	RBの居心地が良いと感じているか	RBの居心地が良いと感じる利用者の割合	1-(6)	レコードブックは居心地が良いと思う。
			1-(7)	レコードブックに行くのは楽しいと感じる。
精神衛生が改善する	RBによって精神的な健康度が高まっているか	RBによって精神的健康度が高まっている利用者の割合	1-(8)	明るく楽しい気分で過ごせるようになった。
			1-(9)	落ち着いた、リラックスした気分で過ごせるようになった。
			1-(10)	意欲的で、活動的に過ごせるようになった。
			1-(11)	ぐっすりと休め、気持ちよくめざめるようになった。
			1-(12)	日常生活の中に、興味のあることが増えた。
身体機能が維持/向上する	—	—	2-(1)	以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか
			2-(2)	この1年間に転んだことがありますか
継続率が高まる	—	—	2-(3)	レコードブックに何か月通っていますか？
			2-(4)	これからもレコードブックに通いたいと思いますか？
			2-(5)	(4)で「はい」とお答えした方にお聞きします。その理由は何ですか？
			2-(6)	(4)で「いいえ」とお答えした方にお聞きします。その理由は何ですか？



- 従業員満足度に関する指標設定及びアンケート作成は、以下を参考とした。

### 三菱UFJリサーチ&コンサルティング作成 従業員満足度調査項目の体系

表1 ES調査 調査項目の体系

大項目	小項目	項目の内容
「仕事」満足度	仕事内容満足度	自分の役職や等級から見て妥当な仕事内容、適度な仕事量
	人材育成満足度	仕事を通じて身につけられる新しい知識や能力、この3年での成長感
	仕事継続満足度	勤続意向、会社への愛着、自分の仕事上の将来のイメージ
「職場」満足度		職場でのノウハウの共有、たたえあう雰囲気、職場の人間関係
「上司」満足度		上司との関係、上司への尊敬、上司からの信頼、熱心な指導と援助
「会社風土」満足度	会社風土満足度	チャレンジする雰囲気、市場変化への迅速な対応、社員を大切にしている程度
	会社インフラ満足度	情報インフラの充実、必要な設備の整備、リスク管理の徹底
	会社風紀満足度	セクシャルハラスメント行為の有無、規律やマナーの遵守
「処遇」満足度	人事評価満足度	人事評価の公平性、人事評価基準の明確性と統一性
	給与等満足度	業務内容や質に照らした年取の妥当性、成果や努力の処遇へ反映度合い
	個人目標満足度	目標設定の十分な話し合い、目標の進捗状況を話し合う機会
	労働時間満足度	休日・休暇のとりやすさ、労働時間の適切さ
「福利厚生」満足度	福利厚生満足度	勤務形態の自由度、退職金や年金の制度、慶弔についての配慮
「経営」満足度		会社のビジョンや経営方針への共感、会社の将来性
総合満足度		会社・職場・仕事に対する総合的な満足

資料出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティング作成

出所：<https://www.jil.go.jp/institute/zassi/backnumber/2011/12/pdf/065-073.pdf>

### 御子柴清志. (2005). 従業員満足度調査. 経営政策論集 従業員満足度調査項目

会社に対する誇り / 改善 / 人事サービスと人事育成について / あなたの仕事について / リーダーシップについて / チームワークについて / コミュニケーションについて / 報酬と待遇について / 福利厚生について

出所：御子柴清志. (2005). 従業員満足度調査. 経営政策論集, 4(1), 109-126.

- 利用者の成果・変化に関する指標設定及びアンケート作成は、以下を参考とした。

- 第9回生活と意識についての国際比較調査 調査票(留置 B)

Q. 家族や親類以外で、あなたがふだん一日に接する人は、何人くらいですか（電話、手紙、メール、直接会うことなど、すべて含めます。）

Q. あなたは、家族や親類以外の3人以上の人と、どのくらいの頻度で外食したり飲みに行きますか。

Q. その際に、新しい知り合いができることは、どのくらいありますか。

出所：大阪商業大学:日本版 General Social Surveys<JGSS-2012>. [https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/chosa-hyo/1000c\\_tomeokiB.pdf](https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/chosa-hyo/1000c_tomeokiB.pdf)

- 健康と保健医療に関する世論調査

Q. あなたは、毎日の生活のなかで気軽に話ができる人がいますか。それともいませんか。 1.いる 2.いない

Q. あなたは、気軽に相談できる相手（場所）に相談しても解決できず、専門家（機関）に相談することが必要だと感じた悩み事や心配事を抱えたことがありますか。 1.ある 2.ない

出所：東京都生活文化局:世論調査結果報告書 平成 28 年度 10 月調査 健康と保健医療に関する世論調査.  
[http://www.metro.tokyo.jp/tosei/hodohappyo/press/2017/03/07/documents/01\\_01.pdf](http://www.metro.tokyo.jp/tosei/hodohappyo/press/2017/03/07/documents/01_01.pdf)

- 都民の健康や地域とのつながりに関する意識・活動状況調査

問. あなたは、地域の人とどの程度かかわりを持っていますか

問. あなたは、お住まいの地域において、あなたと違う世代の方と交流する機会がありますか

問. あなたのお住まいの地域は、困ったときに助け合い、支えあうと思いますか

問. あなたの、地域におけるボランティア活動や趣味のグループへの参加状況についておたずねします。

出所：東京都福祉保健局:平成 25 年度都民の健康や地域とのつながりに関する意識・活動状況調査.  
<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kensui/plan21/chousa.files/zenbun-v2.pdf>

- 利用者の成果・変化に関する指標設定及びアンケート作成は、以下を参考とした。

- 日常的なつきあいの程度

- 2. 日常的なつきあいについて

- 2 – (1) あなたは、ご近所の方とどのようなおつきあいをされていますか

出所：内閣府.(2003).『ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて』

- ソーシャル・キャピタル指標（地域組織への参加の頻度）

Q. 趣味関係のグループ/スポーツ関係のグループやクラブ/ボランティアのグループ/老人クラブ/町内会・自治会/業界団体・同業者団体

A. 年数回以上/月1~2回以上/週1回以上

出所：伊藤大介, & 近藤克則. (2013). 「要支援・介護認定率とソーシャル・キャピタル指標としての地域組織への参加割合の関連：JAGES プロジェクトによる介護保険者単位の分析」. 『社会福祉学』, 54(2), 56-69.

- ソーシャル・サポート

ソーシャル・サポート

「あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人」、「あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人」、「あなたが病気で数日寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人」、「反対に、看病や世話をしあげようと思う人」について、それぞれ当てはまる人を選んでください（複数回答）

1. 配偶者 / 2. 同居の子ども / 3. 別居の子どもや親戚 / 4. 近隣 / 5. 友人 / 6. その他 / 7. いない

出所：平井寛. (2010). 「高齢者サロン事業参加者の個人レベルのソーシャル・キャピタル指標の変化」、『農村計画学会誌』.28. pp.201-206

- 利用者の成果・変化に関する指標設定及びアンケート作成は、以下を参考とした。

### WHO-5 精神的健康状態表（1998年版）

- 採点方法：

粗点は、5つの回答の数字を合計して計算する。

粗点の範囲は0～25点で、0点はQOLが最も不良であることを示しており、25点はQOLが最も良好であることを示している。

0～100点の範囲の百分率スコアを求めるためには、粗点に4を掛ける。百分率スコアの0点はQOLが最も不良であることを示し、100点はQOLが最も良好であることを示している。

- 解釈：

粗点が13点未満であるか、5項目のうちいずれかに0または1の回答があるときには、大うつ病(ICD-10)調査表(Major Depression Inventory)を実施することを推奨する。13点未満の得点は精神的健康状態が低いことを示し、ICD-10に基づくうつ病のためのテストの適応となる。

- 変化のモニタリング：

精神的健康状態が変化する可能性をモニターするためには、百分率スコアを用いる。いかなる場合でも10%の差が認められる場合には、有意な変化があることを示している。(John Ware 1995 参照)

**WHO-5 精神的健康状態表**  
(1998年版)

以下の5つの各項目について、最近2週間のあなたの状態に最も近いものに印をつけてください。数値が高いほど精神的健康状態が高いことを示していますのでご注意ください。

例：最近2週間のうち、その半分以上の期間を、明るく、楽しい気分で過ごした場合には、右上の角に3と記されている箱をチェックする。

	最近2週間、私は・・・	いつも	ほとんどいつも	半分以上の期間を	半分以下の期間を	ほんのたまに	まったくない
1	明るく、楽しい気分で過ごした。	5 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/>	0 <input type="checkbox"/>
2	落ち着いた、リラックスした気分で過ごした。	5 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/>	0 <input type="checkbox"/>
3	意欲的で、活動的に過ごした。	5 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/>	0 <input type="checkbox"/>
4	ぐっすりと休め、気持ちよくめざました。	5 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/>	0 <input type="checkbox"/>
5	日常生活の中に、興味がたかくさんあった。	5 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	1 <input type="checkbox"/>	0 <input type="checkbox"/>

- 利用者の成果・変化に関する指標設定及びアンケート作成は、以下を参考とした。



### 厚労省 介護一歩手前の「フレイル」健診 来年度から実施へ

2019年10月29日 14時51分

後期高齢者の質問票

	質問文	回答
1	あなたの現在の健康状態はいかがですか	①よい ②まあよい ③ふつう④あまりよくない ⑤よくない
2	毎日の生活に満足していますか	①満足 ②やや満足 ③やや不満 ④不満
3	1日3食きちんと食べていますか	①はい ②いいえ
4	半年前に比べて固いもの(*)が食べにくくなりましたか *さきいか、たくあんなど	①はい ②いいえ
5	お茶や汁物等でむせることがありますか	①はい ②いいえ
6	6カ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	①はい ②いいえ
7	以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか	①はい ②いいえ
8	この1年間に転んだことがありますか	①はい ②いいえ
9	ウォーキング等の運動を週に1回以上していますか	①はい ②いいえ
10	周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあるとされていますか	①はい ②いいえ
11	今日が何月何日かわからない時がありますか	①はい ②いいえ
12	あなたはたばこを吸いますか	①吸っている ②吸っていない ③やめた
13	週に1回以上は外出していますか	①はい ②いいえ
14	ふだんから家族や友人と付き合いがありますか	①はい ②いいえ
15	体調が悪いときに、身近に相談できる人がいますか	①はい ②いいえ

- 筋力などが衰えた高齢者の介護を必要とする一歩手前の状態が「フレイル」
- 厚労省は高齢者の健康寿命を延ばそうと、フレイル改善のため来年度から75歳以上の人を対象に、「フレイル」の状態になっているかどうかをチェックする健診を実施

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20191029/k10012155081000.html>

[https://jhep.jp/jhep/sisetu/kouroushou\\_new.jsp](https://jhep.jp/jhep/sisetu/kouroushou_new.jsp)



- アンケート調査実施概要は以下のとおりである。

従業員用  
アンケート

実施時期：2019年12月

対象：レコードブック事業に従事する従業員 計129人

実施方法：段階評定法を用いた

利用者用  
アンケート

実施時期：2019年12月

対象：レコードブック利用者 計342人（9店舗に実施）

実施方法：段階評定法及び自由回答法を用いた

ケアマネジャー  
アンケート

実施時期：2019年1月～2月

対象：ケアマネジャー 計153人

実施方法：段階評定法及び自由回答法等を用いた

※取得したデータの詳細は非公開としています。

- 
1. Fujisawa SST コミュニティケアの取り組み
  2. Fujisawa SST スマート&エコな暮らしの実現
  3. インターネットインフィニティー社のビジネスを通じた社会的価値の創出
  4. リエゾンワークス社のビジネスを通じた社会的価値の創出

2019年度 神奈川県 SDGs社会的インパクト評価実証事業  
実証事業 報告書

# リエゾンワークス社の ビジネスを通じた社会的価値の創出

2020年3月25日

ケイスリー株式会社



本レポートは、リエゾンワークス社の事業であるコンビニエコレジ袋広告事業について、社会的インパクト・マネジメントの手法を用い、特にSDGs達成貢献の観点からビジネスを通じた社会的価値創出のシナリオ・現状・課題を分析し、今後に向けた施策を検討したものです。

## 目次

### 本編

#### サマリー

1. 対象事業の概要
2. 社会的インパクト・マネジメント実施の目的
3. SDGs達成への貢献シナリオ
4. 価値創出力を高めるために ～社会的インパクト・マネジメントから得られた教訓～

### 添付

- I. 事業内容・目標とSDGsゴールとの関連付け
- II. 指標・評価デザイン
- III. データ分析結果

## 社会的インパクト・マネジメントの対象事業について

対象事業  
→ P115  
参照

【コンビニエコレジ袋広告事業】  
コンビニFC店舗へのエコレジ袋無償提供。  
レジ袋に広告チラシを封入する（広告収入を得る）ことで、無償提供を可能にする

事業目標  
→ P115,  
P117  
参照

事業で利益を生み、以下の2つの実現を目指す：

- ・ 福祉作業所への作業依頼を通じた利用者の生活の質向上
- ・ 温室効果ガス排出量の削減

関連  
SDGs  
→ P118  
参照



検証事項  
→ P117  
参照

【福祉作業所・利用者】

- ・ 福祉作業所・利用者に収入の安定や作業技術の向上、社会参加の実感をもたらしているか

【環境】

- ・ 温室効果ガス削減にどの程度貢献しているか
- ・ コンビニ来店者の環境意識が向上しているか

【大手コンビニ】

- ・ FC店舗と本部との関係性改善に寄与しているか
- ・ FC店舗の経営コスト削減に貢献しているか

## 検証結果と改善案

検証結果  
概要  
→ P119-  
122  
参照


データ収集困難であったが、取得した一部データとヒアリングにより以下の点が明らかになった：

- 【福祉作業所・利用者】 <データ未収集>
  - ・ 継続的な作業依頼による安定した運営への貢献可能性
  - ・ 事業運営によっては福祉作業所を圧迫してしまうリスクがある
- 【環境】 <一部データ未収集>
  - ・ エコレジ袋による温室効果ガス削減効果ありという試算
  - ・ 広告紙利用による温室効果ガス排出量の検討
- 【大手コンビニ】 <一部データ未収集>
  - ・ エコレジ袋配布枚数分のFC店舗経営コストの削減効果

改善案  
→ P123参照

- 【負の影響への配慮】
  - ・ 福祉作業所やその利用者に負の影響を及ぼさないか常に意識し事業運営する必要性
  - ・ 広告紙は次年度よりすべて再生紙に変更
- 【必要なデータ収集の必要性】
  - ・ 上述について適格に把握・対応するためのデータ収集の実施

# 1 対象事業の概要

組織名	株式会社リエゾンワークス
事業名	コンビニエコレジ袋広告事業（本事業で用いるエコレジ袋はバイオマスプラスチック30%配合のレジ袋）
事業概要	コンビニでのエコレジ袋の無償提供。レジ袋に広告チラシを封入（広告収入を得る）することで、無償提供を可能にする。封入作業は、自治体と連携し福祉作業所に依頼。2019年度は年3回の計450万枚の配布を実施。
事業が取り組む社会的課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉作業所利用者の収入安定化と、生活の質の維持・向上</li> <li>プラスチック製のレジ袋利用による温室効果ガス排出の削減</li> </ul> 
リエゾンワークス社の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンビニ広告のノウハウ</li> <li>自治体や福祉作業所との連携ノウハウ</li> <li>顧客が大手コンビニ</li> </ul>

■コンビニでのエコ（バイオマス）レジ袋無償提供×自治体との連携によるSDGsへの取り組み

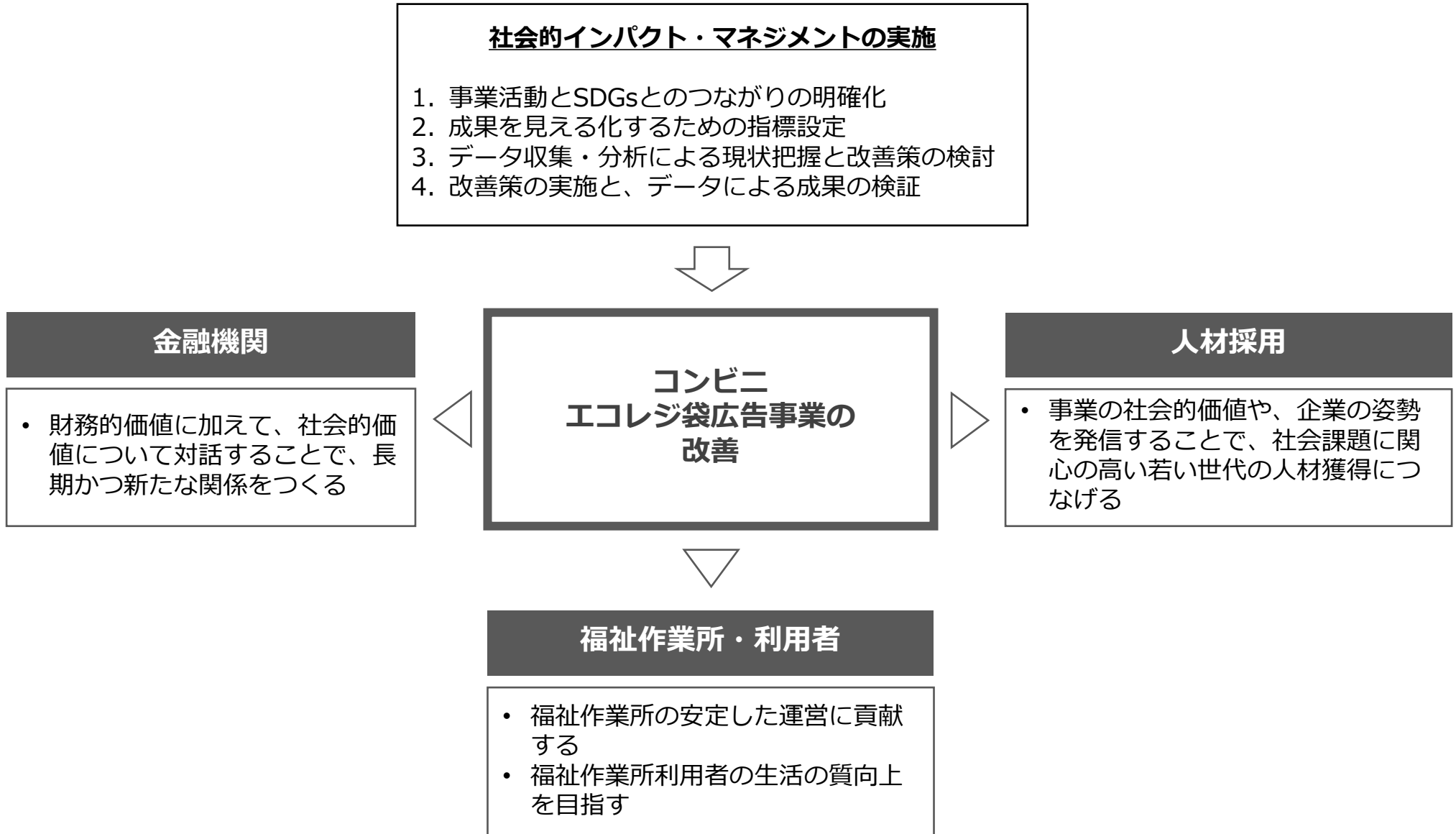


- 事業関係者**
- 福祉作業所…◎
  - 福祉作業所の利用者
  - 広告主
  - 大手コンビニ本部
  - 大手コンビニFC加盟店
- ◎…主たる受益者

\* リエゾンワークス社作成

## 2 社会的インパクト・マネジメント実施の目的

- 以下に示す目的を達成するために、社会的インパクト・マネジメントを通じたコンビニエコレジ袋広告事業の事業改善を行う。

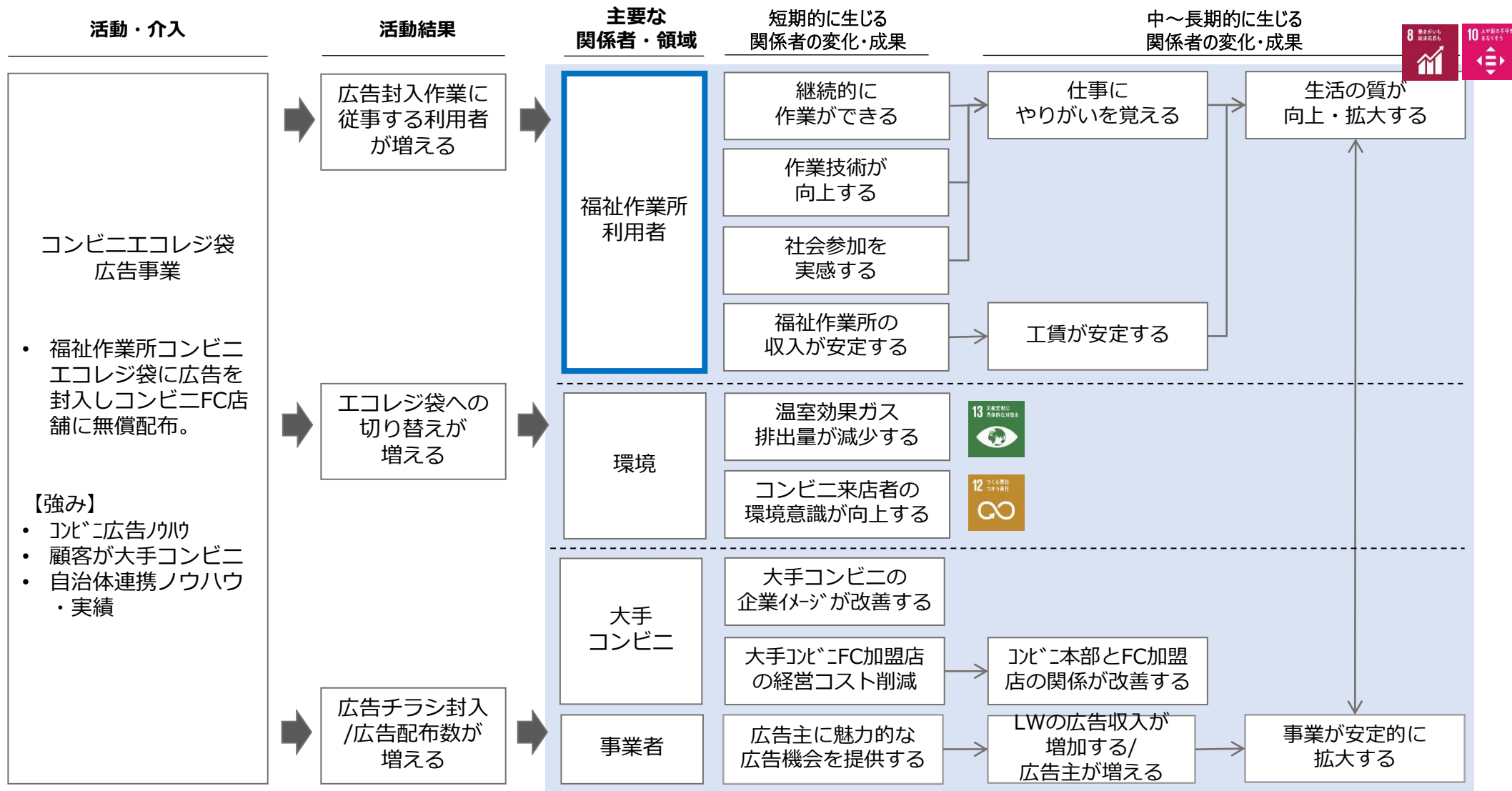


### 3 SDGs達成貢献へのシナリオ

#### 事業目標

事業で利益を生み、以下の2つの実現を目指す：






- ①福祉作業所への作業依頼を通じた利用者の生活の質向上、②温室効果ガス排出量の削減



   : 特にコミットを目指す関係者・領域

### 3 SDGs達成貢献へのシナリオ：SDGsとの関連付け

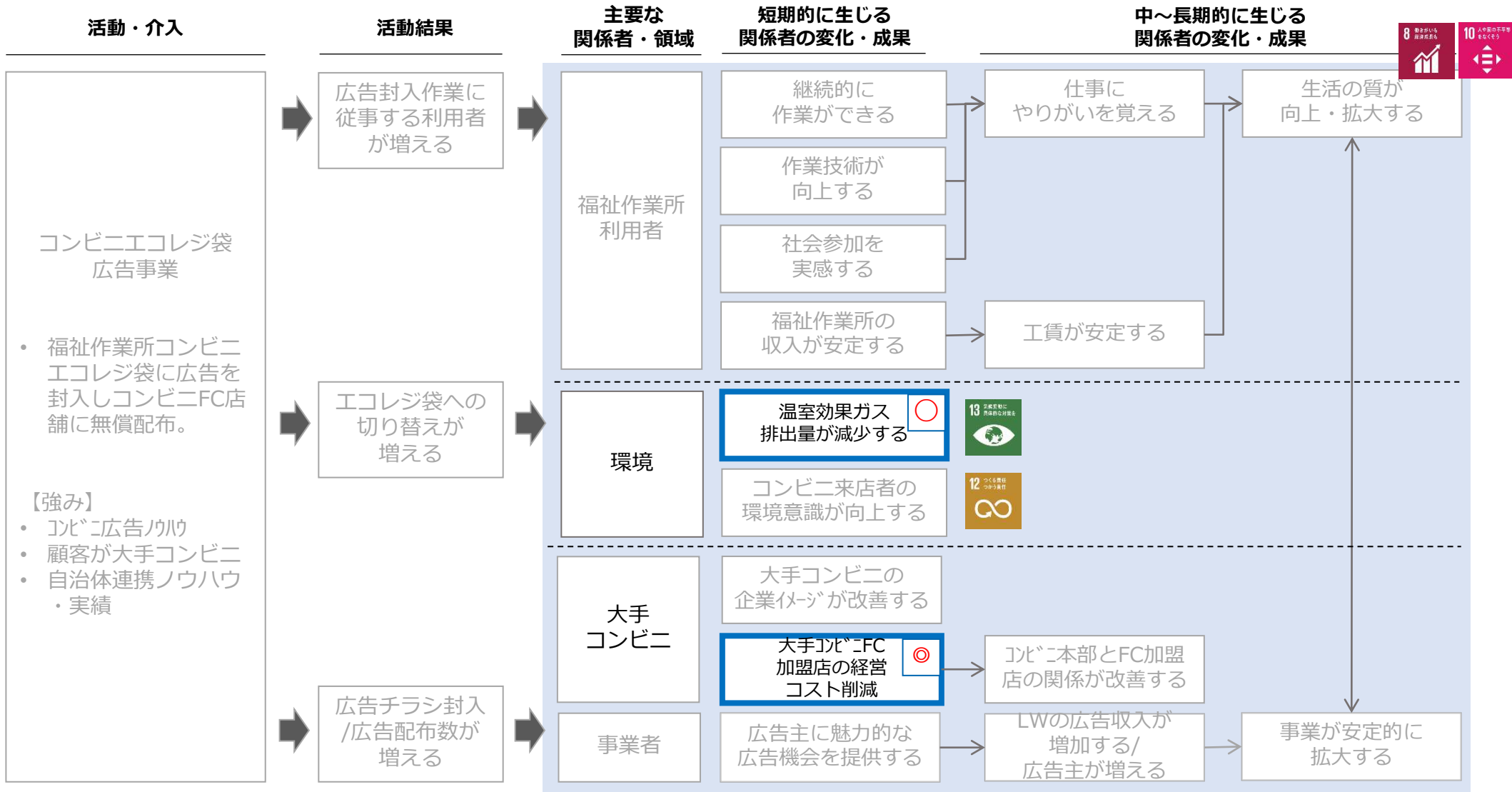
- 本事業がSDGsターゲットに対して与える正・負の影響とその理由を一覧にした。

紐づけたSDGsターゲット		正の影響	負の影響	ターゲット紐づきの解釈と理由
	2030年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、全ての人々の <b>能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含</b> を促進する。(10.2)	✓	✓	福祉作業所の利用者の経済的・社会的な包含に関わる。ただし、依頼料の設定によっては、福祉作業所やその利用者に期待する効果をもたらさない可能性がある。
	2030年までに、若者や障害者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び <b>働きがいのある人間らしい仕事</b> 、並びに同一労働同一賃金を達成する(8.5)	✓	✓	同一賃金・同一労働は難しいものの、福祉作業所利用者への働きがいのある仕事創出に関連している。ただし、依頼料や工賃の設定によっては、福祉作業所やその利用者に期待する効果をもたらさない可能性がある。
	該当ターゲットなし (本ゴールには温室効果ガスを民間事業者が削減することに関わる具体的なターゲットがない)	✓	✓	バイオマスレジ袋の利用により、温室効果ガスの削減に貢献する可能性がある。一方、広告紙利用による温室効果ガス排出も考えられる。
	2020年までに、国際協定の下での義務に則って、森林、湿地、山地、および乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系およびそれらのサービスの保全、回復、および持続可能な利用を確保する。(15.1)	—	✓	エコレジ袋内にチラシを封入していることから、事業の拡大とともに森林環境への悪影響リスクがある。
	2030年までに、人々があらゆる場所において、 <b>持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識</b> を持つようになる。(12.8)	✓	—	FC加盟店がエコレジ袋を導入することにより店舗レベルでの意識啓発に繋がる可能性がある。

✓…該当 —…非該当



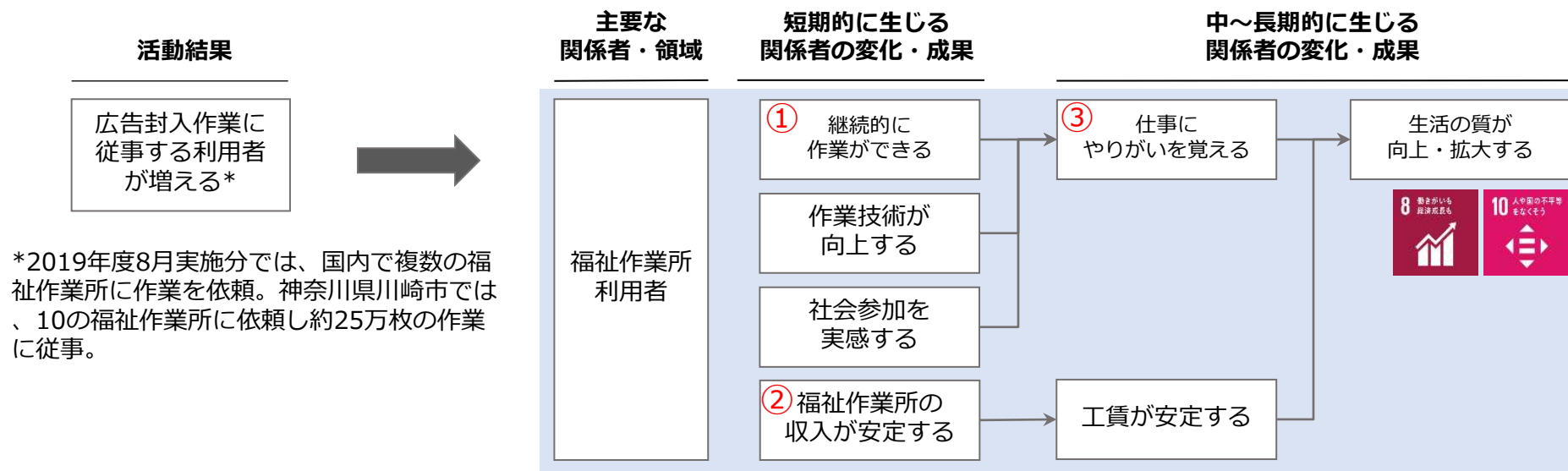
### 3 SDGs達成貢献へのシナリオ：検証（まとめ）



検証対象項目内の判定に関する凡例  
 ◎：良好な結果であり、特段の課題はない。更なる成果の増大が期待される。  
 ○：概ね良好な結果だが、一部に課題が見られる。改善策の検討・実施を要する。  
 △：大きな課題がある。早急に改善する必要がある。

   検証可能だった項目

- 福祉作業所利用者に関する変化・成果に関するデータは未収集。
- シナリオを検証するため、重要かつ測定可能な変化について指標を立て、測定する必要がある。

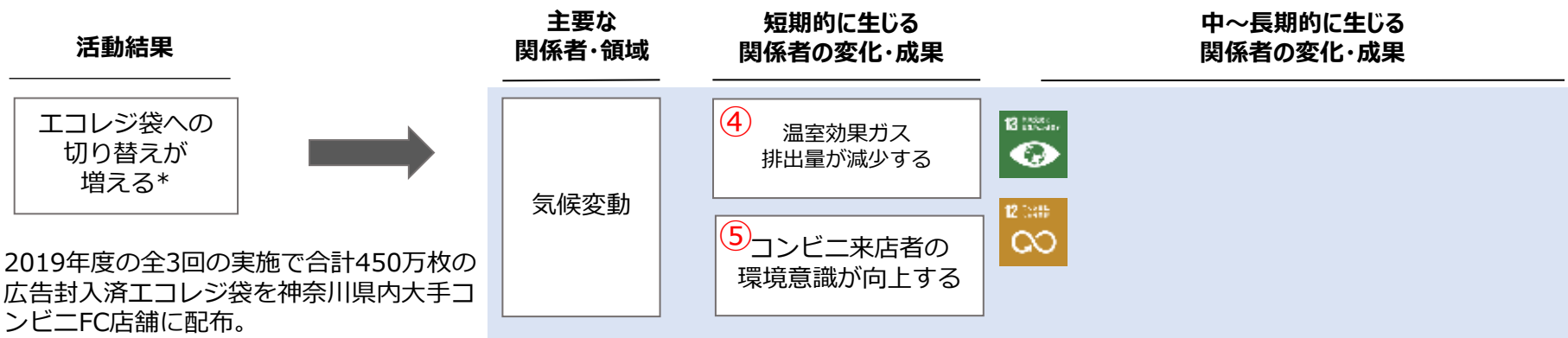


\*2019年度8月実施分では、国内で複数の福祉作業所に作業を依頼。神奈川県川崎市では、10の福祉作業所に依頼し約25万枚の作業に従事。

	変化・成果	測定結果	評価
①	継続的に作業ができる	・ —	—
②	福祉作業所の収入が安定する	・ —	—
③	仕事にやりがいを覚える	・ —	—



- コンビニ来店者の環境意識に関するデータは未収集。
- シナリオを検証するため、重要かつ測定可能な変化について指標を立て、測定する必要がある。



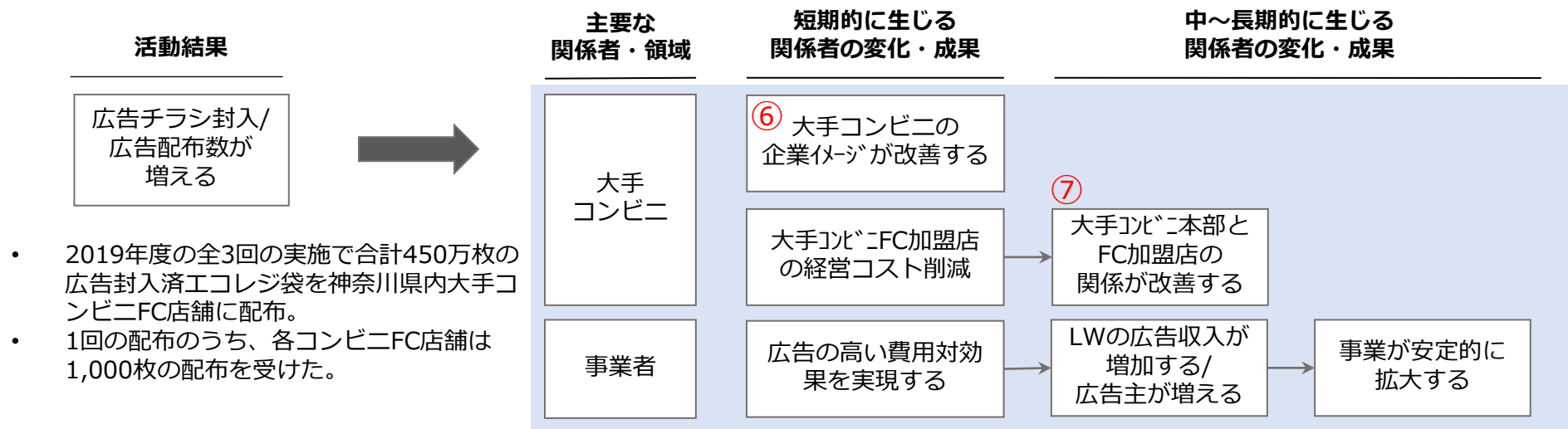
- 2019年度の全3回の実施で合計450万枚の広告封入済エコレジ袋を神奈川県内大手コンビニFC店舗に配布。
- 1回の配布のうち、各コンビニFC店舗は1,000枚の配布を受けた。

変化・成果		測定結果	評価
④	温室効果ガス排出量が減少する	<ul style="list-style-type: none"> <li>• エコレジ袋への切り替えによるCO<sub>2</sub>削減効果は14.88(t-CO<sub>2</sub>)と試算される*</li> <li>• ただし、広告紙ライフサイクルにおける温室効果ガス排出量の検討が必要。</li> </ul>	○
⑤	コンビニ来店者の環境意識が向上する	-	-

判定に関する凡例  
 ◎：数値として良好な結果であり、更に成果を増大させる施策や働きかけが期待される  
 ○：良い結果もみられるが、一部に課題があり改善策を検討し実施する必要がある  
 △：大きな課題が見つかり、早急に改善する必要がある

\* 以下に基づきケースリー試算  
 • 環境省. 2008. 『エコ・アクション・ポイントの二酸化炭素削減効果の算出手法例』  
 • 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部. 2009. 『廃棄物分野の温室効果ガス排出係数正確化に関する調査業務報告書』

- 大手コンビニに関する変化や成果に関するデータは未収集。
- シナリオを検証するため、重要かつ測定可能な変化について指標を立て、測定する必要がある。



	変化・成果	測定結果	評価
⑥	大手コンビニFC加盟店の経営コスト削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>• コンビニエコレジ袋450万枚が無償配布を受けることから、従来のレジ袋450万枚分の仕入れコストが削減される。</li> </ul>	◎
⑦	大手コンビニ本部とFC加盟店の関係が改善する	<ul style="list-style-type: none"> <li>• -</li> </ul>	-

判定に関する凡例

- ◎：数値として良好な結果であり、更に成果を増大させる施策や働きかけが期待される
- ：良い結果もみられるが、一部に課題があり改善策を検討し実施する必要がある
- △：大きな課題が見つかり、早急に改善する必要がある

## 4 SDGsへの貢献を高めるために ～社会的インパクト・マネジメントから得られた教訓～

- 関係者の変化や成果に関するデータは様々な制約により収集できなかった。
- 今後は、計画や体制を整え変化や成果に関するデータの収集から取り組む必要がある。
- 事業活動の結果データと実施したヒアリングから得られた教訓を以下にまとめる。

課題	学び	今後の施策案
負の影響への配慮	<p><b>【福祉作業所へのヒアリングに基づく学び】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 定期的に作業が発生することは福祉作業所の安定した運営の一助となるものの、依頼料が十分でないで却って運営を圧迫するリスクもある。</li> <li>• 福祉作業所利用者は広告封入されたレジ袋が利用されている店舗へ足を運ぶこともあり、そこで「やりがい」を感じているかもしれない。</li> </ul> <p><b>【温室効果ガス排出量削減効果試算からの学び】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• エコレジ袋への切り替えによる温室効果ガス削減効果は見込まれる。</li> <li>• 広告紙利用による森林伐採や紙ライフサイクル中の温室効果ガス排出も考えられる。広告紙については、紙の原料や生産過程、3R取り組み等により数値が異なる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本来貢献すべきステークホルダーである福祉作業所にリスクを及ぼしていないことを確認するためにも、実現可能性を加味しつつ、データの収集を進める。</li> <li>• 収集したデータを踏まえ、ヒアリング内容や未検証のシナリオを検証していく。</li> <li>• 広告紙に利用している紙の種類や生産過程を確認し、紙ライフサイクル全体から排出される温室効果ガスを把握する。それに基づき、利用する広告紙から排出される温室効果ガスを最小化する施策を検討する。</li> <li>• 次年度から事業に用いる広告紙をすべて再生紙とする。</li> </ul>
データ収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>• データ収集のためには、ステークホルダーデータからの協力が不可欠で、今回は取得が困難であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 事業の主要関係者と議論をし、データ収集のための体制を可能な範囲で構築する。</li> <li>• 定量的なデータのみならず、ヒアリング等を通じてモニタリング可能な方法を検討する必要がある。</li> </ul>

---

# 添付資料






- I. 事業内容・目標とSDGsゴールとの関連付け
- II. 指標・評価デザイン

# I 事業内容・目標とSDGsゴールとの関連付け①

SDGsゴール	正の影響のあるターゲット		負の影響を与え うるターゲット
	コミット するターゲット	波及効果のありうる ターゲット	
1 あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ	—	—	—
2 飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する	—	—	—
3 あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する	—	—	—
4 すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する	—	—	—
5 ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る	—	—	—
6 すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する	—	—	—
7 すべての人に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する	—	—	—
8 すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する	8.5	—	8.5
9 強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る	—	—	—
10 国内および国家間の格差を是正する	10.2	—	10.2
11 都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする	—	—	—
12 持続可能な消費と生産のパターンを確保する	—	12.8	—
13 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る	—	ゴールとの紐づけ	—
14 海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する	—	—	—
15 陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る	—	—	15.1
16 持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する	—	—	—
17 持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する	—	—	—

# I 事業内容・目標とSDGsゴールとの関連付け② <再掲>

- 本事業がSDGsターゲットに対して与える正・負の影響とその理由を一覧にした。

紐づけたSDGsターゲット		正の影響	負の影響	ターゲット紐づきの解釈と理由
	2030年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、全ての人々の <b>能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含</b> を促進する。(10.2)	✓	✓	福祉作業所の利用者の経済的・社会的な包含に関わる。ただし、依頼料の設定によっては、福祉作業所やその利用者に期待する効果をもたらさない可能性がある。
	2030年までに、若者や障害者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び <b>働きがいのある人間らしい仕事</b> 、並びに同一労働同一賃金を達成する(8.5)	✓	✓	同一賃金・同一労働は難しいものの、福祉作業所利用者への働きがいのある仕事創出に関連している。ただし、依頼料や工賃の設定によっては、福祉作業所やその利用者に期待する効果をもたらさない可能性がある。
	該当ターゲットなし (本ゴールには温室効果ガスを民間事業者が削減することに関わる具体的なターゲットがない)	✓	✓	バイオマスレジ袋の利用により、温室効果ガスの削減に貢献する可能性がある。一方、広告紙利用による温室効果ガス排出も考えられる。
	2020年までに、国際協定の下での義務に則って、森林、湿地、山地、および乾燥地をはじめとする陸域生態系と内陸淡水生態系およびそれらのサービスの保全、回復、および持続可能な利用を確保する。(15.1)	—	✓	エコレジ袋内にチラシを封入していることから、事業の拡大とともに森林環境への悪影響リスクがある。
	2030年までに、人々があらゆる場所において、 <b>持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識</b> を持つようになる。(12.8)	✓	—	FC加盟店がエコレジ袋を導入することにより店舗レベルでの意識啓発に繋がる可能性がある。

✓…該当 —…非該当

## Ⅱ 指標・評価デザイン：スケジュール

1 課題・  
事業内容整理

2 シナリオ  
作成

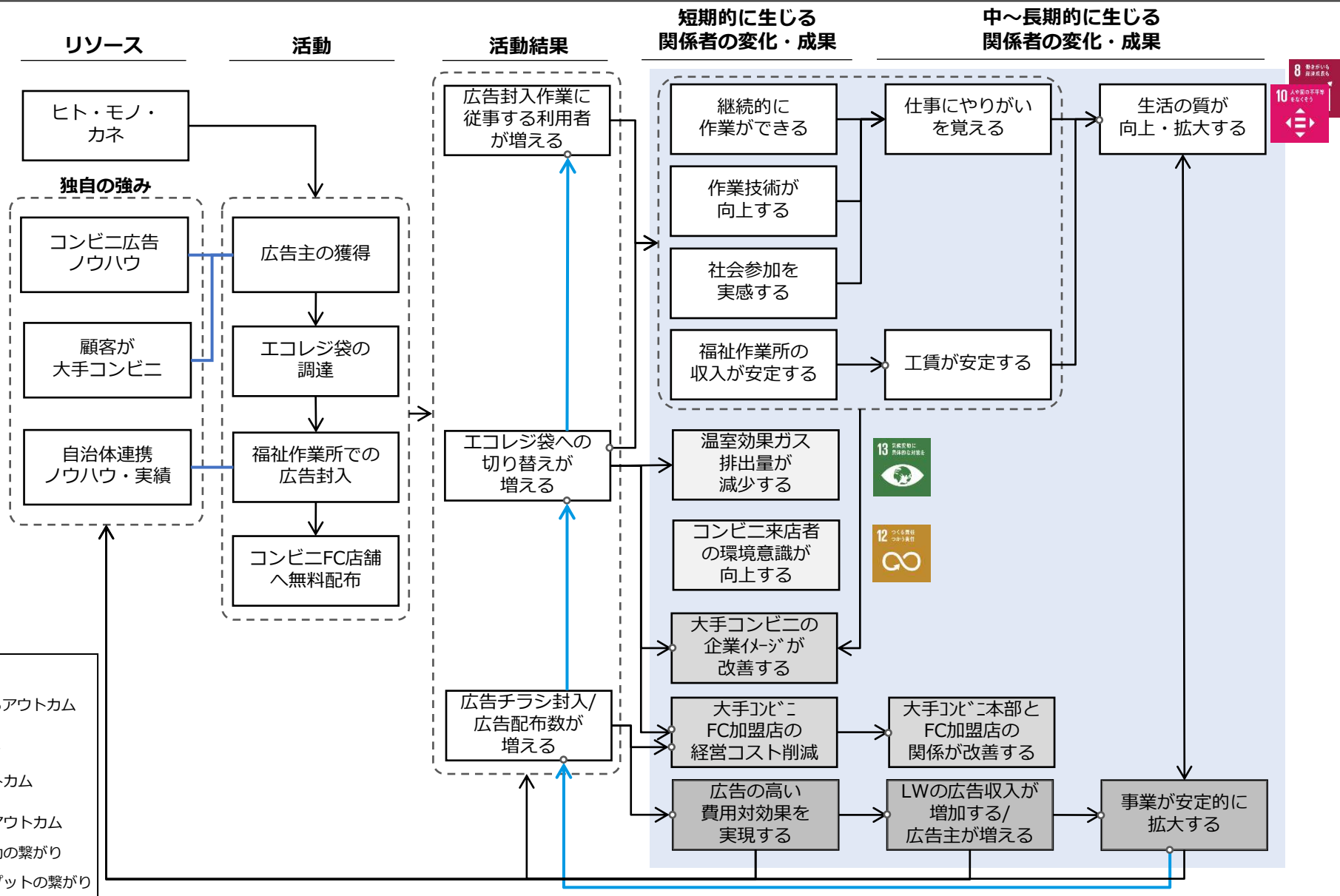
3 指標・  
測定方法作成

4 データの  
収集・分析

5 報告・活用

No.		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	マイルストーン	● キックオフ	● ロジックモデル 完成		● 指標と測定方法 設定			● 最終方向性の確認 打ち合わせ	● 最終報告
1	課題・事業内容整理 → P125-126参照	ヒアリング ・整理							
2	シナリオ作成 → P128参照		作成						
3	指標・測定方法作成 → p129-130参照				指標セツト 作成				
4	データの測定・分析					測定	分析		
5	報告・活用					学びの抽出		とりまとめ 作成	

**事業目標** 事業で利益を生み、以下の2つの実現を目指す：  
 ①福祉作業所への作業依頼を通じた利用者の生活の質向上、②温室効果ガス排出量の削減



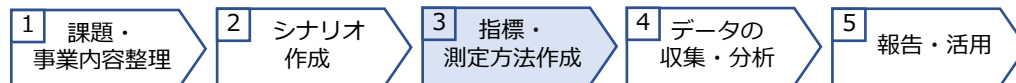


- シナリオを検証するうえで、重要な変化・成果の項目とその指標と測定例を掲載する。

関係者領域	関係者の変化・成果	評価設問	指標	収集方法	備考
福祉作業所利用者	利用者が仕事にやりがいを感じる	リエゾンワークス社によるエコレジ袋への広告封入作業依頼によって、利用者はやりがいを感じているか。	福祉作業所とその利用者の満足度	アンケート及びヒアリング	利用者によってはアンケート回答が困難あるいは補助が必要なことも想定される。必要に応じてヒアリングに変更する等の工夫を要する。
	福祉作業所の収入が安定する	リエゾンワークス社によるエコレジ袋への広告封入作業依頼は、福祉作業所の収入安定に寄与しているか。	福祉作業所への1件あたり平均発注額、及びそれを踏まえた福祉作業所の意見	自社データの収集と福祉作業所へのヒアリング	福祉作業所への発注データを確認し、各依頼回ごとの福祉作業所への1件あたり平均発注額を計算する。それに基づき福祉作業所にヒアリングを実施する。
環境	温室効果ガス排出量が減少する	コンビニレジ袋をエコレジ袋へ切り替えることにより、どの程度温室効果ガス削減効果が見込まれるか。	レジ袋切り替えによる温室効果ガス削減効果試算	自社データの収集と試算	試算方法はⅢ章参照。 なお、広告紙利用による温室効果ガス排出量についても検討する必要がある。
大手コンビニ	コンビニ来店者の環境意識が向上する*	リエゾンワークス社のコンビニエコレジ袋の利用により、コンビニ来店者及びFCオーナーの環境意識は向上するか。	事業対象となるコンビニFC店舗オーナーとエコレジ袋を受け取った消費者の環境意識	アンケート及びヒアリング	来店者へのアンケートの利用は実施が困難なことが想定される。そのため、事業のなかでクライアントへヒアリングを実施しながら検証する。
	大手コンビニ本部とFC加盟店の関係が改善する	リエゾンワークス社の広告入りエコレジ袋の無償配布は、大手コンビニ本部とFC店舗の関係改善に寄与するか。	大手コンビニ本部とFC店舗の関係性	ヒアリング	事業のなかでクライアントへヒアリングを実施しながら検証する。

\*令和2年7月1日から従来のレジ袋は有料化されるため、当該項目の変化へ影響を及ぼすことが考えられる。

## Ⅱ 指標・評価デザイン：測定スケジュール例



- 関係者からの協力が前提となる指標もあり、当該項目では実施が難しくなる可能性もある。
- 定常業務のなかに組み込むかたちで実施すると、円滑に進められる可能性が高まる。

### 指標測定スケジュール案<イメージ>

測定指標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
福祉作業所とその利用者の満足度	アンケート・ヒアリング 項目の整理		協力依頼と状況に応じた アンケート・ヒアリングの実施			結果の分析・考察			福祉作業所や利用者 の変化や成果について 改善策の検討			
福祉作業所への1件あたり平均発注額、及びそれにもとづく福祉作業所へのヒアリング	事業計画時の 各種データ確認・整理		協力依頼と状況に応じた アンケート・ヒアリングの実施			結果の分析・考察			福祉作業所や利用者 の変化や成果について 改善策の検討			
10L袋切り替えによる温室効果ガス削減効果試算	温室効果ガスの 試算範囲の検討	エコレジ袋枚数と チラシ枚数の確認		温室効果ガス 削減効果の試算		温室効果ガス排出について 改善策の検討						
事業対象となるコンビニFC店舗オーナーとエコレジ袋を受け取った消費者の環境意識	クライアントへの協力依頼/ 実施に関する調整		状況に応じた アンケート・ヒアリングの実施			結果の分析・考察						
大手コンビニ本部とFC店舗の関係性	クライアントへの協力依頼/ 実施に関する調整		状況に応じた アンケート・ヒアリングの実施			結果の分析・考察						